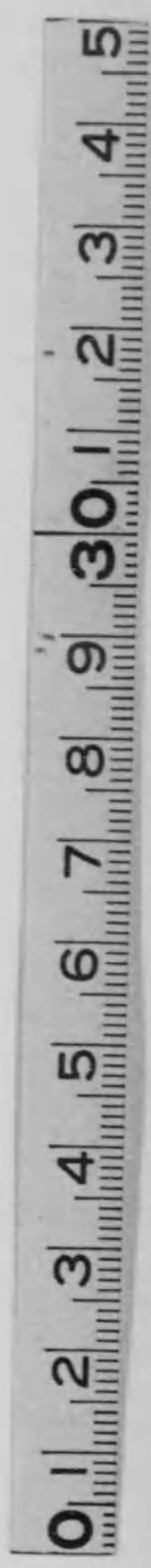




始

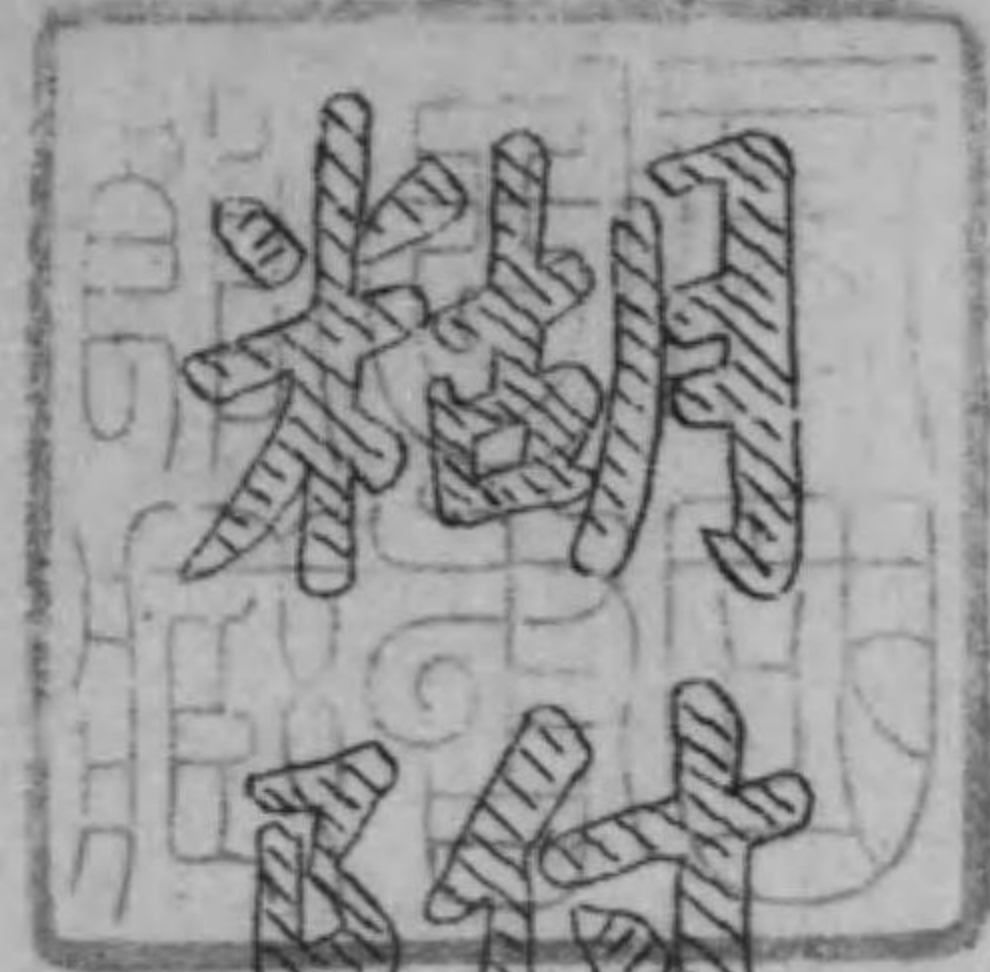


新附機標準働作

11
416

糊
附
機
標
準
備
作

11-416



糊付
機標
準働
作

大正
10. 2. 1
内交

(目1)

糊附機標準動作目次

第一章 総論	1
第二章 朝、始業	2
(1) 役付者、注意	2
(2) 調合方、注意	2
(3) 台持工、動作	2
(4) 注意事項	2
(オ-表) 朝、始業動作順序	3
第三章 運転	5
(1) 「ビームブレーキ」	5
(2) 石馬紙	5
(3) 「ビーム」上、系切レ	5
(4) 「スキージングローラー」	5
(5) 「サイジングネル」	5
(6) 「スキージングローラー」木綿	5
(7) 乾火薬	6

[目2]

[8] 糊通中、糊	6
[9] Lブラシユ	6
[10] テバイディングロット	6
[11] Lカットマーク	6
[12] シーキングバーシャフト	7
[13] Lワードローラー	7
[14] Lウキバーズビーム	7
[15] 監視、要領	7
[16] 糊調合用ベック	8
第四章 晩、終業	9
(1) 終業時、注意	9
(2) 乾燥程度	9
(3) 速度	9
(4) 糊液面	9
(5) 上水	9
(6) Lサイスホイラー中、糊	9

[目3]

(表) 晩、終業動作順序	10
第五章 Lフブビーム、切替	13
(1) 切替時、注意	13
(2) Lビーム、切替順序	14
(表) Lフブビーム、切替順序	15
(旧ビームヲ運ビ去ル迄)	
(表) Lフブビーム、切替順序	17
(新ビームヲ入ル、動作ヨリ)	
第六章 Lウキバーズビーム、切替	24
(1) 切替、注意	24
(2) 切替、順序	24
(表) Lウキバーズビーム切替順序	25
第七章 掃除	29
(1) 運転中、掃除	29
(2) 切替時、掃除	29

(目次)

(3) 交代日又、交代前日大掃除 29

第八章 注油 30

(1) 回数 30

(2) 順序 30

糊付特別研究

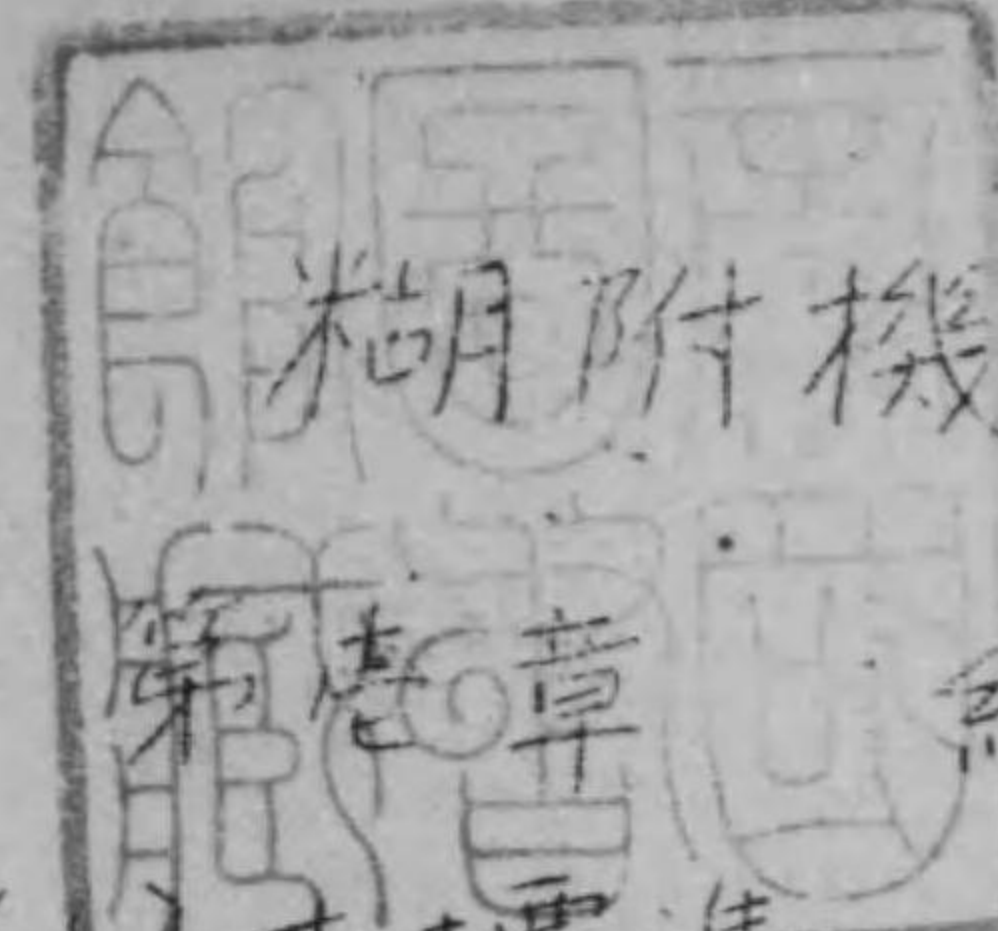
(1) スリルノ摩擦抵抗 1

(2) ビームブレーキノ抵抗 7

(3) ビームブレーキノ決定 8

(4) ゲージ及ブレーキノ使用法 11

(5) ビームノ掛ケ方 12



糊付機標準働カ作

第一章 総論

(1) 本標準ハ「プラット」式「スラシヤ」
サイジングマシンニ準據シテ之ヲ制
定ス

(2) 糊付注意事項

- (1) 操業ノ親切
- (2) 速度ヲ遅クスル
(蒸気ヲ下ゲ能フ限リ遅クス)
- (3) 糸ノ牽伸ヲ少クスル
- (4) 相当ノ湿度ヲ持タセル
- (5) 糊ヲ浸シ込マセル
- (6) 充分ニ煮ル
- (7) 良質ノ原料ヲ用ル

(2)

第貳章 朝、始業

(1) 役付者、注意

ドレン水ヲ除クコト

(2) 調合方、注意

華氏 130°-140° = 煮沸ス

(3) 台持工、動作順序

(第壹表) 参照

(4) 注意事項

(1) 糊ヲ煮ルコト

成ル丈ヶ速ク蒸気ヲ送ル

(2) シリンダー内、蒸溜水

成ル丈ヶ速ニ除去スル

(2)

(第壹表) 朝、始業動作順序

	台持 (前)	助手 (後)
1	メインストップバルブヲ用キパイプ中、蒸溜水ヲ除ク (但シセパレーター、トラップ、前夜ヨリ開放、終)	プレスローラーヲ上ゲカット、リンクヲ調フ
2	ローボックス中ノ上水ヲ採取ル (水ト糊トノ混合物ハベックニ戻ス)	
3	セパレーター、トラップノ高度ニ閉ゲテ新糊ヲロードシ、煮沸ス	湯ヲ如露ニ用意シスキージングローラーヲ濡ス
4	シリンダー スチームバルブヲ閉ク (糊煮沸中ニ)	
5	シリンダーセーフバルブヲ閉シスピンドルニ注	子ル及上弁ヲ用意シ煮沸セタル糊ヲ加

(4)

油ス	露=用意ス
6 スキージングローラーヲ下ロス	
7 テンションローラーヲ下ロス	ラインマ-ションローラーヲ下ロス
8 コツパーローラー ⁷ 附 ^付 糸=糊ヲカケル	
9 子ル ⁷ 及布ヲ巻キツ、スロー ⁷ ニテ運転	
10 適時 ⁷ コンベルト ⁷ ヲヨセテ運転ヲ速クス	シリンダー ⁷ ドレ-ン ⁷ ヲ機ニ適時 ⁷ ドレ-ン ⁷ コック ⁷ ヲ閉ツ

(5)

第参章 運転

(1) レビ-ム ブレーキ⁷

1吋、革ヲ使用シテ全部廻ハルモノヲ使用ス

(2) 石馬紙

1様=捲キ上ゲルタメ=「ワーピング」⁷ヨリ石馬紙ヲ挿入シアルモノ

(3) レビ-ム⁷ 上、糸⁷ 土カレ

「スロー-モ-ション」⁷ニテ「ナイフ」⁷ヲ用ヒ糸ヲ土カリ取ルベシ

(4) スキージングローラー⁷

子ル⁷ 巻クハ「ラシャ」⁷、新ラシキモノヲ使用ス
軽キ糊ヲ付ルキハ、軽キローラー⁷ヲ使用ス

(5) 「サイジング」⁷ 子ル⁷

(6) スキージングローラー⁷ = 巻ク木綿

15「オンス」乃至16「オンス」物ヲ使用ス(底古)

[6]

(中新)(上中古)枚数、3枚ヲ要ス。
端ノ糸ヲ4.5本取除キテ平均ニ捲
クコト。金巾木綿ヲ1枚捲付ケ横巾
ニ使用スルコト。各捲付布ハ時々洗
濯スルヲ。

[7] 乾燥

金巾等、薄物ハ小シリンダー⁷、蒸
汽ヲ充分下ゲルコト

[8] 糊 函中、糊

ローラー⁷、シヤフト⁷ノ中心マテ

[9] シブラシユ⁷

糊濃キハ必ず湯水ヲ用フベシ

[10] シテバイテングロット⁷

糸道、付カヌ様ニ注意シ時々位置ヲ
変更スルコト

[11] 図 図 図、マツ間隔ヲナシ置ク

[7]

コト(移リ⁷カット⁷ニナラス様)

(12) シーキングバーシヤフト⁷

此ノシヤフト⁷ハ、ロム⁷ニ一様ノ広損
ヲ禁ヘル様仕掛ケアリ

(13) ウードローラー⁷

直径9吋ニシテ之、表面ニ木綿1
枚ヲ捲キ付ケルコト

(14) ウォーバースビーム⁷、捲キ方

ビーム⁷ノ表面ヲ水平ニシ固ク長キ糸ヲ
捲キ且ツビーム⁷、全巾ニ於テ一様ナル
直径ニ捲ク

[15] 監視ノ要領

(1) 押⁷ネジ⁷、弛ミ

(⁷キートル⁷、押⁷ネジ⁷其他)

(2) 乾燥検査

(手加減ニテ為ス)

(8)

(3) 速度

(ビーム終止=トル=ツルテ運転ヲ遅
クス)

(4) フリクション⁷ノ強サ

(5) スチームトラップ⁷

(シリンダー⁷ヨリパイプ⁷方時々検査ヲ
シ分解手入ヲ行フ)

(6) ブレーキ⁷

(7) スチームプレッシャー⁷

(8) 田舎ノ崩レ

(成ルベクビーム⁷切替ノ時=入替ス)

(16) 糊調合用レベック⁷

(許ス限リ大+ラシムルコト)

(9)

第四章 晩、終業

(1) 終業時、注意

(1) 切断箇所、コト

満シビーム⁷、時=トス(約1300"前)

(2) 乾燥程度、コト

系ヲ焦ガスアルバ蒸気ヲ止メル=注
意スルコト

(3) 速度、コト

運転ヲ止メル前=速度ヲ遅クスル⁷

(4) 糊液面、コト

コツパローラー⁷ハ液ノタメ腐ル恐レアリ
(糊ヲ離レル程度マデ上ゲルベシ)

(5) 上水、コト

冬期中糊ハ固クナル=ツキ上水ヲ打ツ

(6) サイズボイラー⁷中ノ糊

(10)

(2) 晩、終業動作順序

	台持(前)	助手(後)
準備	機台、掃除	クール ⁷ 下横通路 ノ掃除
1		熱湯ヲ如露ニ用 意ス
2	助手=シリンダーステ ームバルヴ ⁷ 閉鎖 ノ合図ヲナス	合図=ヨリ此ノレバ ルヴ ⁷ ヲ閉ツ
3	コンベルト ⁷ ヲヨセ 速度ヲ弛メル	
4		各 ⁷ ステームバルヴ ⁷ ヲ 閉ツ
5	メートル ⁷ ヲ見テ適時 助手=シリンダードレ ンコック ⁷ 開放ノ合図ヲ	左側=廻リ台持ノ合図 ト共=シリンダードレ ンコック ⁷ ヲ閉ク

(11)

	ナス	
6	適時運転ヲ止ロ トシ後部=廻リ 来リ停転ス	インマーシヨンローラー ⁷ ヲ上ゲ糊ヲ振ヒ 落ス
7	更ニ数吋運転シテ 系=糊ノ附ケル部分 ヲ絞リ停転ス	テンシヨンローラー ⁷ ヲ上ク
8		スキージングローラー ⁷ ヲ上ク
9		コッパローラー ⁷ ヲ洗フ(湯ニテ)
10		キヤリコ ⁷ 及ビ最上層 ⁷ ノ子ルヲ剥ク
11		糊ヲベック ⁷ =戻シ其面ヲコッパロー ラー ⁷ ヨリ3吋計リ=下ク
12	セパレーター ⁷ ノトラップ ⁷ ヲ開ク	キヤリコ ⁷ 及シネル ⁷ ヲ洗 濯桶=漬ケル
13		プレスローラー ⁷ ヲ下 ゲ機台全体ノ掃除

(12)

	スル	
14	退場回際=糊ノ 上水ヲ打ツ	
15		退場

(13)

第五章 「フープ」切替

(1) 切替時ノ注意

(1) 運転速度ノコト

「ボビン」トナルニ從ヒ系切多キタメ運転速度ヲ遅クス

(2) 系切喰込ノコト

(3) 乾燥程度ノコト

「リンドー」ノ系ニ故障ヲ生スルタメ早く蒸
汽ヲ止メル

(4) 台持工ノ注意

(5) 「フープ」仕掛ノ順序

「ビ」ノ広キモノヨリ前ニ掛ケルコト

(6) 「ビ」ヲ擔クコト

「フック」ニ掛ケテ担クコト

(7) 田畔系ノ入レ方

「結」目ヨリ約5呎位ノ處ニ「バンド」

(14)

ヲ入レルコト

(8) 揃へ系ノコト

裂目ヲ奥ニ入レヌヌ× 4.50本位ノ
揃系ヲ入レル

(9) 糊取替ヘノコト

コックヨリバケツニテ汲ミ取り約2"
位洩シテ其上ニ新糊ヲ入レル

(10) 糊米白ノ附着ノコト

メートルノ合セ方ハ助役其任ニ当ル

(2) ワームビームノ切替順序

(1) 旧ビームヲ運ビ去ルマテ
(オ三表) 参照

(2) 新ビームヲ入ル、動作ヨリ
(オ四表) 参照

(15)

(第三表) ワームビームノ切替

(旧ビームヲ運ビ去ルマテ)

	台持 (前)	助手 (後)
1	シリンダーノローラー ニ系ノ巻付キナキヤ リースロットニ系ノ連 レ付キヤヲ注意ス	絶ヘズクリールノスキー ジグローラーノツパーロ ーラーノインマージョノロー ラーノ等ヲ巡回シ 系切ニ注意ス
2		熱湯ヲ如露ニ用 意ス
3	適時シリンダース ームバルヴヲ閉ツ	
4	適時他ノ各スター ームバルヴヲ閉ツ	
5	停転間際ニドレ ンコック開放ノ合図	シリンダードレ ンコックヲ開ク

[16]

	ヲナス	
6	「フ-フ°ビ-ム」ヨリ出ヅルシートヲ見テ糸ノ切断個所附近ニ「マーク」(糸割リ)ス	
7	「スロ-モ-ション」トス	「イン-マ-ションローラー」ヲ上ゲ糊ヲ振ヒ落ス
8	停転ス	
9	「スキ-ジ-ングローラー」ヲ上ク	
10	「コ-ッパ-ローラー」ヲ洗フ	「テンションローラー」ヲ上ク
11	糸ヲ切断シ端ヲ「ロット」ニ巻付ク	「ビ-ムブレーキ」及「クリールキャップ」ヲ外ス
12	屑系ヲ戻ス	
13	「ビ-ム」ヲ運去ル	

[17]

(第四表) 「フ-フ°ビ-ム」ノ切替
〔新「ビ-ム」ヲ入ル、重カ作ヨリ〕

	台持(前)	助手(後)
1	新「ビ-ム」ハ「フレンヂ」ノ中、目方ヲ様ニ順序ヲ定ム	通路ヲ掃除シ「クリール」ヲ古布ニテ清拭ス
2	必要ニ応ジテ「ブラスガイドローラー」及「テンションローラー」ヲ掃除	
3	「ビ-ム」ヲ「カバー」ノ内「クリール」ニ掛ク	
4	「ビ-ム」ノ中心線ヲ揃フ	「ブレーキバンド」ヲ掛ケ「クリール」ニ注油ス (但「ウエ-ト」ハカケズ)
5	旧糸及揃糸ヲ2.3.4.5ノ間ニ入ル (必要ニ応ジ)	

6	レビム ⁷ 2本宛其ノ系端ヲ結ビ合ス	
7	揃系群系ヲ入レハ凡テ、系端ヲ1ノビム ⁷ ノ上ニ持来ル	
8	結ビ玉ヲ1レビム ⁷ ノ上ニセ鉄棒ヲ拔取ル ⁷	鉄棒ヲ片付ケ規定ノウエト ⁷ レブレーキ ⁷ ニ掛ク
9	新旧両系端ヲ結合ス	レビッドローラー ⁷ 及トツブケンローラー ⁷ ヲ掃除シ此ノ下ノ床ヲ掃除ス
10	レメーンバルウ ⁷ ヲ用キドレーン ⁷ ヲレセパレーター ⁷ ヨリ抜出シテクランプ ⁷ ヲ1対4 ⁷ シリンダーバルウ ⁷ 次ニレホイリングバルウ ⁷ ヲ用ク	左傾リニ廻ル
11	レテンションローラー ⁷ ヲ	

	下シスロー ⁷ ニテ運転ヲ掛ク	
12	残レル群系ヲ入レル	
13	系ノ割目ヲ手ニテ揃ヘル	
14	結ビ目がレコッパローラー ⁷ ヲ越ヘタル時停転ス	
15	レスキージングローラー ⁷ ヲ下ス	
16	運転ヲレスロー ⁷ ニカケル	レインマーシヨンローラー ⁷ 糊中ニ2.3ロ寸下ス
17		群系が糊面ヲ入テタルレインマーシヨンローラー ⁷ ヲ規定ノ深サニ下ス
18	レバント ⁷ ガレスキージ	

	ングローラーヲ去リタ ルキ半運転ヲ掛ク	
19	レバンド ⁷ が大シリン ダ ⁷ 上=来リシキ スロー ⁷ =ス	クリール ⁷ ヲ1周シ系 切特=耳部=注意 ス
20	全運転ヲ掛ケレバ ンド ⁷ が小シリンダ ⁷ ヲ離レシ頃シリン ダースチームバルウ ⁷ ヲ閉ゲ前=廻ル	
21		レバムカバー ⁷ ヲ用意 ス
22	切断スベキ個所が シークンクバ ⁷ =来 レバスローモ ⁷ レヨ ⁷ レ シレ ⁷ ト ⁷ ヲ調ベ	

	適時停転	
23	レバム ⁷ ヲ土切断シ機ヨリ下ス	
24	レース ⁷ ヲ伏セル	レース ⁷ ヲ広ゲル
25	レバインテングロッド ⁷ ヲ抜取ル	
26	系立端ヲ引張リッハ半運転ス	
27	生系ガレツコツクロー ラー ⁷ =来リシキ停 転シ米胡付系部 分ヲ切取リ迷キ 系トス	
28	レバインテングロッド ⁷ ヲ入ル	
29	スローモーション ⁷ トシ 揃ヘ系ガレース ⁷ 上 ヲ過ギシキシート ⁷ ヲ揃ヘレース ⁷ ヲ 起ス	レース ⁷ ヲ縮ム

(22)

30	手=テ耳部ヲヨセシートヲ揃ヘル	
31	停止シ屑系ヲ切斷ス	
32	カットヲ打ちレート ルヲ合ス	レールヲ持来ル
33	レールヲ台=ノセル	
34	巻付	
35	プレスローラーヲ上 ゲスローモーション =テ運転ス	後部=廻リレボイリ ングヲ始メシリンダ =蒸気ヲ送り圧 カヲ規定ヨリ稍低 クス
36	レースノ密度コレ テ細キ=過ダレバ スローノ俣再ビ 之ヲ伏セシート ヲ直ス	

(23)

37		レースヲ拵ゲ適當 ノレッチトス
38	レースヲ起シ適當 ノ巾ト位置ヲ正 ス	
39	シートヲ直ス	
40	先ヅ半運転 後全運転	圧カヲ規定=ス
41	漸次常態=ナル= 及ビレコンベルト ヲヨセ所要ノスピード ヲ出ス	
42	機ヲ一巡ス	

(24)

第六章 ヲキバースビーム切替

(1) 切替、注意

(1) 糊の温度

(2) 箴=入レル系、入替

(捲始メ=連レヲ直ス)

(3) 巻付、織付、長さ

(巻付30吋以下 織付10吋以下 合計40吋)

(2) 切替、順序

(第五表参照)

(25)

(第五表) ヲキバースビーム切替順序

	台持(前)	助手(後)
1		機台ヲ一巡シ系切 喰込等キヤヲ取調 ベビームカバー及シ空 ビームヲ用意ス
2	カットヲ打ツ部分ヨ リ適當ノ長さ丈ケ手 前=テ助手=合図シ ナイフヲ用意ス	合図=ヨリ前へ廻 ル
3	最後ノカットヲ打 ツト全時=スローモー シヨントシレピ=オツト ダイヤルホサールト絶 縁シダイヤルホサール ヲ最初ノスタートノ	

	位置=戻ス	
4	旧カットト規定時 ヲ隔テ新カットヲ キニテ打テレオン トダイヤルホキールト ヲ喰合ス	
5	プレスローラーヲ下 ゲル	ビームノ回転ヲキニテ 目カク
6	旧カットガ ^レ ツ#ツ4 ローラーヲ約12.3 時ヲ起エタル時 停止シ駆込系ヲ切リ イト=ングスクルーヲ キル	切斷スル際 ^レ ツ#ツ4 ローラー上ニテ ^レ フー ヲ押ヘル
7	ビームヲ下ス	
8	スローモーションニ掛	ビームヲ掛ク

	ケル	
9	停止レビームスピ ンドルヲ ⁴ 筋×タイト =ングスクルーヲ ⁵ 帝 キル	
10	停止トスローモーショントヲ混用シツハ レヤンビームノ布片ニ糸端ヲ結び付ク	
11		左側レビームスピンドル ヲ廻シフランジ止メニ 密着セシム
12	プレスローラーヲ上ク	
13	スローモーショントス	後部ニ廻リ ^レ ボイリング ヲ調整ス
14	半運転ニシレースノ 位置伸縮度ヲ合ス	
15	駆込速度ヲ合ス	後部ヲ一週ス

(28)

16	全運転ヲ掛ク	
17	機台ヲ一周シ糸切 巻付「ボイリング」ノ 状態等ヲ取調ブ	「フルビーム」ヲ「カバー」 シ片付ク

(29)

第七章 掃除

(1) 運転中ノ掃除

(1) 回数

(2) 用具

(2) 切替時ノ掃除

(3) 交代日又ハ交代前日ノ大掃除

(1) 「カバー」ノ掃除

(イ) 綜梳帚ニテ外側ヲ掃キ出ス

(ロ) 「ソーボックス」全部糊ヲ空ニナシ

湯ヲ煮ル(吐囉ニ行フコト)

(2) 「ソーボックス」及「ブラシ」附属品掃除

(3) 機台ノ掃除

刷帚ニテ行フ。油穴ヲ注意ス

(4) 床掃除(水洗ヲ行フ)

(5) 箆掃除

(6) 「ビードローラー」ノ掃除

{30}

第八章 注油

(1) 回数

(毎朝全部行フ)

(2) 順序

(「クローラ」ヨリ始マリ順次「ヘッドス
トック」方 = 行フ)

(完)

{1}

粘附特別研究

(1) 「クローラ」ノ「擦抵抗」

(FIG 1. 2. 参照)

T = 1本ノ「ビーム」ヨリ出ル全体ノ系
ノ「張力」

W = 「ビーム」ノ「重量」

F = 「ベヤリング」ニ「僅カク」「フリクション」ヲオ
「ス」ノ「合計」

μ = 「ベヤリング」ノ「スライディング」フリクシヨ
ン」ノ「コ-エフシセント」

M_1 = T 或ハ F = ヨリ「ビーム」ヲ「廻」サン
トスル「モーメント」

D = 「ヤーンビーム」ノ「径」

d = 「シャフト」ノ「径」

トスレバ下式ガ成立ス

[2]

$$M_1 = T \times \frac{1}{2}D = F \times \frac{1}{2}D \dots \dots (1)$$

然ルニ F 一般ニ

$$F = \mu W \dots \dots \dots (2)$$

而シテ スライディング ベロシテ⁷、小ナルヲ以

テ μ 一定ト考フ

∴ (1) 式ハ

$$T = \mu \frac{d}{D} W \dots \dots \dots (3)$$

or

$$M_1 = \frac{1}{2} d \mu W \dots \dots \dots (3)$$

実験ニヨリテ μ 見出シタルニ

$$\mu = 0.169 \text{ 十リキ}$$

而シテ $d = \frac{7}{8}$ 且ツ $W \Rightarrow D$ ノフアン

クニヨリテ表ハセバ

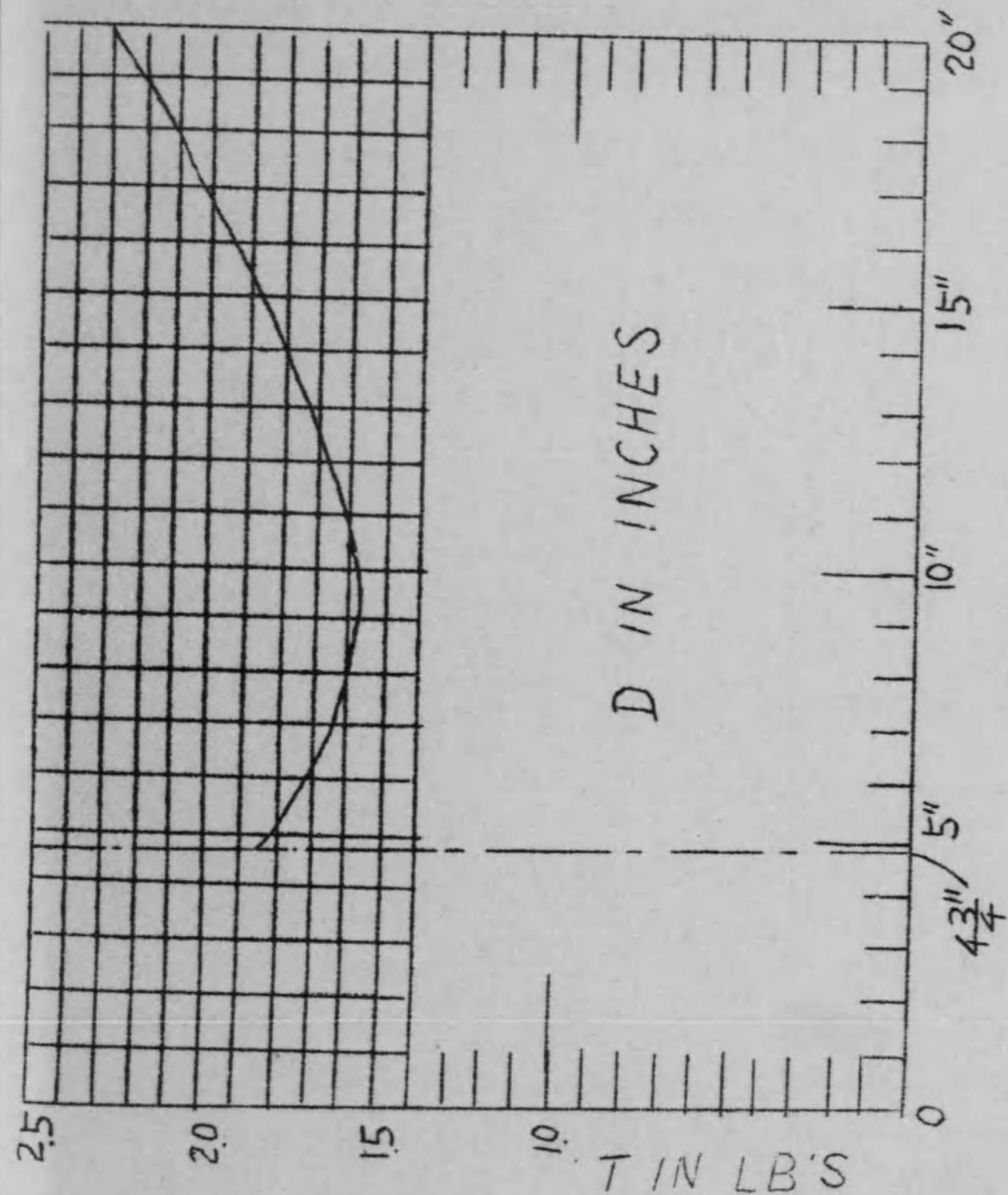
$$W = \frac{\pi}{4} (D^2 - 4 \frac{3}{4}^2) \times 56 \times W + 60$$

今 $\frac{1}{2}$ インチノ目方 = 60 封度

$W =$ 糸 1 立方吋ノ目方 = 0.0145 封度

[3]

FIG 1



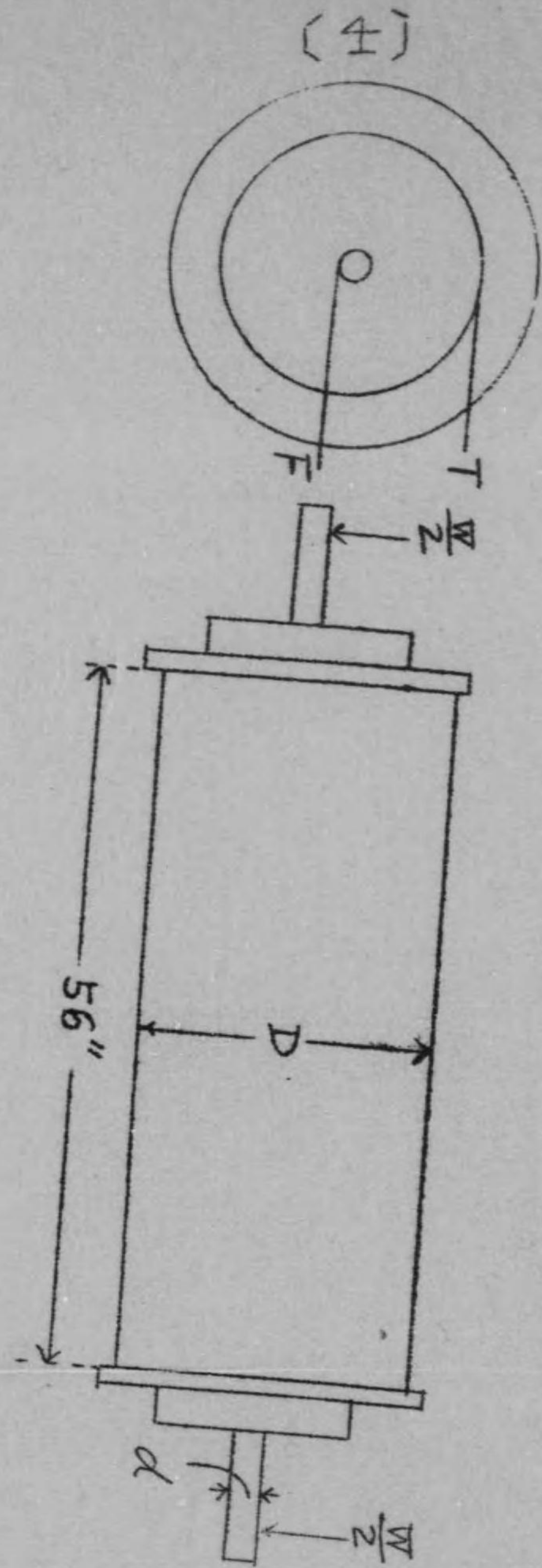


FIG 2

(5)

トセバ

$$W = 0.636 D^2 + 45.7 \text{ lbs}$$

之レヲ (3) 式ニ入ルレバ

$$M_1 = 0.047 D^2 + 3.38 \text{ --- (1)'}$$

及

$$T_1 = 0.094 D + \frac{6.76}{D} \text{ --- (3)'}$$

(1)' (3)' 式ニヨリ

径ノ変化ニ伴フ系ノベヤリングフリクション

ノハニヨルレジスタングモーメント及ビ系ノ

張力ヲ計美セバ表ノ如シ

(6)

第一表

D	M ₁	T ₁
4 $\frac{3}{4}$ "	(インチポンド) 4.43	(ポンド) 1.868
5"	4.55	1.820
8 $\frac{1}{2}$ "	6.73	1.590
10"	8.10	1.616
15"	13.96	1.861
20"	22.18	2.218

而シテ之ヲ「ダイヤグラム」ニ示セバ

図(FIG 1)ノ如シ

(7)

(2) 「ビームブレーキ」ノ抵抗

「ブレーキ」種類ニ依ル強サノ差

(1) 「ストラップ」廻リ「ボール」アルモノ 1.00

(2) 「ストラップ」廻リ「ボール」ナキモノ 1.50

(3) 「ストラップ」ノ廻ラヌモノ 3.50

ブレーキ位置	此場合ニ於ケル皮ヲ下ニ引ク力	糸ノ張力		
		ビーム径 20"ノ時	ビーム径 10"ノ時	ビーム径 5"ノ時
№ 1	11.0 lb	3.9 lb	5.1 lb	8.7 lb
2	10.2	3.8	4.8	8.2
3	9.5	3.7	4.6	7.8
4	8.6	3.6	4.3	7.2
5	7.5	3.4	4.0	6.5
6	6.3	3.2	3.6	5.8
7	5.2	3.0	3.2	5.1
8	3.6	2.8	2.7	4.1
ブレーキ無し	0	2.2	1.6	1.8

(8)

(3) レビームブレーキ決定

(1) 最後方レビームブレーキ

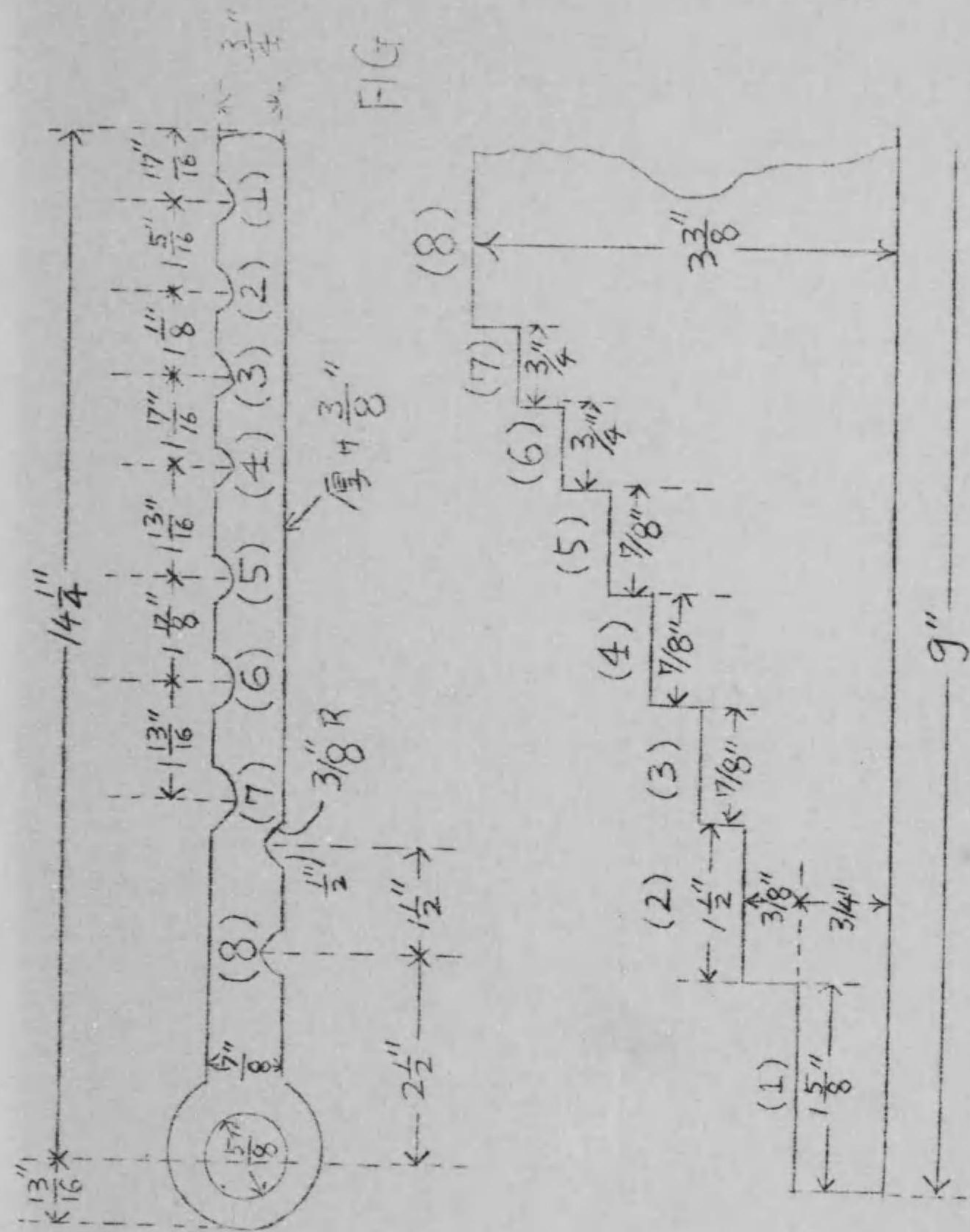
経系、張力一定トスル様ノブレーキ位置ハ図(FIG 3.4)ノ

如シ

レビーム 直径	位置	ブレーキ レバーノ 長さ(寸)	皮ヲ下ニ引 ク力 (lb)
20"	1	$13\frac{3}{16}$ "	11.0 lb
$17\frac{3}{4}$ "	2	$12\frac{1}{2}$ "	10.2
$14\frac{3}{4}$ "	3	$11\frac{3}{8}$ "	9.5
13"	4	$9\frac{15}{16}$ "	8.6
$11\frac{1}{4}$ "	5	$8\frac{1}{8}$ "	7.5
$9\frac{1}{2}$ "	6	$6\frac{1}{4}$ "	6.3
8"	7	$4\frac{7}{16}$ "	5.2
$6\frac{1}{4}$ "	8		3.6

(2)

FIG 3



(10)

FIG 4

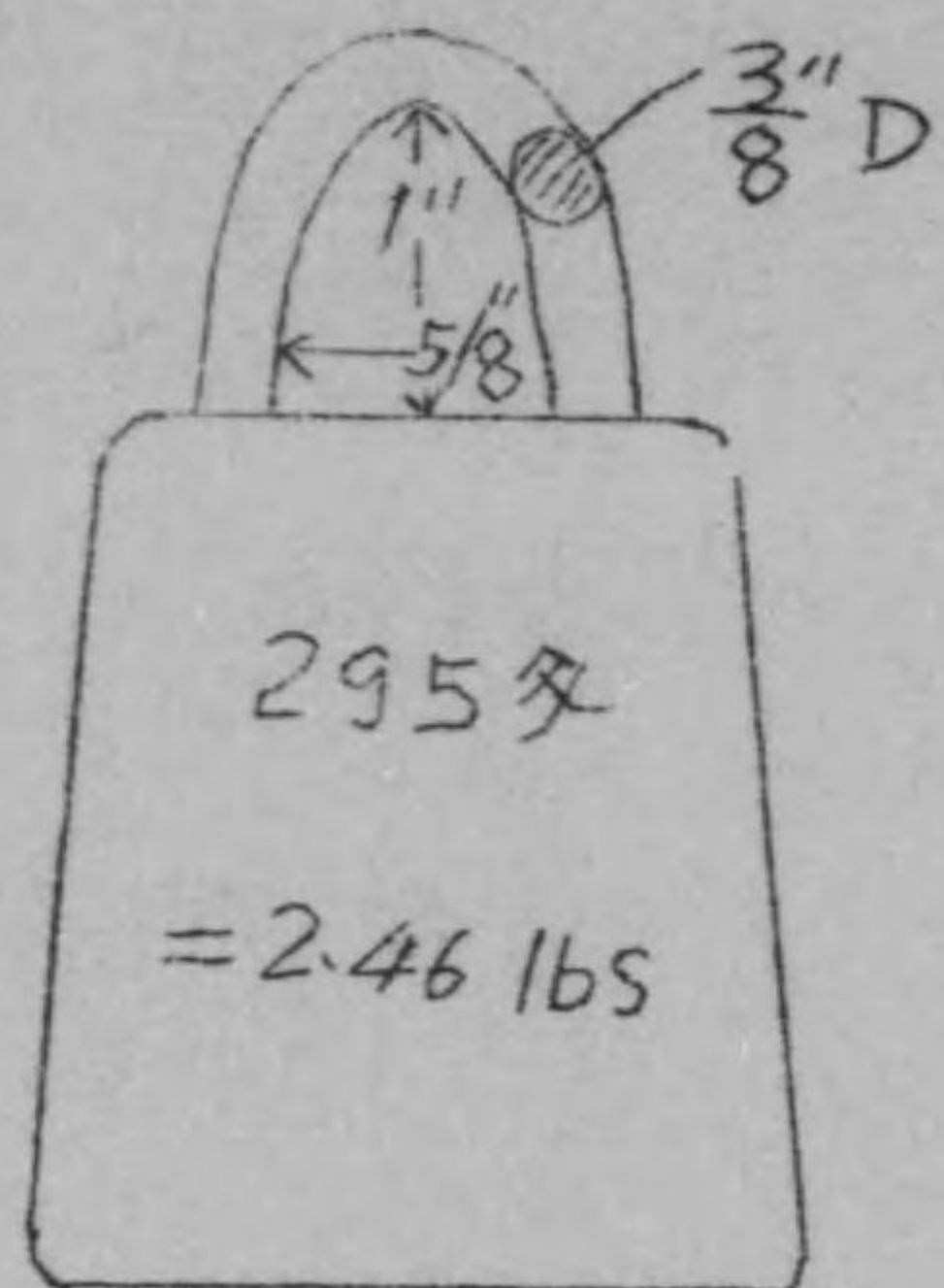
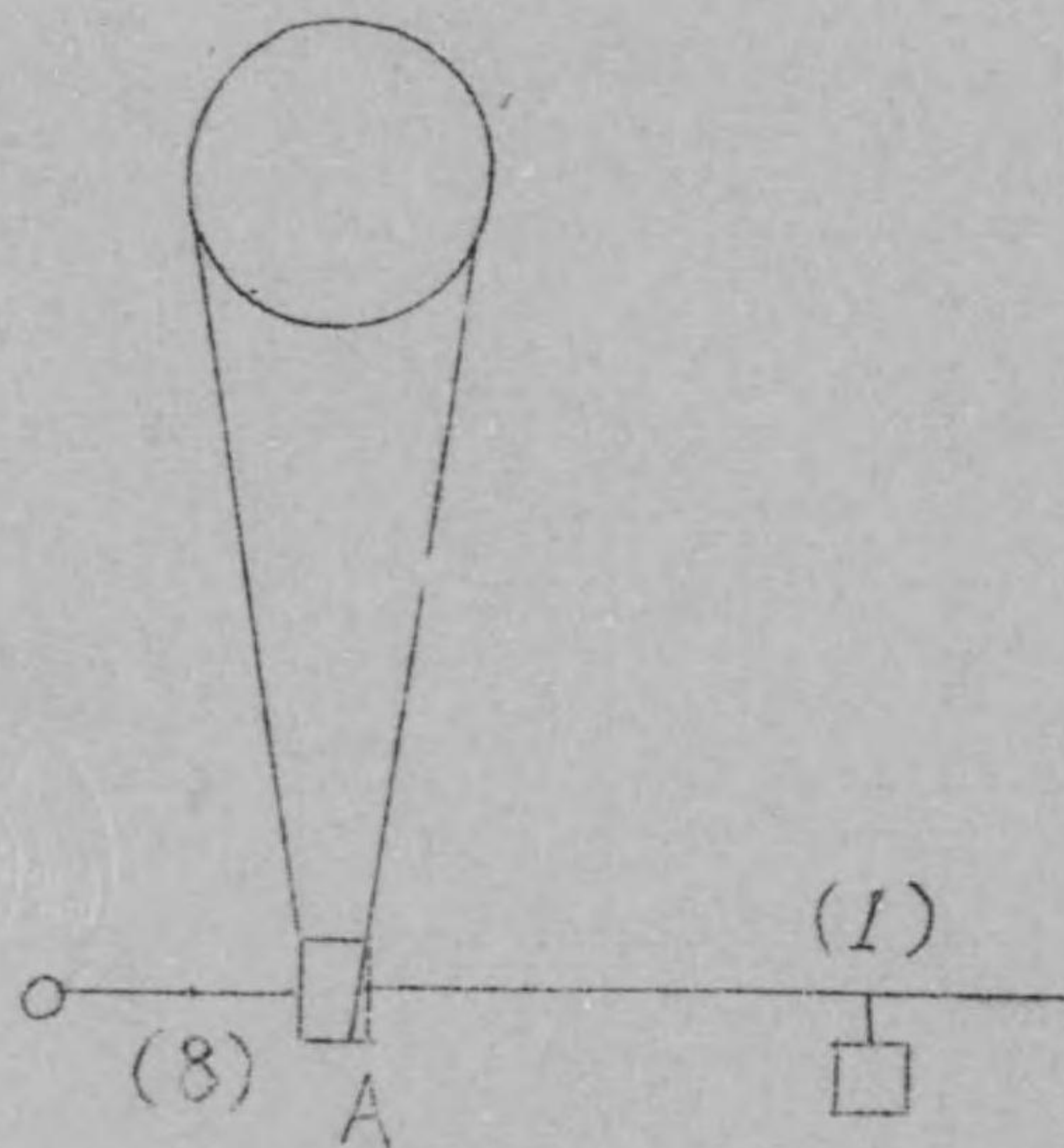


FIG 5



(11)

(4) ゲージ及ブレーキ、使用法

ゲージ=ヨリ、ビームフランチ、端ヨリ糸
マテ、高サヲ測ル

(1)-----(7)迄ハ、ブロック、ハ、図(FIG 5)

A=任掛ク、而シテ、ビームノ、大サガ、ゲ-

ジ、(1)(2)----=相応シテ、錘ヲ

レバー、(1)(2)----=カケル

(8)=末レバ、錘ヲ、外シテ、ブロックヲ(8)、

点=変位ス

(12)

(5) Lビーム⁷、掛ケ方

(A) 張力 (FIG 6 参照)

実験=ヨレバ I、場合 (6) =、最も
大ナル Lブレーキ⁷ヲ要シ (5) (4) 各漸減
シ (1) (2) 或ハ (3) ハ殆ンド Lブレーキ⁷ヲ
要セザルガ如シ

II III、方法=於テハ (2) (4) (6) ハ
其 (6) ト全量 (1) (3) (5) ハ其 (5)
ト全量、Lブレーキ⁷ヲ要ス

故=全体ヨリ云ヘバ II III ハ各 Lビ
ーム⁷ = 相当大ナル Lブレーキ⁷ヲ附セラ
ル、理=シテ=見系、張力ハ I ヨリ
大ナルガ如クニ 且モ II III、場合
=於ケル (5) (6) ノ Lブレーキ⁷ハ I、
場合=於ケル Lブレーキ⁷ヨリモ少クテ可
ナルヤモキラス。此ノ点、更ニ研究

(13)

ヲ要ス

(B) 系屑

系屑、点ヨリ云ヘバ I、場合ハ理
論上 II III、場合=比シ揃ヘ難ク
シテ系屑多キ理ナリ、然レモ實際
=於テ I、場合ト 且モ其系屑甚ダ
少クテ終リシ率少カラズ (全一ノ
Lビーム⁷、場合)

(C) 作業、難易

I、方法ハ系切レヲ切リ取ル場
合=夫レヨリ以前、Lビーム⁷ヨリ出デタル
系ヲ割リテ切ルヲ要スレモ II III ハ
比較的此、欠点少シ

然レモ II III、方法=アリテハ系ヲ
ヒネリ付クベキ部分 (隣系) ヲ見
出ス=困難ナリ

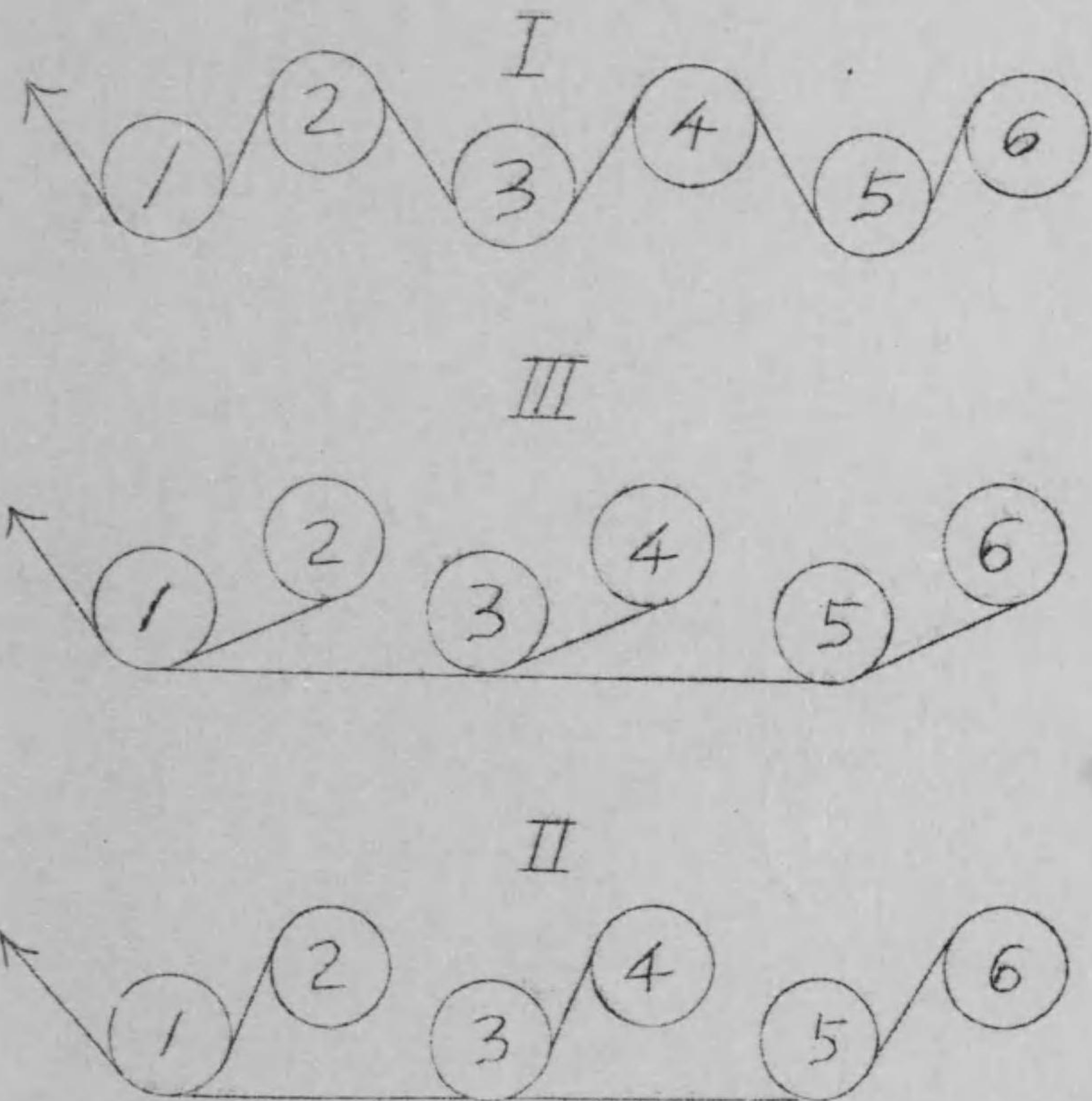
(14)

殊 = III の場合 = 於テ甚シク此、場
 合 = 於テハ殆んど切レ系ノ端ヲ具ノ
 レビームノ系 = 捻リ付クルヲ得ズ
 又 II III ハレビームノ最下部 = 系ノ
 レシートが通レルヲ以テ足ヲ踏込ミ
 テ中央部ノ系ヲ切ルハ困難ナリ
 I ハ此ノ点 = 於テ欠点ヲ見出サズ
 要スル = レビームノ掛ケ方ハ是等ノ諸
 点 = 就テ充分研究シ、延ビト系層
 トが最モ少クテ完全ナル糊付ノ
 目的ヲ達シ得ルモノヲ最上トス

(15)

FIG. 6

{レビームノ掛ケ方}



糊
附
機
握
附
及
保
全

(目次)

糊附機・据附及保全

据附法目次

第壹章 中心線	1
(1) 地取	1
(2) 墨打	2
(FIG 1) 糊附機寸法図	3
(FIG 2) 地取図(標準)	5
(FIG 3) 「クハール」地取	6
(FIG 4) 「フレムサイド」地取	6
第貳章 荒組	10
(1) 「フレムサイド」組立	10
(2) 「フレムサイド」水平	10
(3) 「バックキング」入れ	11
(4) 「シリンダー」取付け	14
(FIG 5) 機台振付中心線	7
(FIG 6) 「フロントポート」水平調整	8

(目2)

第三章 附属品取付	16
(1) ドライブシャフト	16
(2) コンドラムシャフト	16
(3) ピン付ローププーレー	16
(4) コンドラム位置決定	17
(5) 前部廻り取付	17
(FIG 9) コンドラム位置決定	19
(FIG 10) ツキッテローラーブラケット	20
(6) 後部廻り取付	23
第四章 クリール組立	26
(1) フロープレート	26
(2) クリールサイド	26
(3) スライドブラケット	26
(4) トップブラケット	26
(5) 両クリール間隔	26
(FIG 11) スライドブラケット	27

(目3)

(FIG 12) レームクリールステー	28
(6) レームクリールステー	29
組付機保全標準 目次	
第五章 廻り部分	31
(1) ドライブシャフト	31
(2) フラストプーレー	32
(3) ドラムシャフト	32
(FIG 13) ドローローラー	33
(FIG 14) フラストプーレー	34
(4) コンドラム	35
(5) クリップホルダー	35
(6) ウォードドローローラー	36
(7) ツキッテローラー	37
(8) 危険豫防装置	37
(9) ウォーバースピンドル	38

(目4)

(10) 7リクシヨレバー	38
(FIG 15) 丸新管ゴラケット	39
(FIG 16) 7スピンドルキヤツフ	40
(11) 7プレスシヤフト	41
(12) 7プレスローラー	41
(13) 7プレスシヤフトキヤツホキール	42
(14) 7ラ4アルレバーホキール	42
(FIG 17) 7プレスローラー	43
(FIG 18) 落糊受	43
(FIG 19) 7ラ4アルレバーホキール	44
(15) 7シーキングバーシヤフト	45
(16) 7デバイディングロット	45
(17) 7マーキングモーション	46
(18) 落糊受	46
第貳章 7シリンダー部分	48
(1) 7シリンダーボックス	48

(目5)

(FIG 20) 7シリンダーボックス	49
(FIG 21) 7シリンダージョナル	50
(2) 7ドライングシリンダー	52
(FIG 22) 7シリンダーバレット	53
(FIG 23) 7ソボックス	54
(3) 7アリングアテン	55
(4) 7トップキチンローラー	56
(5) 7スクラムタラツフ	56
(6) 7ラ4ユレンジンバルク	56
第三章 糊箱部分	57
(1) 7ソボックス	57
(2) 7アードパイフ	58
(3) 7ボイリングパイフ	59
(4) 7スクレンジンローラー	60
(FIG 24) 7ソボックスノパイピング	61
(FIG 25) 7スクレンジンローラー	62

(目次)

(5) コツパーローラー	63
(6) インマーレヨンローラー	63
(7) サイドレヤフト	64
(FIG 26) コツパーローラーベヤリング	65
(FIG 27) コツパーローラーペデスタル	66
(FIG 28) インマーレヨンローラーレヤフト	66
第四章 ビームクリール	68
(FIG 29) ビームクリールブラケット	71

米畑附機用具

第五章 運転用具	73
第六章 振付及保全用具	75

目次 畢

(目次)

米畑附機 据附法

(プラット式 スラシヤ-サイザ-標準)

第一章 中心線

(1) 地形

米畑附機及クリールヲ新=据付
 タル場合ノ地形ハ図(FIG 2)ヲ標
 準トス即チ全部コンクリートヲ用ヒ最
 前方ハ4寸ローラーノ手前ヨリスモール
 シンダーノ後端下迄ハ±屈下ゲ此ノ
 底部ハ掃除ノ際ノ排水ニ便ナラシム
 ル為メ附圖(FIG 2)ノ如ク傾斜セシ
 ムベシ

クリールノ機台ノ距離ハ2呎6吋
 ナル様ニ70-アプレートノ地形ヲ作ルベ
 シ

(2)

「クリール」地形ハ図(FIG 3)ノ如キモノヲ標準トシ、「フレ-4サイト」ノ地形ハ図(FIG 4)ノ如キモノヲ標準トスベシ

(2) 墨打

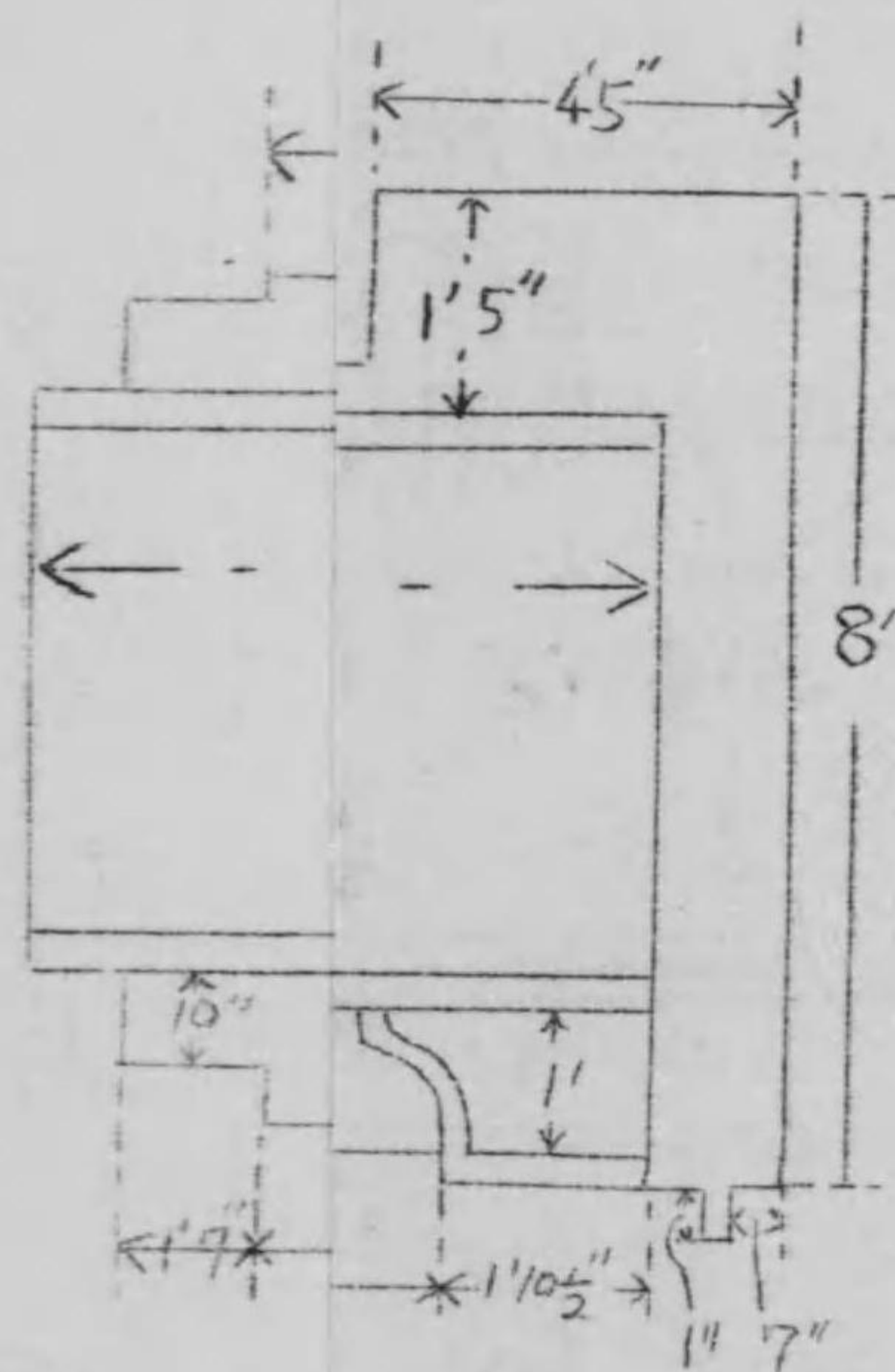
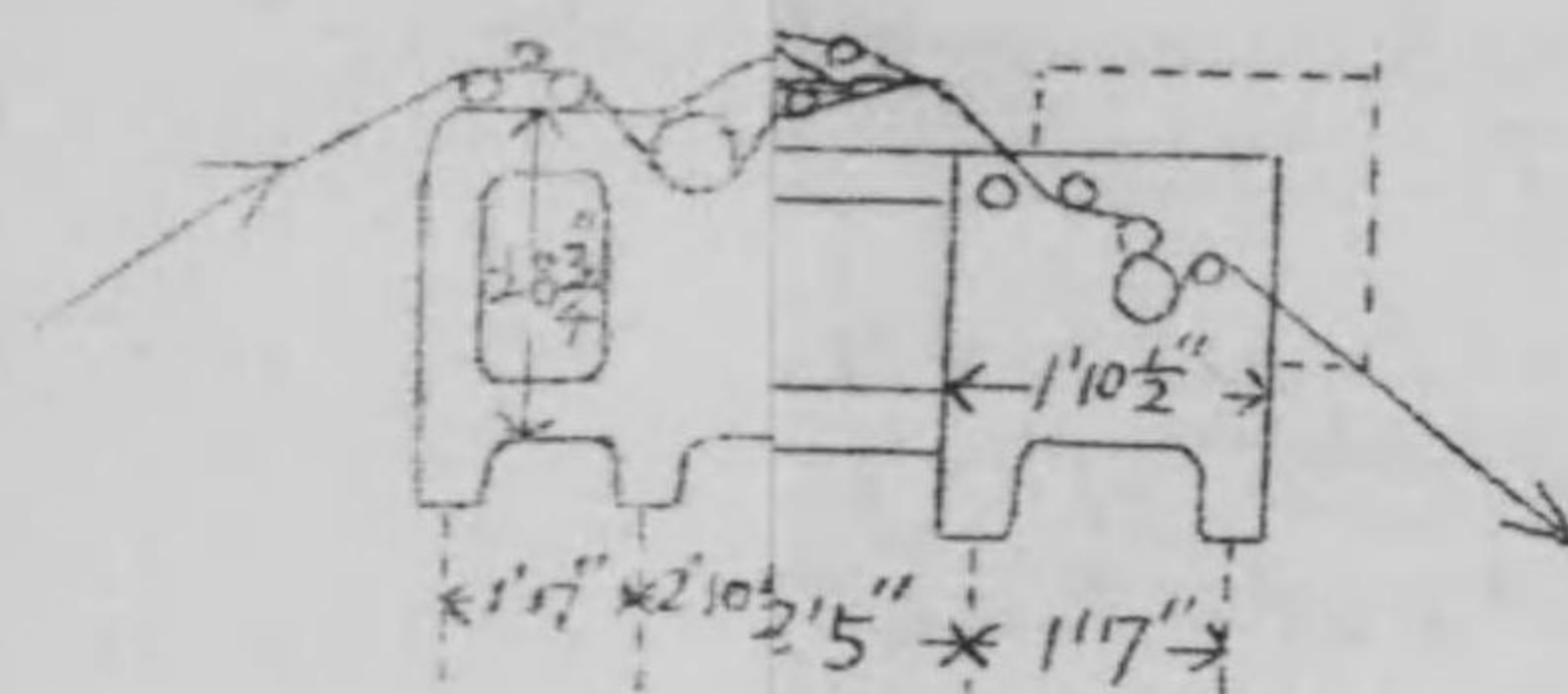
次ノ順序ニヨリ図(FIG 5)ノ如ク標準線ノ墨打ヲ行フ

(イ) 「カウンターシャフト」ノ中心線ヲ床上ニ移シ此ト平行ニ「ドライブシャフト」ノ前面ニ相当スル直線 AB ヲ引ク

(ロ) 線 AB ト直角ニ「機台」ノ中心線 CD ヲ引ク、此直線ハ地形ノ關係上完全ニ床上ニ表ハシ難キモ主要部分ニハ表ハシ墨クヲ要ス

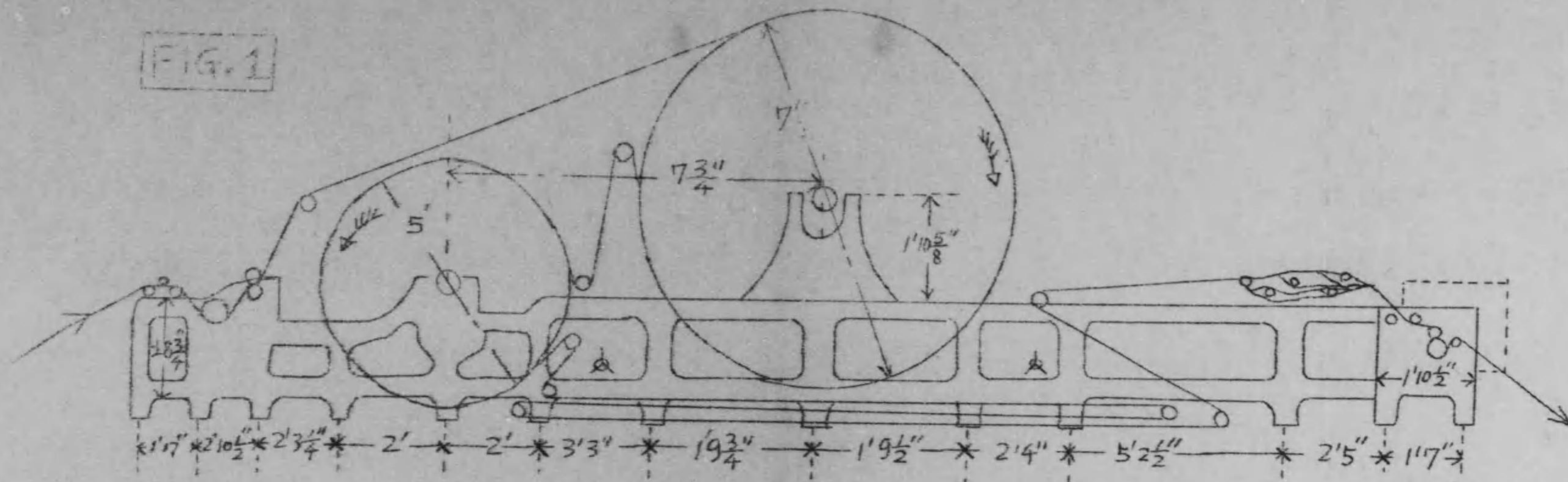
(ハ) 今様ニ「両「フレ-4サイト」」ノ中心線 EF 及 GH ヲ引ク

FIG.

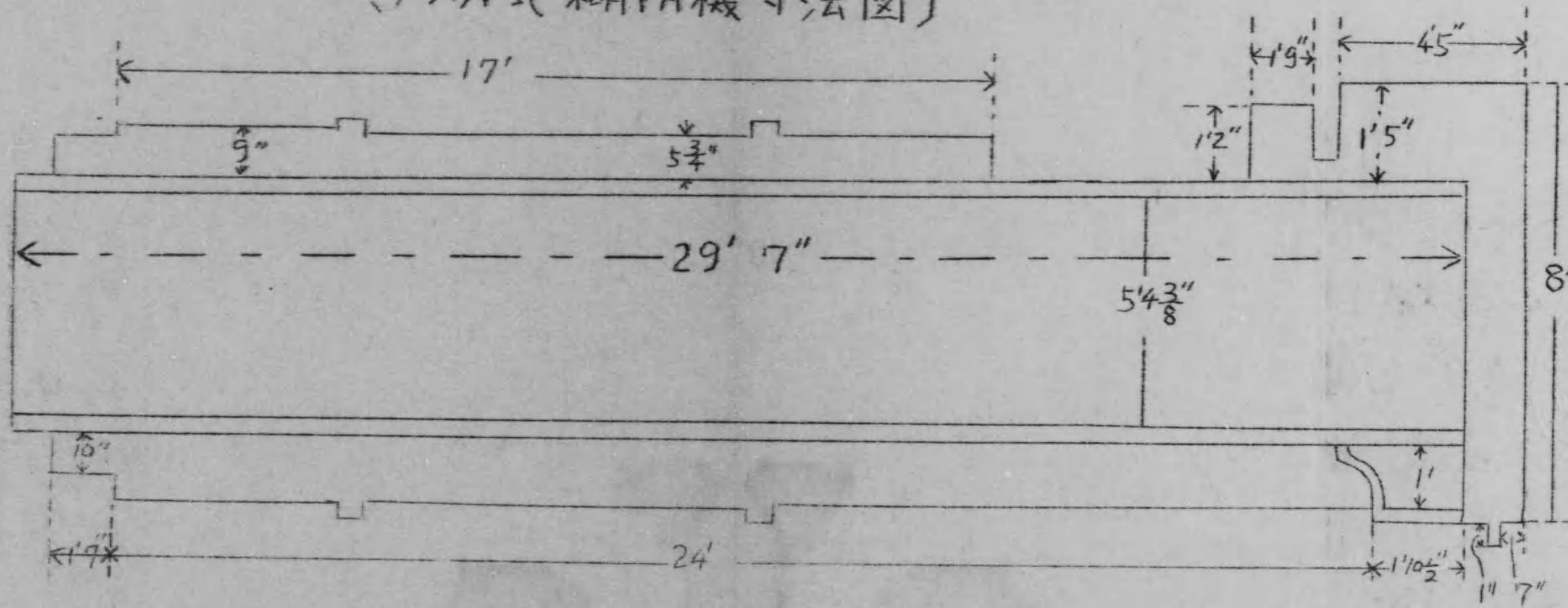


(3) (4)

FIG. 1



(プラット式 糊附機 寸法図)



(3) (4)

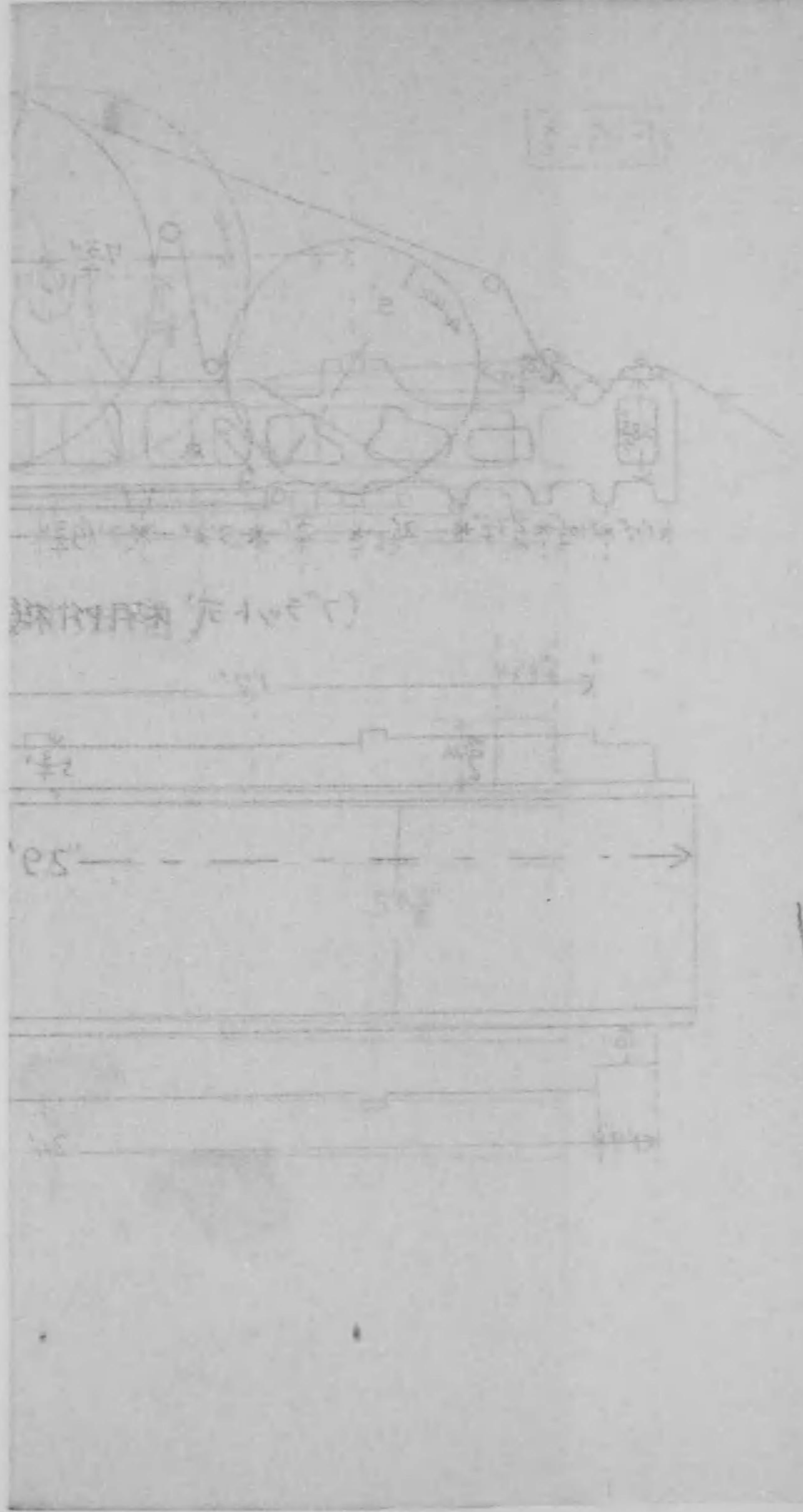
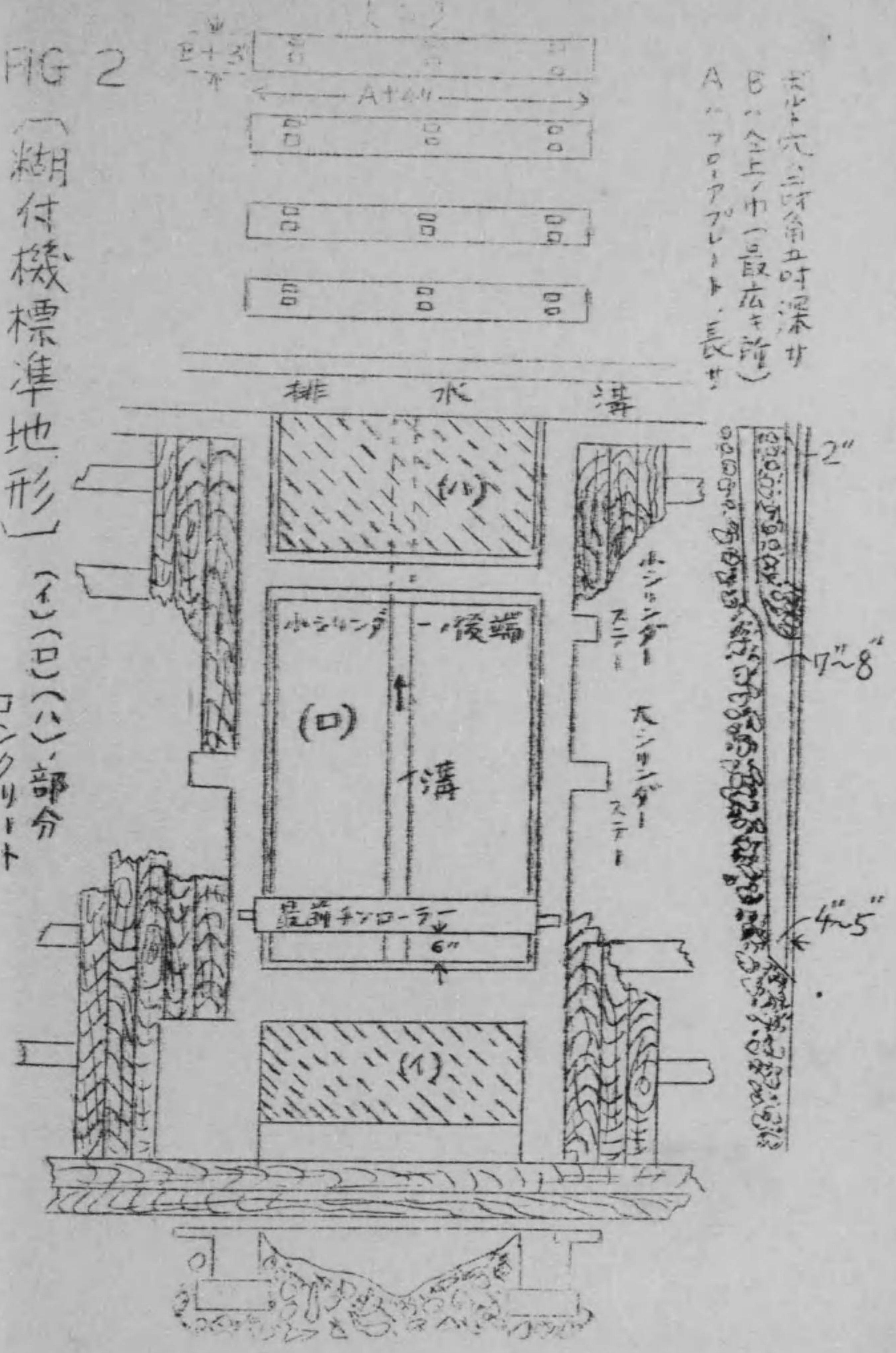


FIG 2
〔糊付機標準地形〕

(イ)(ロ)(ハ)部分
コンクリート



排水溝
A 小シリング
B 大シリング
C 溝

(6)

FIG 3

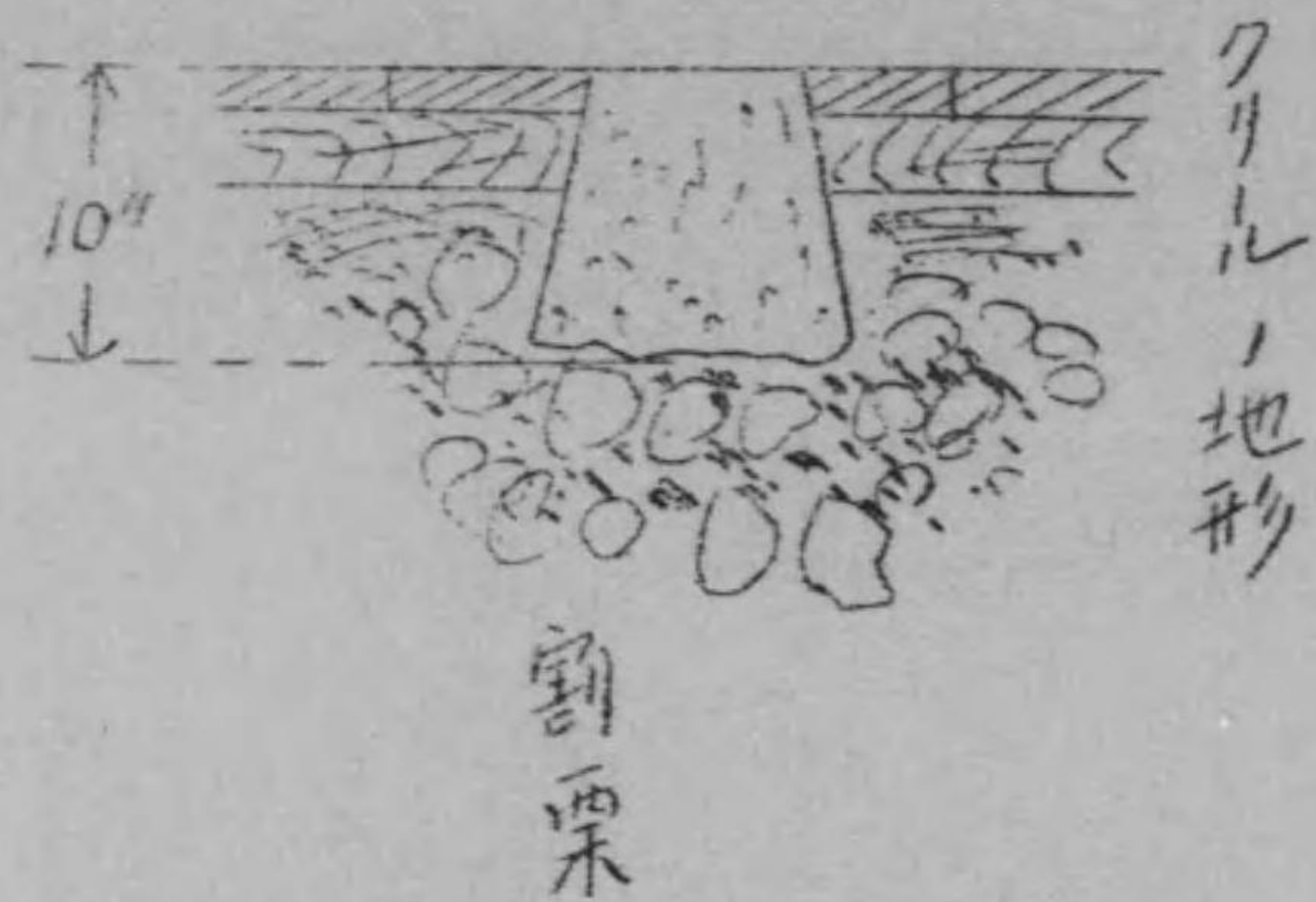
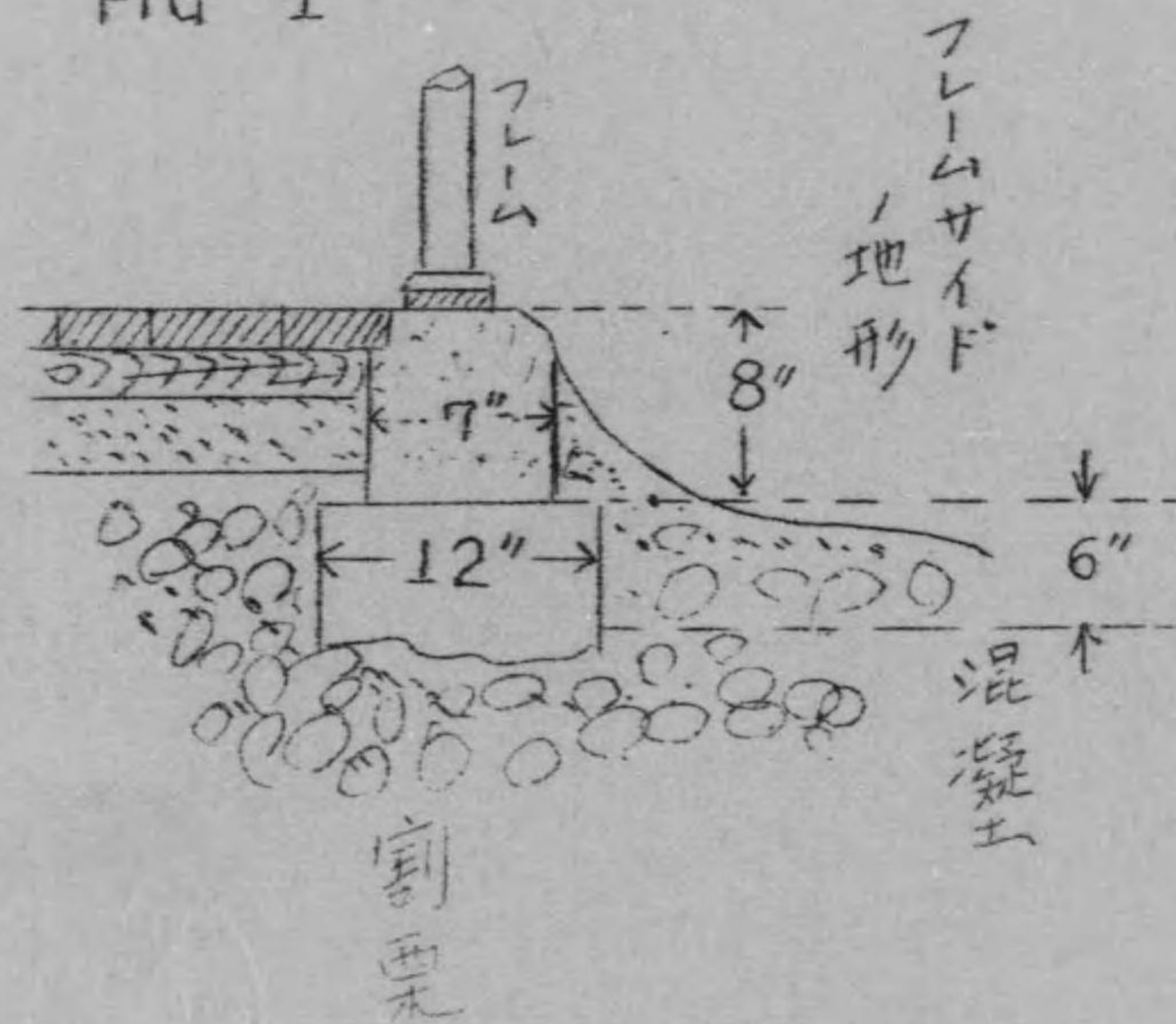
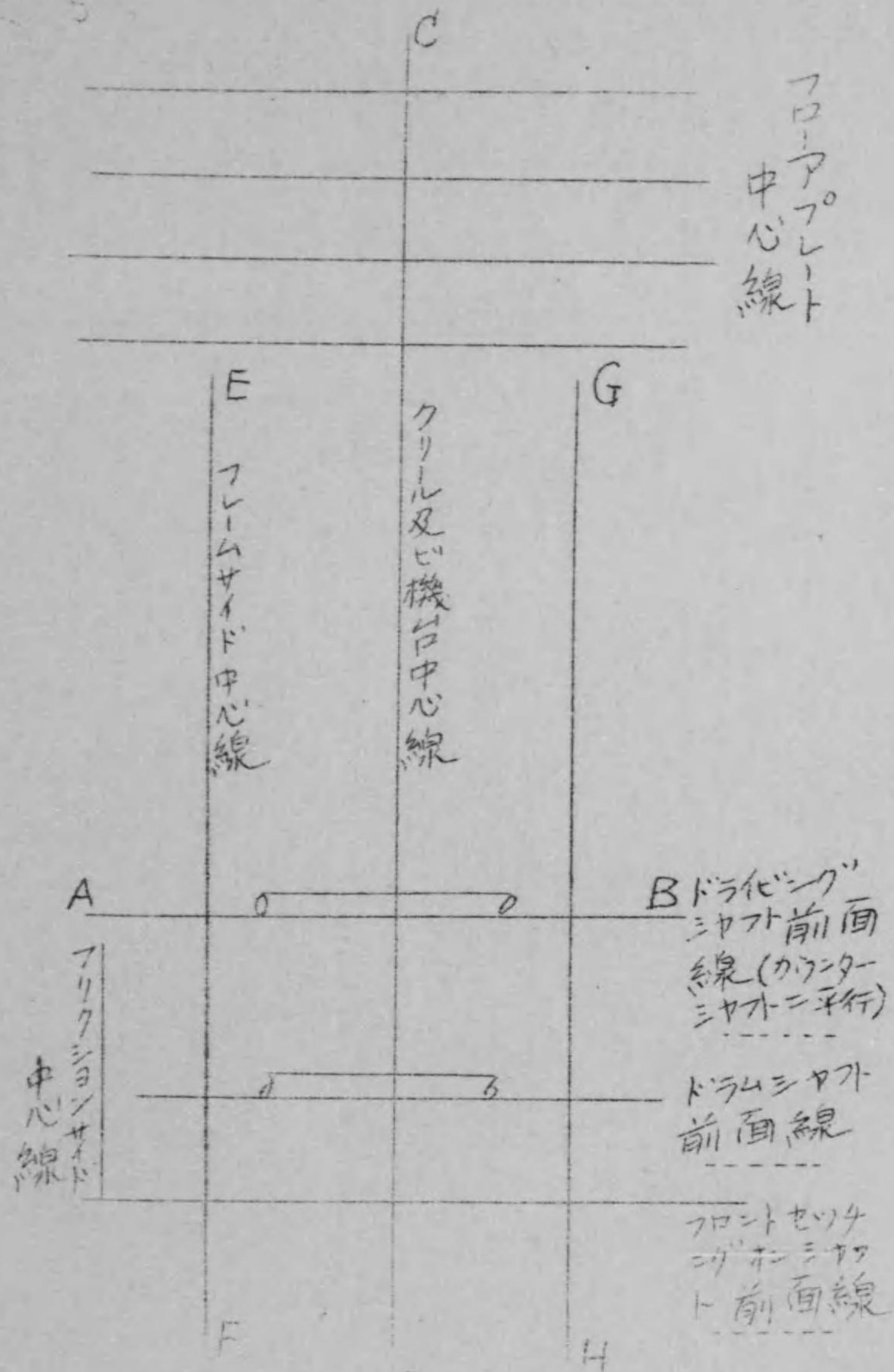


FIG 4



(7)

FIG 5



(8)

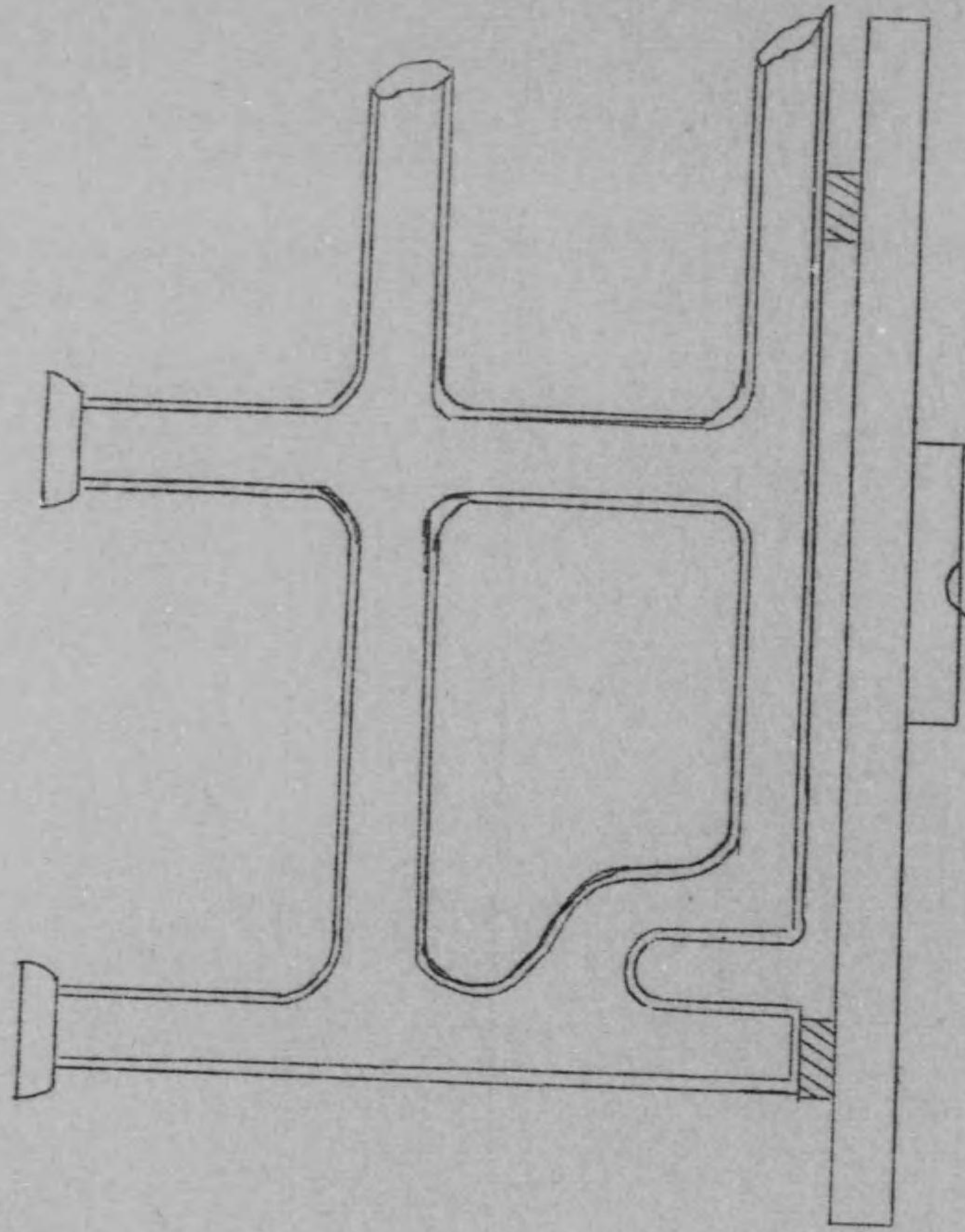


FIG 6 (フロントパート、水平調整)

(9)

(二) 機台、中心線=直角=クリー
ル、クローアプレート、中心線ヲ引ク
ベシ

(10)

第貳章 荒組

(1) フレームサイドノ組立

各フレームサイドニハ足部ニ中心線ヲマークシ置キ、先ヅフロントパートヲ右ヲ三個ノクロスレールニテ連結シ、スピンドルブラケットステーヲ右ヲ取付ケテ墨ニ合ハス

此場合取付ボルトハ仮締ニシ、各足下ニハ $\frac{1}{4}$ "ノバックングヲ入レ置クベシ、尚セツチングオンシャフトヲ挿入シ置クベシ

(2) フレームサイドノ水平

ドライブングシャフト用ストレートシャフトヲ通シ、垂振ニヨリ墨ニ合セテ機台ノ位置ヲ定メ、ジャッキニヨリテシャフトヲ水平ニシ、且フレーム

(11)

ノ上表面ニ定規及垂振ニヨリテ大体水平面ニ調整セタル後、ジャッキト楔ト取替フベシ

(FIG 6 参照)

リアンサイド、シリンダーサイド、ソウボックスサイド、ククレヨンサイド等ヲ後ニ全部連結シ、楔ヲ用ヒテ各フレームノ上表面ヲ定規ト水平ニテ大体水平面トナシ、楔ノ厚サヲ見テ是レノ厚キバックングヲ要スル箇所ヲ発見シタルキハ取外シテ足ノ底面ヲ仕上げて適當ノ厚サノ鉄板ヲカミメ置クベシ

(3) バックングノ入レ

(イ) フロントパートノ足下ノ楔ヲバックングト取替ヘ、ドライブングシャフ

(12)

ト及ドラムシヤフトが正シク水平ニナル
様調整シドライブングシヤフトドラ
ムシヤフトセッティングオンシヤフトヲ各
々心出しヲナシ右レールヲ取付ボ
ルトヲ固ク締メ付ケタル後チ狂ヒヲ
再調整シフレームノ足ヲボルトニテ
固定ス

元来此レフレームハ、据付ボルト
ナケレモ据付ノ際ニ狂ヒ易ク又其後
ニ於ケル変動ヲ少ナカラシムルタメ、フ
ロントポートノミ特ニ此レボルト(3.5)
ヲ使用スルヲトス、故ニ隙メ其足ニハ
ボルト穴ヲ明ク置クベシ

(ロ) 次ニ2呎レベリング及レフワン
サイトモ其ノ左右止面ヲ大体ニ於テ
フロントポートト合ヘ水平面ニナル様

適当ニパッキングヲ調節シテ入
レルベシ

(ハ) シリンダーサイドハシリンダー取
付ノ項ニ記載セル方法ニヨリテパッ
キングヲ入レルベシ

シリンダーサイドヲ安定ニスルタメ、両
シリンダー間ニハクロスステーヲ、又レスモ
ルシリンダーボックスニハ、ステーヲ増設
スベシ

(ニ) レソウボックスサイドハ、フレームノ
上面及レソウボックスノ底ヲ受クベキ
部分ニ水準器ヲ置キ、前後左右
正シク水平ニナル様パッキングヲ入
レルベシ、而シテレウオムシヤフト及ビ
レバクセツチングオンシヤフトハ何レモ、
軽ク回転ニ得ルヲ要ス

(15)

(4) シリンダー⁷取付ケ

左右ノシリンダーサイド⁷、シリンダーボックス⁷ノ載ルベキ部分ヲ同一水平面ヲラシムル様⁷ノロッキング⁷ヲ調節シシリンダーボックス⁷ヲ此上ニ載セシステア⁷ヲ依⁷ニ取付ケテ床ト連結シシリンダーブロー⁷ノ載ルベキ部分ニ左右ニ共通ノ一本ノシヤフト⁷ヲ渡ス

而シテ此シヤフト⁷ハ水平ニ且シラベ⁷シヤフトト平行ニナリ、而シテブロー⁷ノ載ルベキ回⁷ツ接触点ニ於テ一様ニ接スル様⁷加減スベシ、決定後ハステア⁷ニ正確ニ取付ケテナス

(以上ハ蓋組ノ件ニ行フ)

次ニシボックスブロー⁷ヲ入レシレクニダ⁷ブ⁷ヲ具上ニノセシボックスボール⁷ニテシ

(15)

シリンダー⁷ノ位置ヲ係ケシシリンダーネック⁷ヨリ垂振ヲ下ゲ之ニヨリテ其中心トシシリンダーボックスブロー⁷ノ中心トヲ一致セシムベシ

上記ノ如クニ取付ケタル後、シリンダー⁷ヲ手ニ廻シ、軽快ノ度及シバランス⁷ノ可否ヲ調べ、不可ノ点アラハ原因ヲ見出し根本的ニ修正スベシ

シリンダー⁷ノ内部及ビシバルウ⁷類ハ之ヲ取付ケタルニ先立ち、充分取調ベ置クベシ

[16]

第参章 附属品取付

(1) ドライビングシャフト

コールドラム⁷及びビ⁷マーキングモーション⁷用⁷フランジ⁷プー⁷レー⁷ハ⁷嵌⁷込⁷ミ⁷タル⁷俵⁷ト⁷シ、其他ハ全部正⁷シク取付クベシ

此場合コールドラム⁷ハ径ノ小ナル方ヲ⁷ドライビング⁷プー⁷レー⁷ノ側ニシテ嵌⁷込⁷ミ⁷置クベシ

(2) コールドラムシャフト

此場合モコールドラム⁷ハ⁷シヤフト⁷ニ嵌⁷込⁷ミ⁷タル俵⁷ト⁷シ、其他ハ全部完全ニ取付クベシ

(3) ヒ⁷ピ⁷ニオン⁷付⁷ロー⁷プ⁷プー⁷レー⁷

スロー⁷モーション⁷用⁷ロー⁷プ⁷プー⁷レー⁷ハ⁷スタ⁷フ⁷ト⁷ブラ⁷ケ⁷ツ⁷ト⁷共ニ⁷歯⁷ノ⁷咬⁷合⁷ニ

[17]

注意シテ取付ヲナス

次ニ⁷ス⁷クル⁷ー⁷シヤフト⁷、⁷ス⁷トラ⁷ツ⁷フ⁷フ⁷ォ⁷ク⁷、⁷ガ⁷イ⁷ド⁷シヤフト⁷等ヲ取付ク

(4) コールドラム⁷位置決定

ス⁷トラ⁷ツ⁷フ⁷フ⁷ォ⁷ク⁷ヲ左端ニ送リ⁷ド⁷ラ⁷イ⁷ビ⁷ン⁷グ⁷シヤフト⁷ノコ⁷ー⁷ド⁷ラ⁷ム⁷ノ左端、大径ノ方ニ⁷ベ⁷ルト⁷ガ⁷ー⁷杯⁷ニ掛⁷リ⁷得⁷ル位置ニテ⁷ド⁷ラ⁷ム⁷ヲ取付ケ、次ニ⁷コ⁷ー⁷ド⁷ラ⁷ム⁷シヤフト⁷ノ⁷ド⁷ラ⁷ム⁷ヲ⁷FIG 9ノ如ク約1吋右方ニ寄⁷リ⁷タル位置ニ取付ヲナス

(5) 前部廻リ取付

(1) ⁷ラ⁷フ⁷ク⁷シヤフト⁷及⁷ス⁷トラ⁷ツ⁷フ⁷フ⁷ォ⁷ク⁷

(2) ⁷セ⁷ツ⁷ク⁷セ⁷ツ⁷ク⁷オン⁷シヤフト⁷及⁷ビ⁷ハ⁷ド⁷ル⁷等

セ⁷ツ⁷ク⁷セ⁷ツ⁷ク⁷オン⁷シヤフト⁷ハ⁷垂⁷直⁷ニ取付ケ

(10)

「オートラック」ノ「交換セ」

注意スベシ

(3) 「ログセツク」オレシヤツト⁷及ヒ

「オートラック」ヤツト「ブラケット」等

(4) 「コンテナ」4「リング」

(5) 「スローモーション」ロー「フーラー」

(2個)

(6) 「セツク」オレシヤツト⁷及ヒ

「ハンドル」(左側)等

(7) 「ロード」ロー「ローラー」及ヒ

「ブラケット」

(8) 「4」ユ「アリ」2「グ」ロー「ラー」及ヒ

「セ」=「オン」

(9) 「マーキング」モーション「ブラケット」

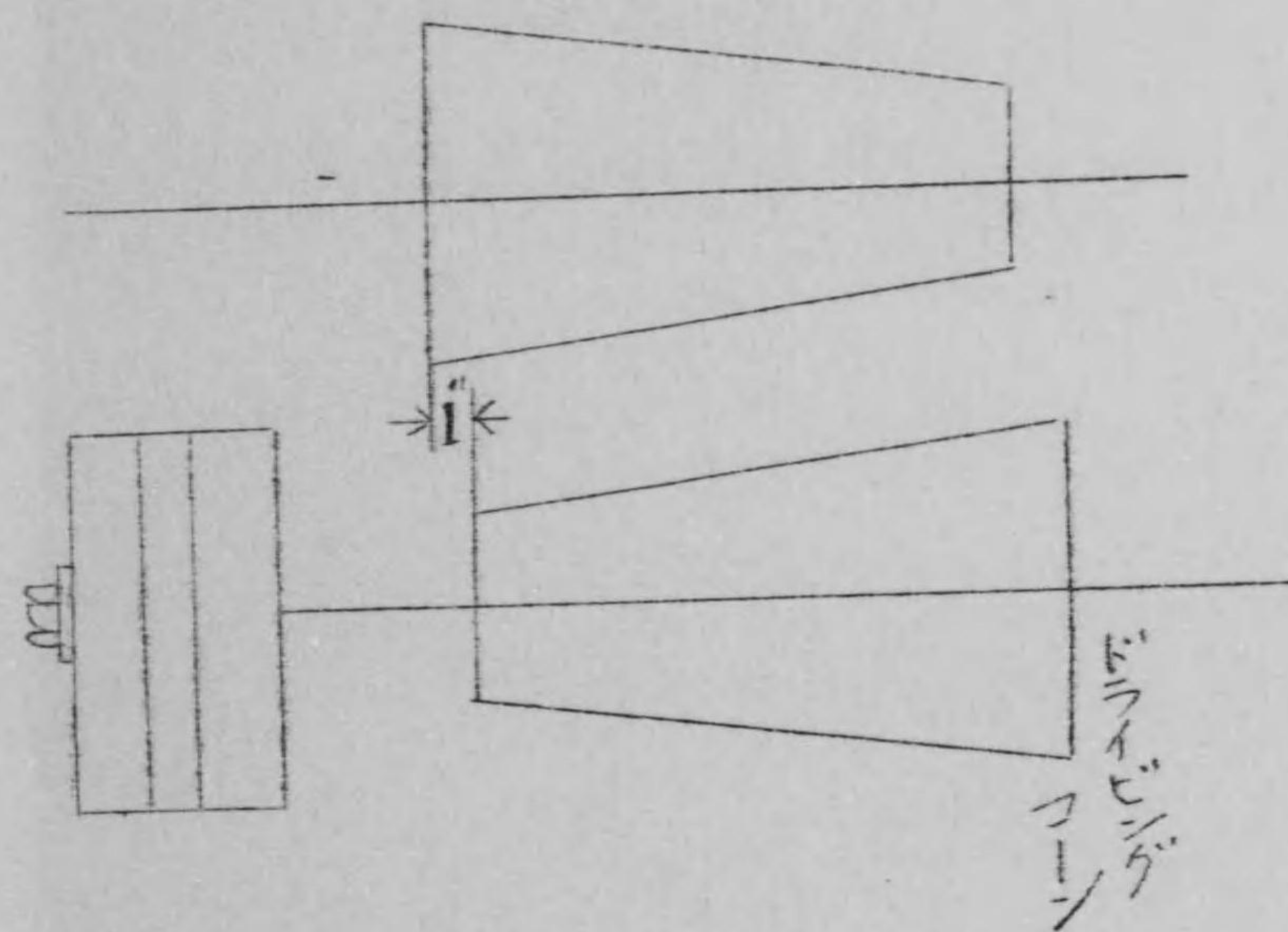
(「レール」ノ「ボルト」=「テ」取付ス)

(10) 「レー」4「ング」バー「シヤツト」 「セ」=「オン」

(11)

FIG 9

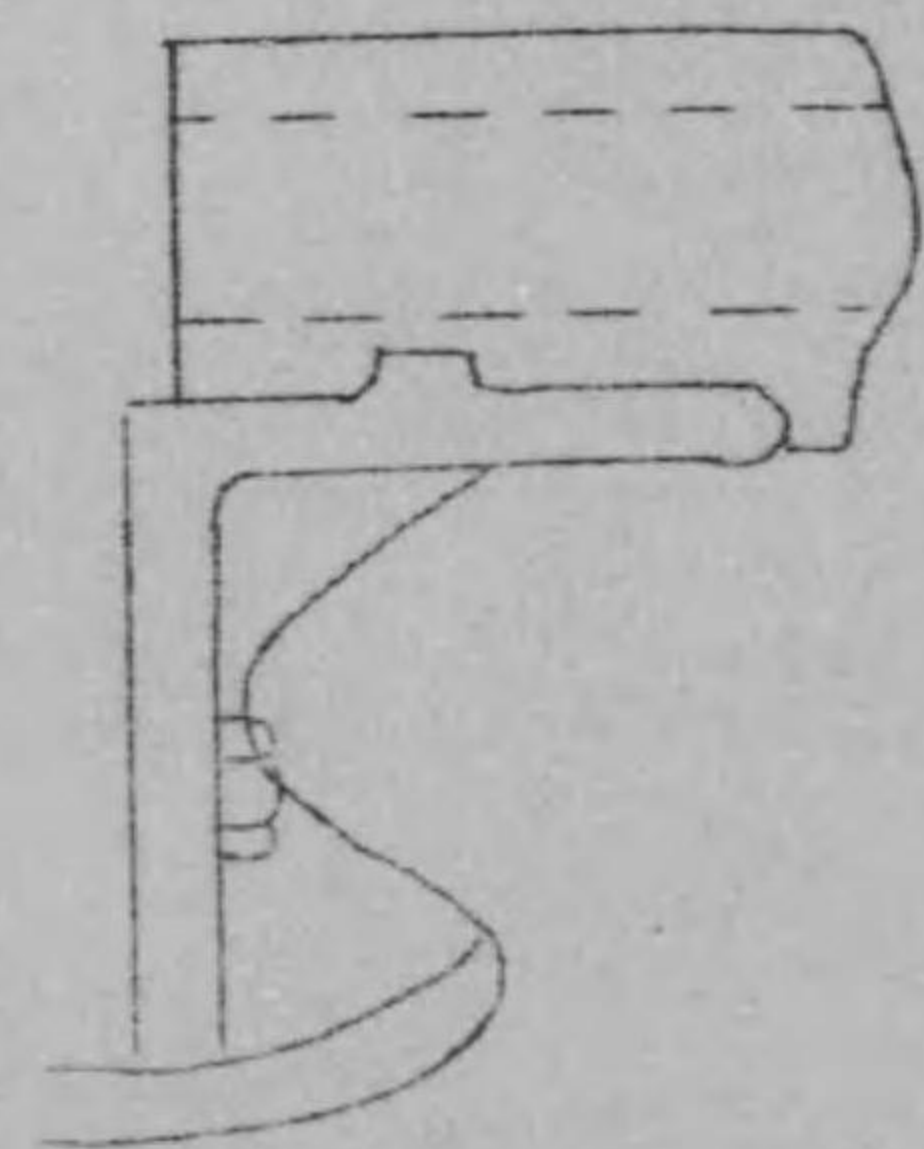
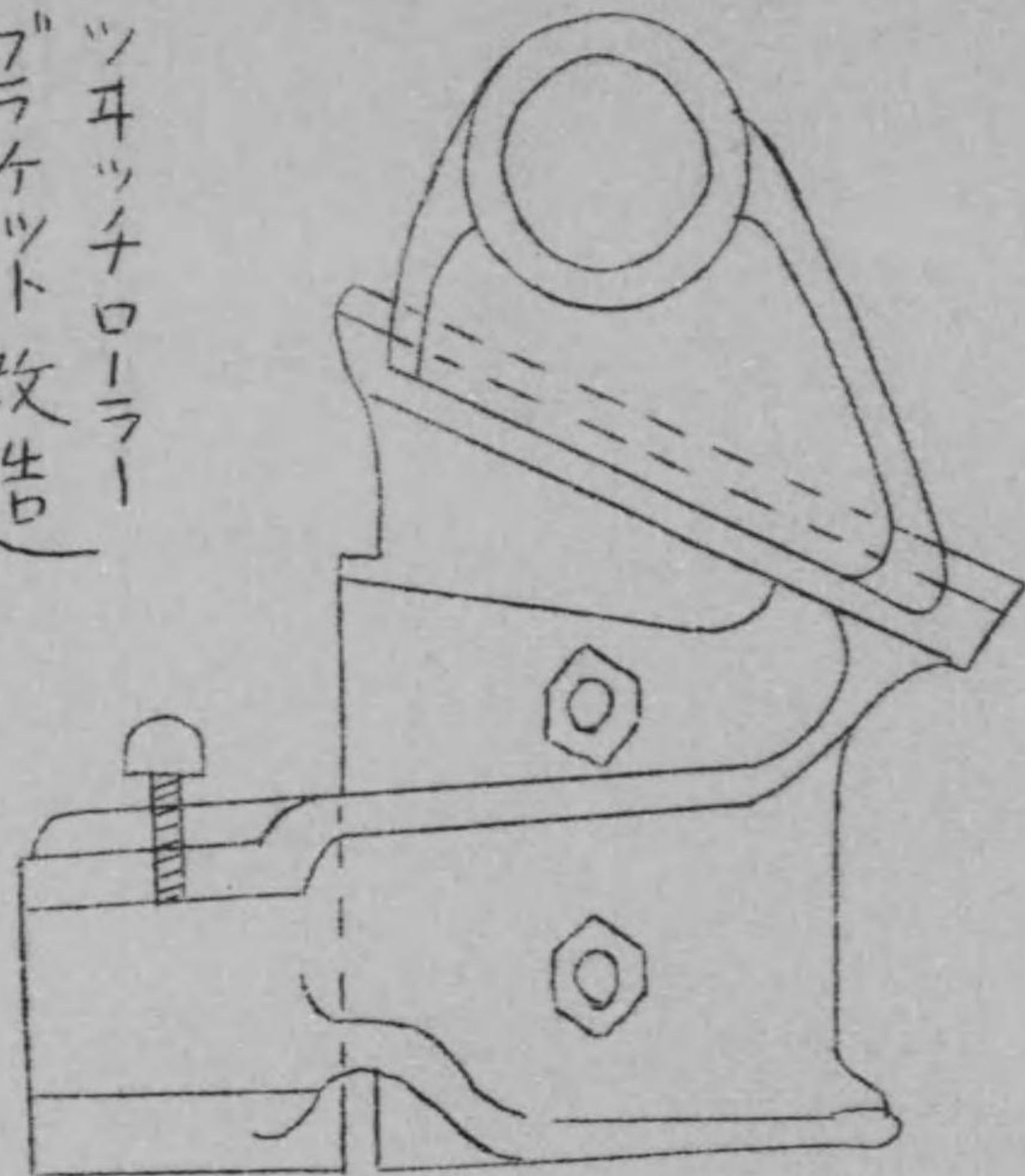
(「コン」ド「ラム」ノ「位置」決定)



(20)

FIG 10

ツギツギローラー
ブラケット
改造



（くり）

レスシヤフト等

(歯車、咬合に注意スベシ)

(11) レギアルレバー、ロードローラー

ホルル、ベヤルホルル

此等ヲ取付クルハ、フクシヨシサイド

ヲ外シテ行フ

(12) ロードローラーエドブラケット

(13) レギアルレバーホルル全シカバ

、部分取付

(14) レスシヤフトブラケット

ブラケットヲ摺合シテレスシヤフト

ノ心出シヲナス

(15) レシンドルブラケット、心出シ

レスシンドル = フクシヨシプレートヲ依

嵌メドローラーホルルト、歯、咬

合ニ適當ナル高サヲ定メタル後チ

レール

レストレック⁷ヲ用ヒテスピンドルブラ
ケット⁷3個ノ心出シヲ行フ

(16) レックレオンレバーシャフト⁷及ビ
全上レブラケット⁷

2本ノレシャフト⁷ハ全高水平且ツ
スピンドル⁷ニ直角ニ取付クベシ

(17) レックレオンプレート⁷ニ羅紗ヲ挿入
シテスピンドル⁷ト共ニ取付ク

(18) レレクラインレバー⁷ノ部分

(19) レコネクティングロット⁷

(20) レプレスシャフト⁷及ビ其附属品

(21) レツイッチローラー⁷

(22) レマーキングモーション⁷

(イ) レインクウェルトレシャフト⁷ノ部分

(ロ) レサイドシャフト⁷レダイヤル⁷等ノ部分

(ハ) レダイヤルホキール⁷ノ部分

レール

(ニ) 各レスパーホキール⁷レバー⁷等ノ部分

(ホ) レマーキングハンマー⁷レシャフト⁷等ノ
部分

(ヘ) レベル⁷ノ部分

(23) レエキスパンディングレース⁷

(24) レカウホーンブラケット⁷及ビ
レレベルホキール⁷等

(25) レバイディングロットブラケット⁷

(26) レクーリングフワン⁷
(前及後部)

(27) レ4レローラー⁷全部取付

(6) 後部廻り取付

(1) レノウボックス⁷

此ノ時ニレバックセツチングオンレヤ
フト⁷レウォムレシャフト⁷ヲ入レオク

(2) レビードットローラー⁷

(24)

- (3) Lパイピング⁷ノ一部
Lソウボックス⁷、Lボイリングパイプ⁷ヲ
Lスクームパイプ⁷ニ連絡シテ
(4) Lコッパローラー⁷、Lビベルホ
ール⁷ (Lグラシユモーションロー
プローラー⁷)
Lコッパローラー⁷ノ取付ニハ特ニ注意
シテ、Lライビングシヤフト⁷ト平行ニ
スベシ
(5) Lスクエーキングローラー⁷
(6) Lレマーシヨンローラー⁷ 及ビ上下
装置
(7) Lドロップローラーブラケット⁷
(8) Lグラスキヤリヤローラー⁷
(9) Lコッパフオートローラー⁷
(10) Lサイドシヤフト⁷ 及ビLビベルホ
ール⁷

(25)

- (11) Lセパングオンハンドル⁷
(前及後部、左右)
(12) Lハンドル⁷、Lコネクティングロッド⁷
及ビLラックシヤフト⁷
(13) Lスクーム⁷遮断装置
(14) Lグラシユモーション⁷装置ヲ要
スルモノハ取付ヲナス
以上ノ取付ヲ終リタル後、残レル
パイピング⁷ノ取付ヲ行ヒ、各Lストッ
プバルブ⁷、Lブラケット⁷、Lセーフ
バルブ⁷、Lレギュレシブルバルブ⁷、
Lプレッシャーゲージ⁷、
Lタラップ⁷、Lテストコック⁷等ヲ共ニ取付
ク、此際Lシリンドラ⁷、Lグラスパイ
プ⁷ヲ正シク取付ケザルタメLシリ
ンダ⁷ノ回転ヲ宜カラシムル事
アルヲ以テ注意
スベシ

(26)

第四章 クリール 組立

(1) フローアプレート

標準線 = ヨリ正シク水平 = 置キ

フローアンデーションボルトヲ埋込ニ其ノ位置ヲ定ム

(2) クリールサイド 組立

(3) スライドブラケット

スライドブラケットヲ取付ケ、上面ヲ水平面トナルヤ否ヤヲ検シ不可ナレバ取付部分ヲ摺合スベシ

(4) トップブラケット

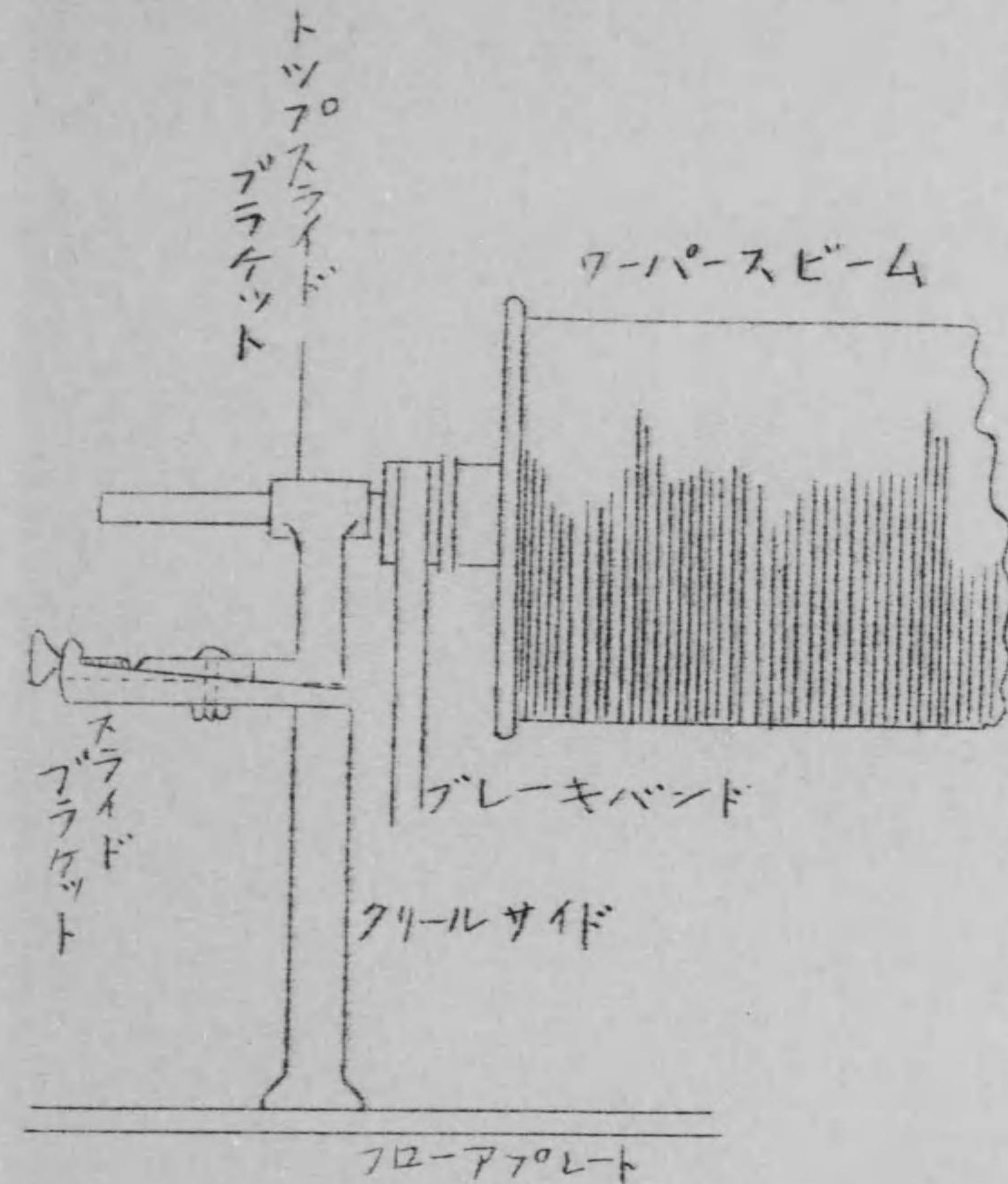
トップブラケットヲ取付ケ、ロールヲノセ、左右ノ水平ヲ検シ、尚中心ヲ一致セシムベシ

(5) 両クリールノ間隔

両クリールノ間隔ハ、トップブラケ

(27)

FIG 11

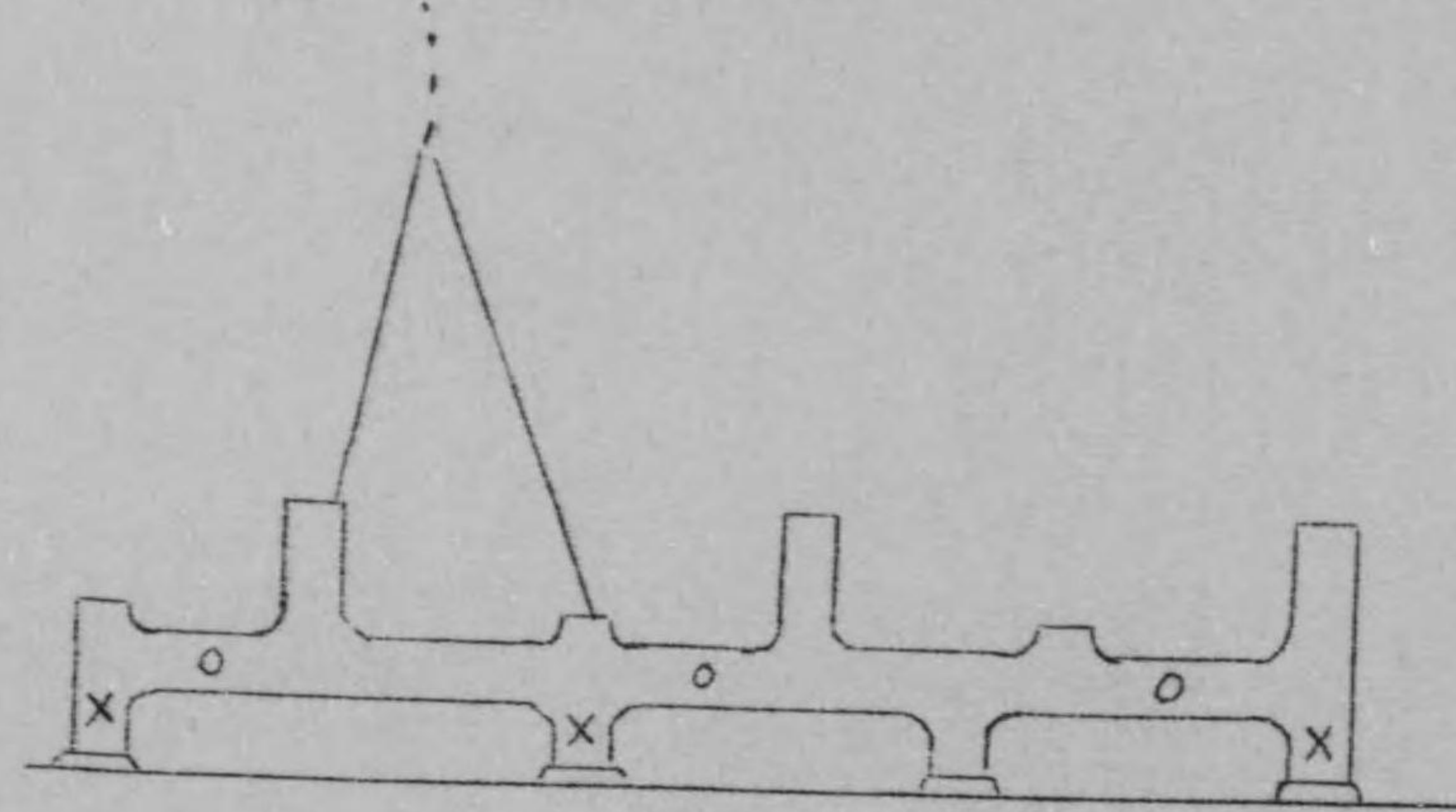


(28)

FIG 12

「ビームクリアルステー」

(此ノ所ニ定規ヲ渡ス)



「ワ-パ-スビ-ム」ノ系ノトリ方ニヨリ

○印ノ所カ X印ノ所ニ「ステー」ヲ取付ク

(29)

「ット」ガ図(FIG 11)ノ如キ関係
 =置カレ「ビ-ム」ノ中ニ相当
 スル様ニ定ムベシ、此場合西
 「フレーム」ノ中心ハ機台中心線ヨ
 リ等距離ニアルベキナリ

(6) 「ビ-ム」クリアルステー

「クリアルサイト」ヲ上述ノ如ク定
 メタル後ヲ更ニ図(FIG 12)ノ
 如キ位置ニ「ステー」ヲ取付ク
 ベシ

糊附機保全標準

(概説)

糊附機、他、諸機械、
如ク定期=解台保全ヲ行ハ
ズ必要=應ジ解台又ハ部分
的保全ヲ行フモトス

第二章 廻根部分

(1) ドライビングシャフト

之ハ機台据付、標準トナルモ
ナレバ取付ハ最モ入念ニセザル
ベカラズ

保全、際、ブレコ⁷及ビ、フレーム⁷
ノ孔ノ、減セルモノハ、フレーム⁷ノ
孔ヲ正用ニ削リテ、相当ナル大
ナルブレコ⁷ヲ用ズルカ、又ハ、ブレコ⁷

{32}

ハ以前ト全徑ノモ、ヲ用ヒ「フレーム」ノ
孔ヘ鑄物ノ「ブリユ」ヲ嵌メ「ロック」ヲ
ヲ止ムベシ

{2} 「ラスト」フール

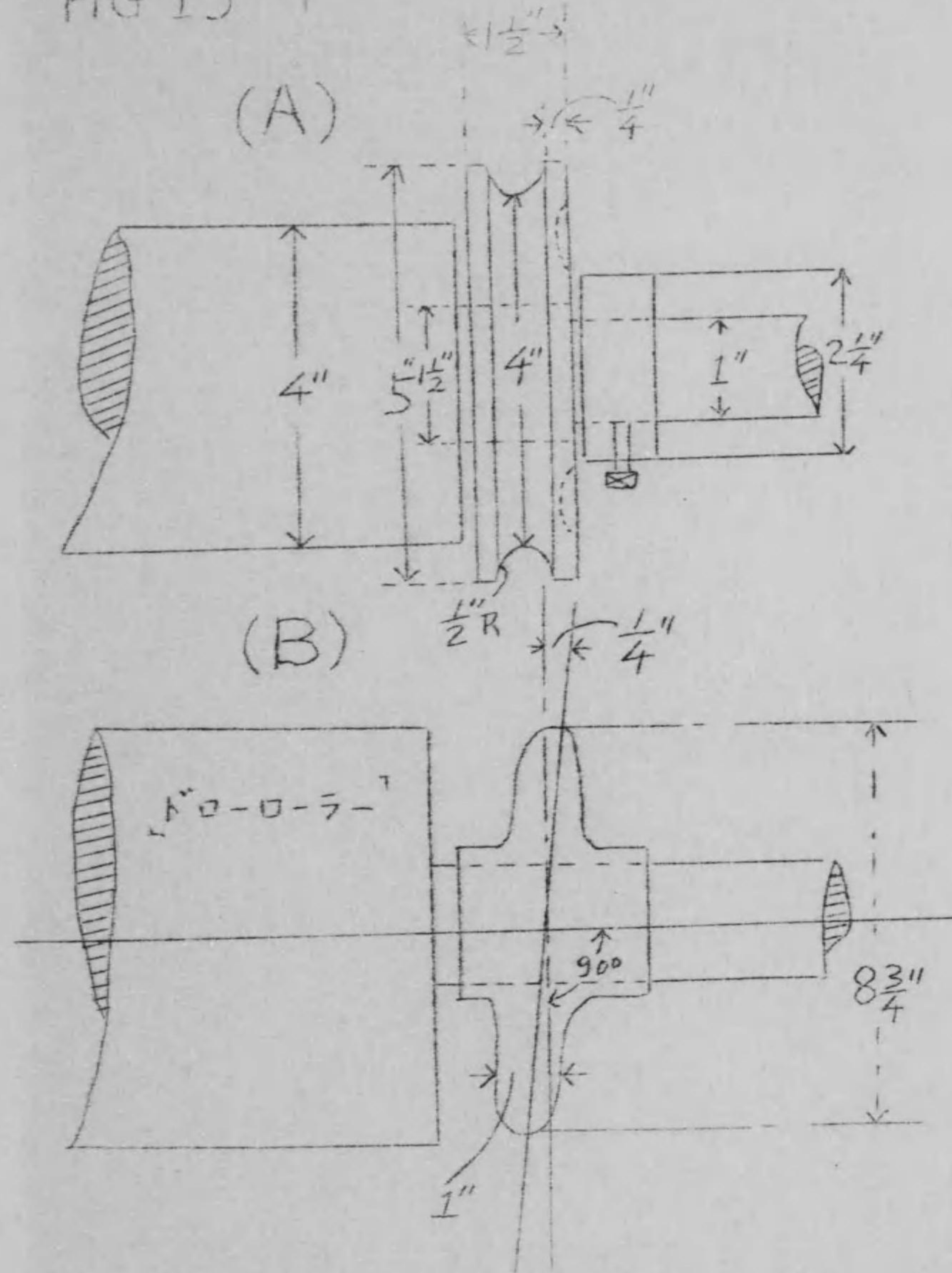
此、取付ハ「ラスト」ヲ嵌メタル後
「キー」ヲ外カラ打込ム様ニ設計サ
レ居ルヲ以テ取外シニ甚ダ不便ナリ、
故ニ「図」(FIG 14)ノ如ク「キー」
ノ勾配ヲ反対ニシ「サンク」キーヲ用ヒ「ラ
スト」ヲ軽く打込ミタル後、押錠ヲ
以テ止ムル様ニスベシ

此、時押錠、捻山ノ方面ハ「シ
ヤフト」ノ回転ノ方面ト反対ニスベシ

{3} 「ドラム」シヤフト

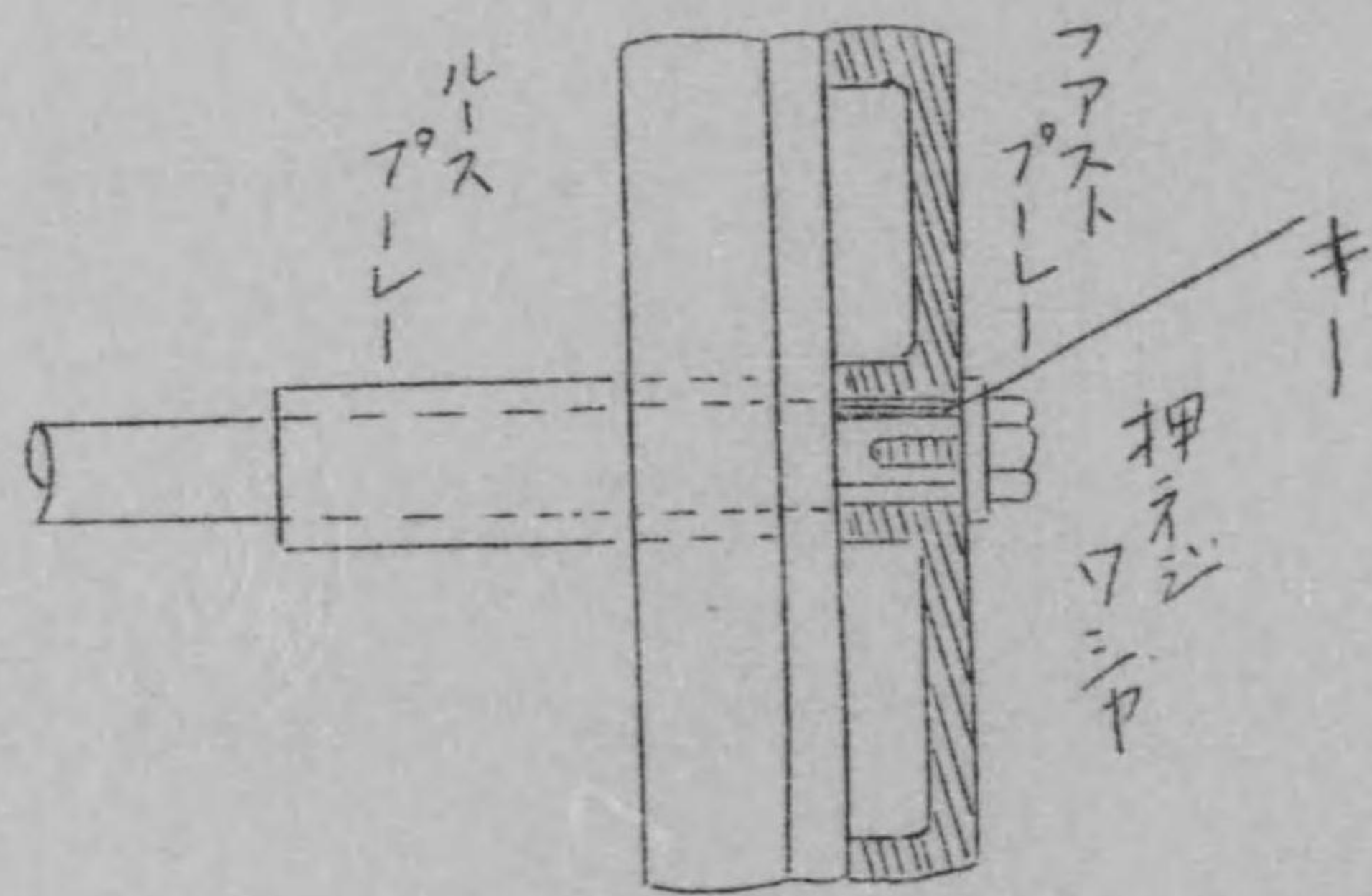
保全ノ際「ブリユ」及「フレーム」ノ孔
ノナ減セルモノハ「ドライブ」
「ブリユ」

FIG 13



(34)

FIG 14



(35)

ハイト全様、修理ヲナスベシ

但シ何レニシテモ「フレ-ム」ノ孔ヲ削リ
ルヲハ相当ノ手数ヲ要シ且ツ六ヶ敷
仕事ナルヲ以テ此ノ部分ヲ成ル可ク

「滅セシメサル様」注油ニ注意スベ
シ、尚此部分ニハ何レモ「グラスリュ
ブリケ-ター」ヲ用フベシ

(4) コ-ンドラム

「ドライブング」シヤフトノ「ドラム」ハ径
小ナル方ヲ「フレ-ム」ニ近ク取付ケ、両
「ドラム」ノ関係ハ図(FIG 9)ノ如
クス

「コ-ンドラム」ノ押錠ノ時、易キ場
合ハ押錠ノ外ニ左右両側ノ「ロス」
ニ「キー」ヲ入レルベシ

(5) 「クリツ」ノ「ホ-ル」

[36]

之レハドラムシャフトヲ減セシ
ムルヲ以テ真鍮ノレギユヲ入レ置ク
ヲ可トス

各レグリースボックスニハカバーヲ
取付ケ置クヲ要ス

(6) レードローローラー

之レハ正円形ニシテ直径ハコッ
パーローラーニ等シクドラムシャフトト
平行ニ取付クベシ

保全ノ際ハ巻付ケアル布ヲ剥ギ
去リローラー面ヲ蔽ヘル木ノ片減、
凸凹、取付ケ地ニ等ヲ精密ニ檢シ
僅カテモ欠点アラバ直チニ手入ヲ
施スベシ

又レブラケットニ真鍮ノレギユノ
入り居ラザルハ入レ置クベシ

[37]

レツキッチローラーニ左右動ヲ與
ヘルクムローラー左端ヲ少シク切断

シ之レニ図(FIG 13 B)ノ如ク

レダスクヲ取付クベシ

[7] レツキッチローラー

左右動ヲ付サシムルクムローラー
ヲ径ノ大ナルモノ取替ヘ之レニレグ
ルーガイドプレートヲ取付ケレードロー
ラーノレダスクト咬合ハシムベシ

(FIG 13 A) 参照

尚レブラケットヲ改造シテ用ユ

(FIG 10) 参照

(8) 危険豫防装置

レードローローラートレメジユアリング
ローラートノ間ヘ往々手ヲ挟マル事
アルヲ以テ右面ローラーノ手前ニ外蓋

[38]

約1吋ノ丸斯管又ハ鉄棒ヲ取
付クベシ (FIG 15 参照)

(9) Lウチーバースピンドル

た右ハスピンドルハ中心ヲ一致セ
シメドライビングシャフトト平行ニシ、
右方ハ具ハ減ヲアゲタメスピンドル
キヤツプヲ図 (FIG 16 A) ノ如ク
改造スベシ

又スピンドルプレートニ図ノ如キ
スナップヲ取付ケシビームフランジヲ
直接廻ス様ニスベシ

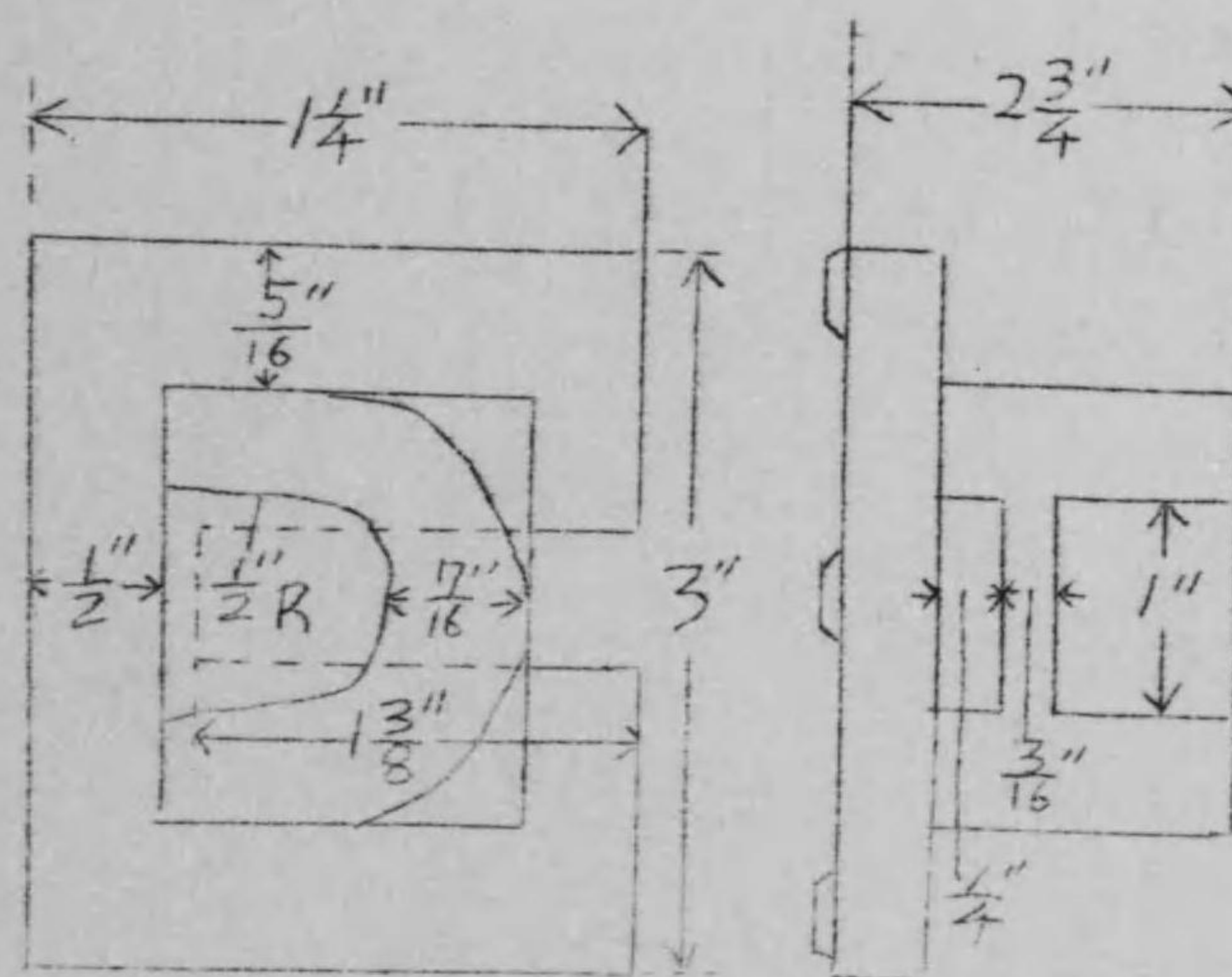
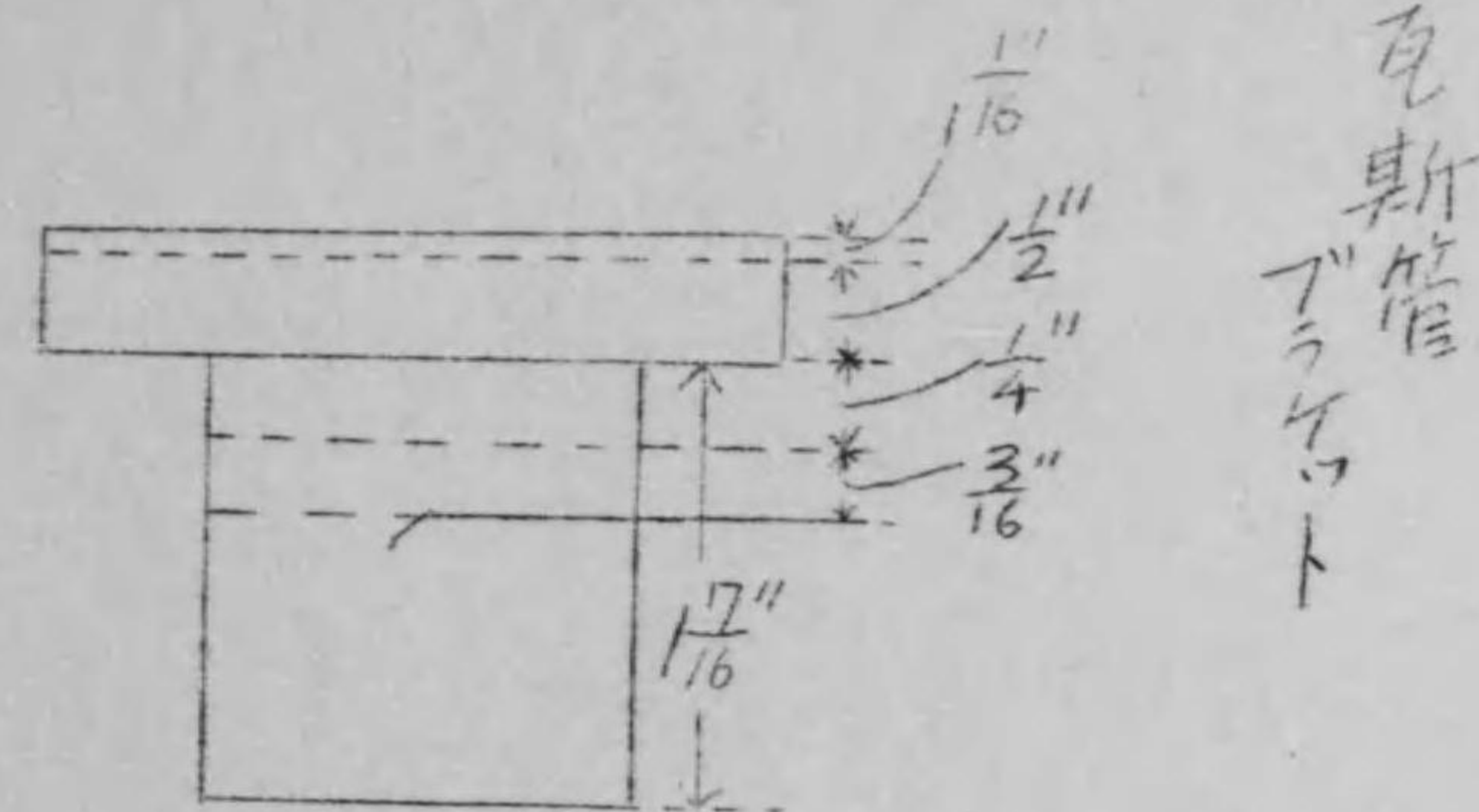
(FIG 16 B) 参照

(10) フリクションレバー

取付ヲ完全ニシ運轉中左右手個ノ
ボールハ常ニ一様ノ力ヲ以テプレート
ヲ壓接シ輕快ニ回轉セシムベシ

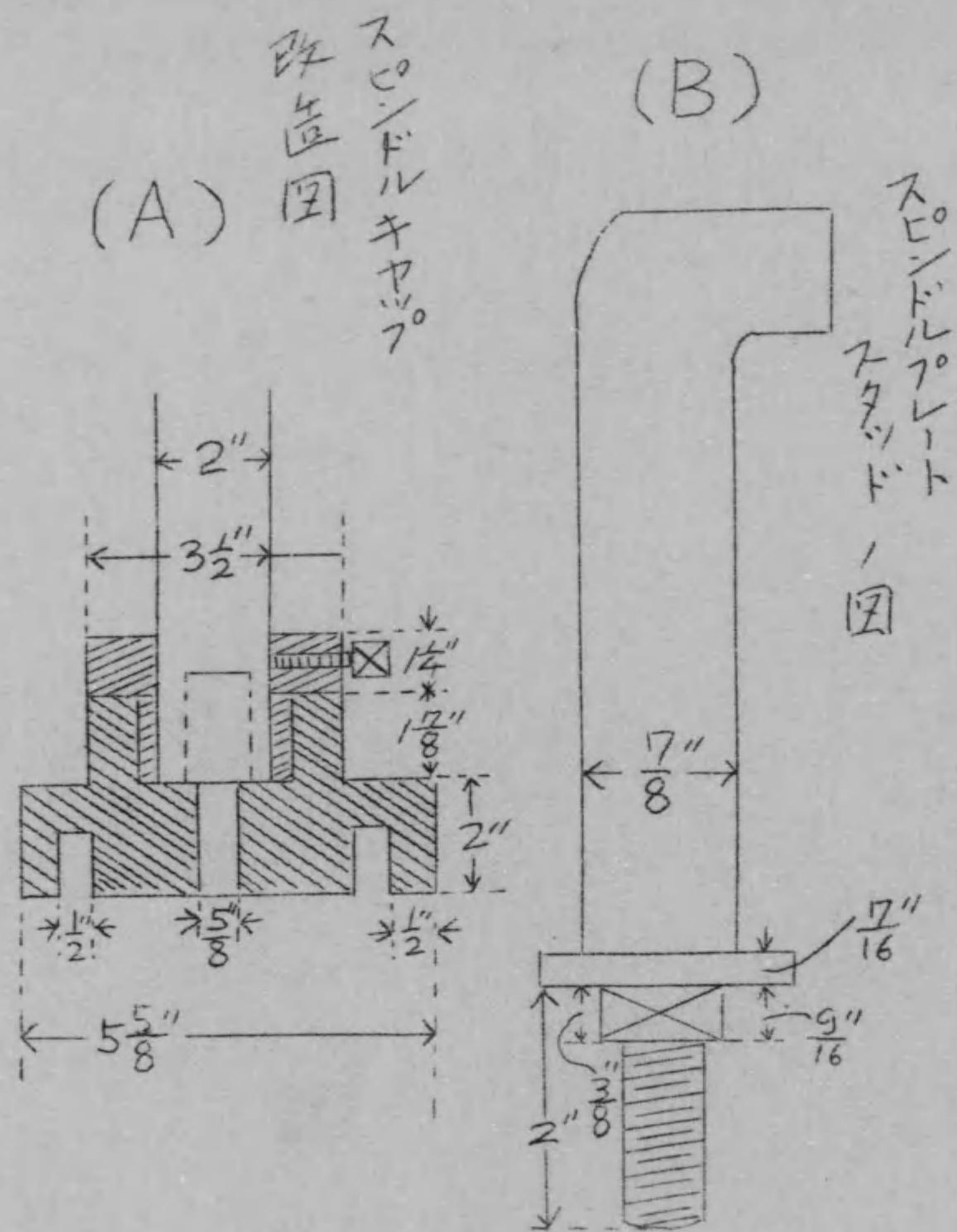
[39]

FIG 15



[40]

FIG 16



[41]

ボール、径、4個共全径ノモノ
ヲ用ヒ「アーボア」ハ前後又ハ左右取
替セザル様「レバー」ト共ニ合「マ」ク
ヲ附シ置クベシ

(11) 「プレスシャフト」

取付ニハ「ビームスロンドル」ノ様
ノ注意ヲ拂ヒ「プレスシャフトレバー」ハ
其ノ支点ト「ボール」ノ中心距離ヲ左
右同一ノモトスベシ

「ボール」ノ直径ハ不同キヲ要ス、又
「ボール」ノ載ルベキ部分ノ「減セル」モ
ノハ「瓦斯」修理スベシ

(12) 「プレスローラー」

「プレスローラー」ノ一端ヲ「エキスパ
ンション」式ニ改造シ極メテ弱キ「ス
プリング」ヲ装置スベシ

[42]

其ノ尖端ヲパイプノ終トナサズ穴
ヲ埋メテ中央部ヲ少シク高クシパイ
プノ立端ガ直接シームフランジ
ニ接セガル様ニスベシ

(FIG 17) 参照

プレスローラーヲ支フルボール
ハアーボアノ両端ノ内キモノハ四
角ニ改メテアーボア自身ヲ回転セ
シメガル様改造スベシ (ブリッ
クヨレバー、ボール全様、装置)

[13] プレスシャフトキヤッチホキール
之ハ歯一枚丈ケ高クシ (反折ニ
テ) 危険豫防装置ヲ施コスベ
シ

[14] ラグアルレバーホキール
ロードローラーホキール及ビ

[43]

FIG 17

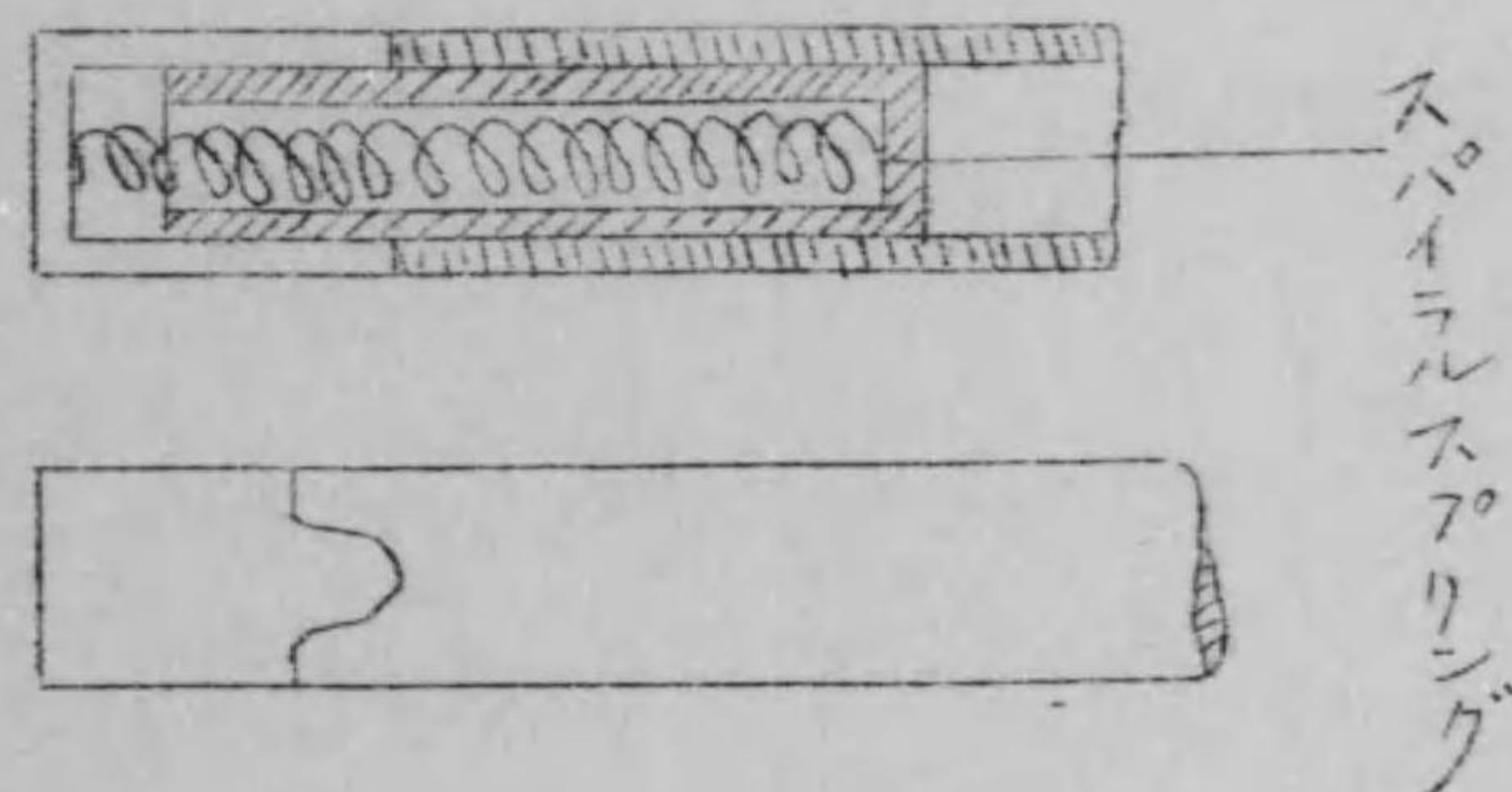
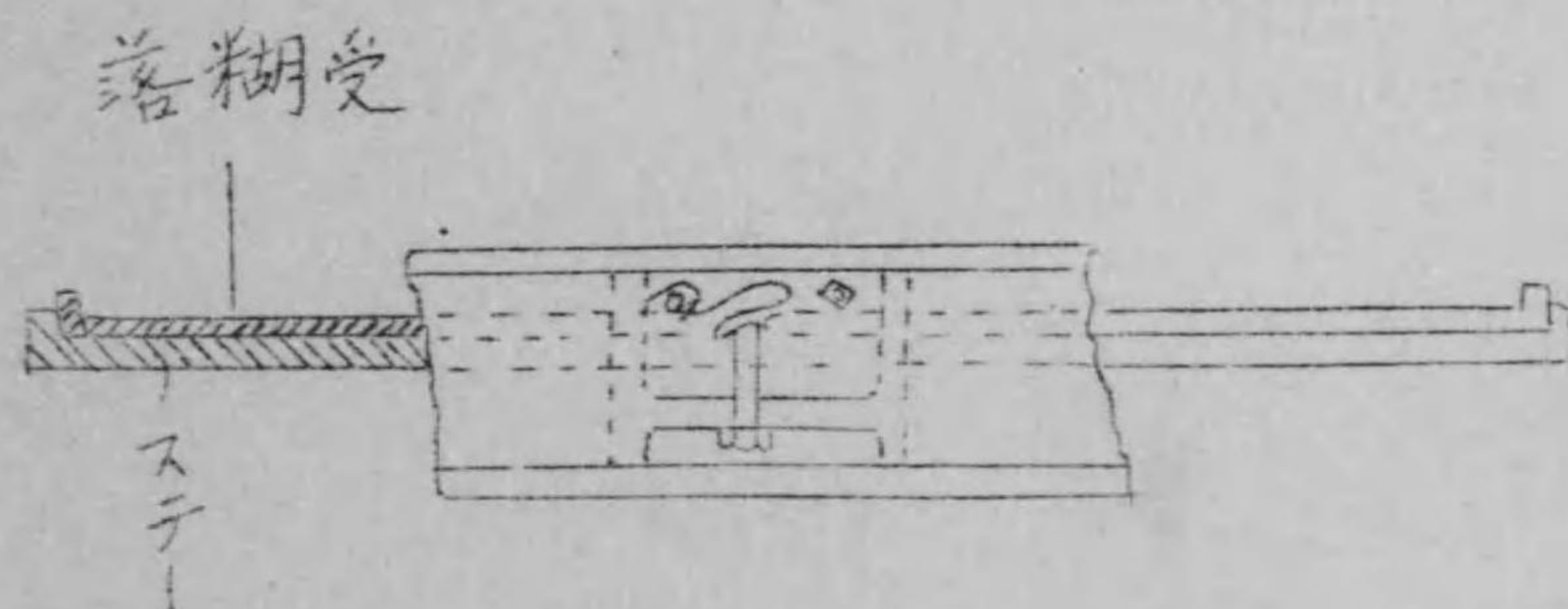
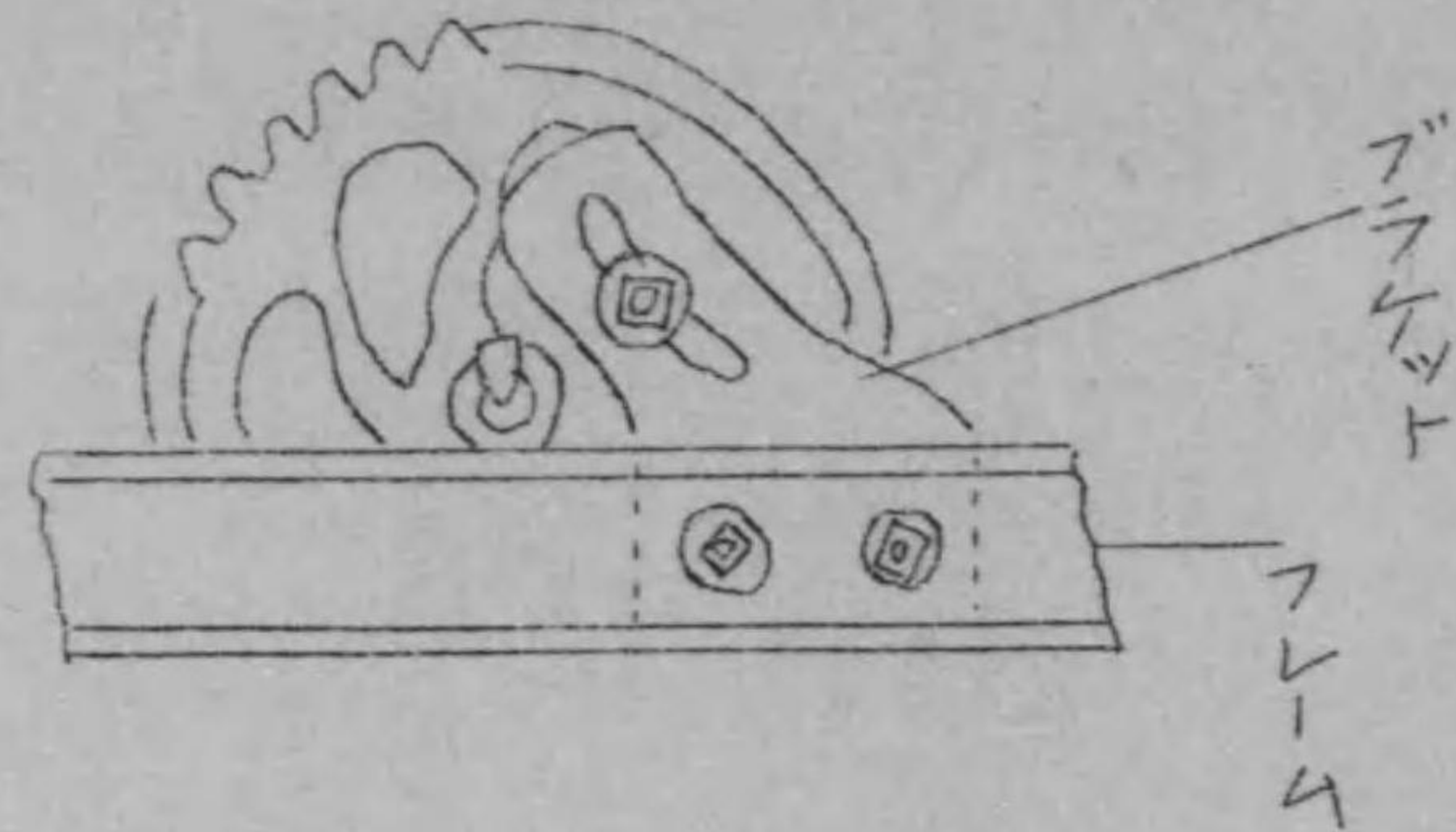


FIG 18

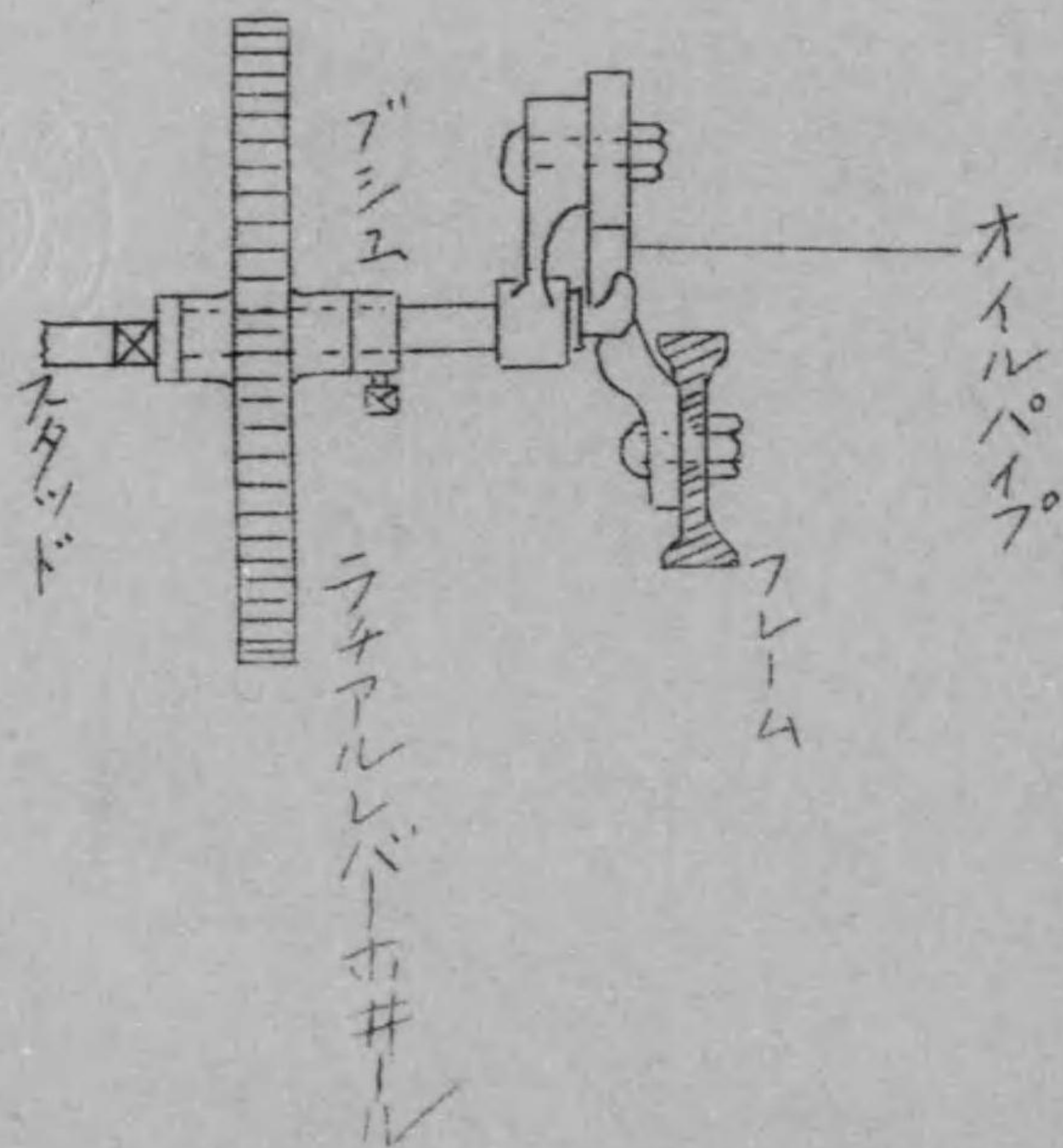


(44)

FIG 19



(ラゲアルレバーホーホル取付改造)



(45)

「4」エンゲホーホルトノ咬合ヲ完全ニス
ルタメスタッドヲ延長シ別ノ「7」
ラケットヲ取付クベシ

(FIG 19) 参照

〔15〕「シヤフト」
(ヒツクオン式)

此ノ2本ノ「シヤフト」ハ偏心運動
ヲサシメ「エキスパンテングゴム」ノ「減
」ヲ減少セシムベシ

偏心半径ハ $\frac{1}{2}$ "位ヲ以テ適
当トス、又「シヤフト」ノ表面ニ糸道ノ
附カザル様1週若クハ2週ニ1
回「サンドペーパー」ヲ磨クベシ

〔16〕「デバイテングロッド」


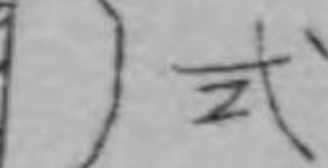
「ロッド」ノ表面ニ糸道ノ付キタル
モノハ直チニ手入スベシ

[46]

而シテ糸道、付キタル後手入ス
ルハ、已ニ手遅シナルヲ以テ成ルベク
未前ニ防グ様絶エズ注意スベ
シ

[17] 「マーキング」モーション

「リンクボックス」及ビ「プレー」ハ
真鍮製ノ完全ナル「カバー」ヲ施
スベシ

「カットマーク」ハ成ル可ク織物ノ耳
ニ近ク捺ス様ニシ「ハンマー」ノ先端
ニ取付ケタル木片ハ長サ約 $3/4$ 〃
位ノモノヲ用フルカ又ハニ重「マーク」
( ) 式ニ改ムベシ

[18] 落糊受

「デバイディング」ロッド「ブラケット」ノ取
付ケラル「クロスレール」ヲ下向ニ取

[47]

付ケ具ノ上ニ金武力製ノ糊粉

受ケヲ取付クベシ

(FIG 18) 参照

(48)

第貳章 シリンダー部分

(1) シリンダーボックス

シリンダーボックスヲ所定ノ位置ニ
取付ク(左右)

フーラーノ載ルベキ部分 = $1\frac{1}{2}$ "
車軸ヲ渡シ之レヲ水平ニ且ツド
ライビングシャフトト平行ニス

シリンダーボックスノ四ツノ部分ニ
様ニ接スル様摺合ス

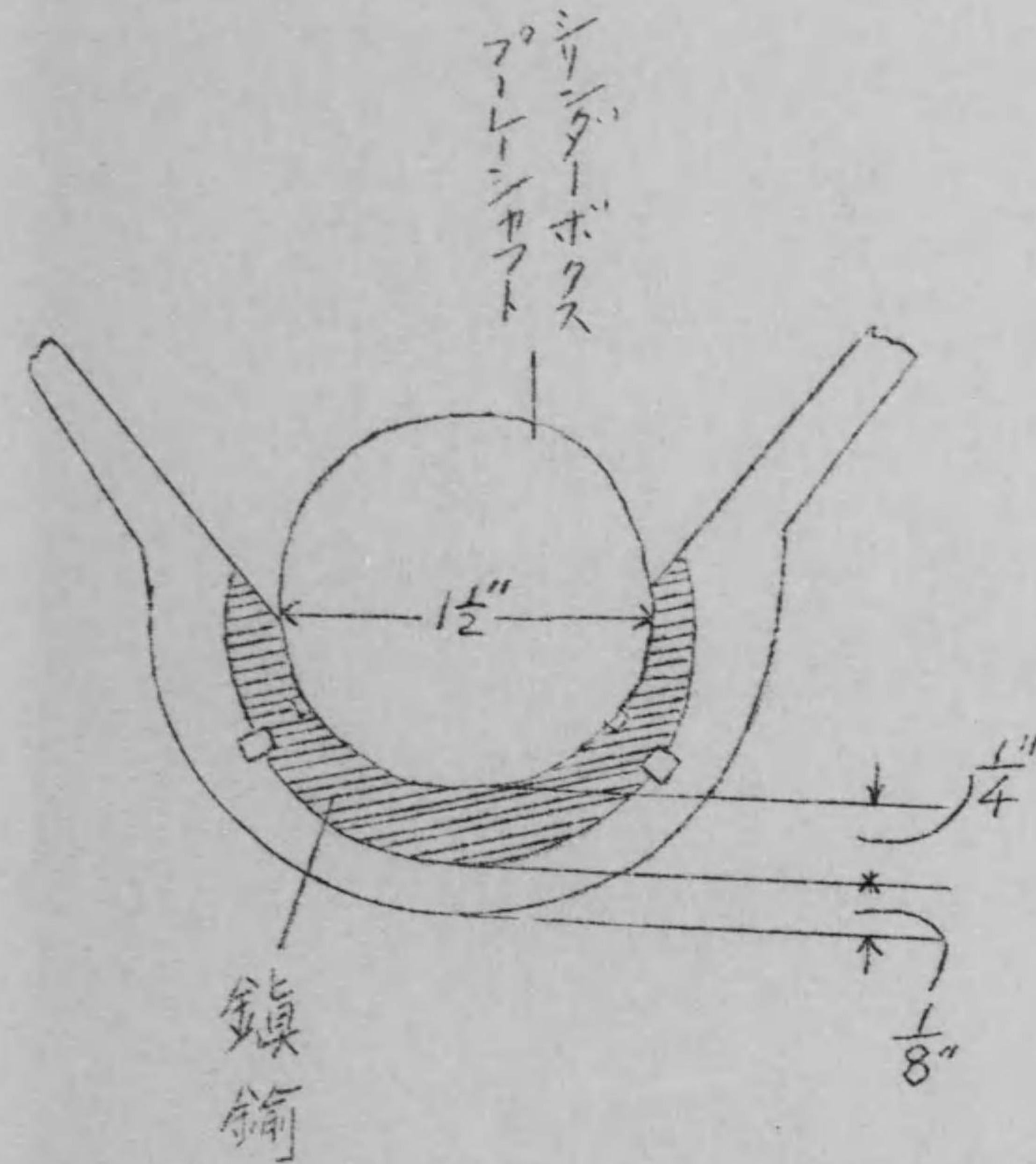
シリンダーボックスノ損セルモノハ
其部分ヲ削リ取リテ真鍮ノ「ブレユ」
ヲ挿入スベシ

(FIG 20) 参照

シリンダーボックスヲ正シク取付ケタル
後フーラーヲ載セシリンダーボックスト
ノ接触具合再調ス、完全ナルバ輕

(49)

FIG 20

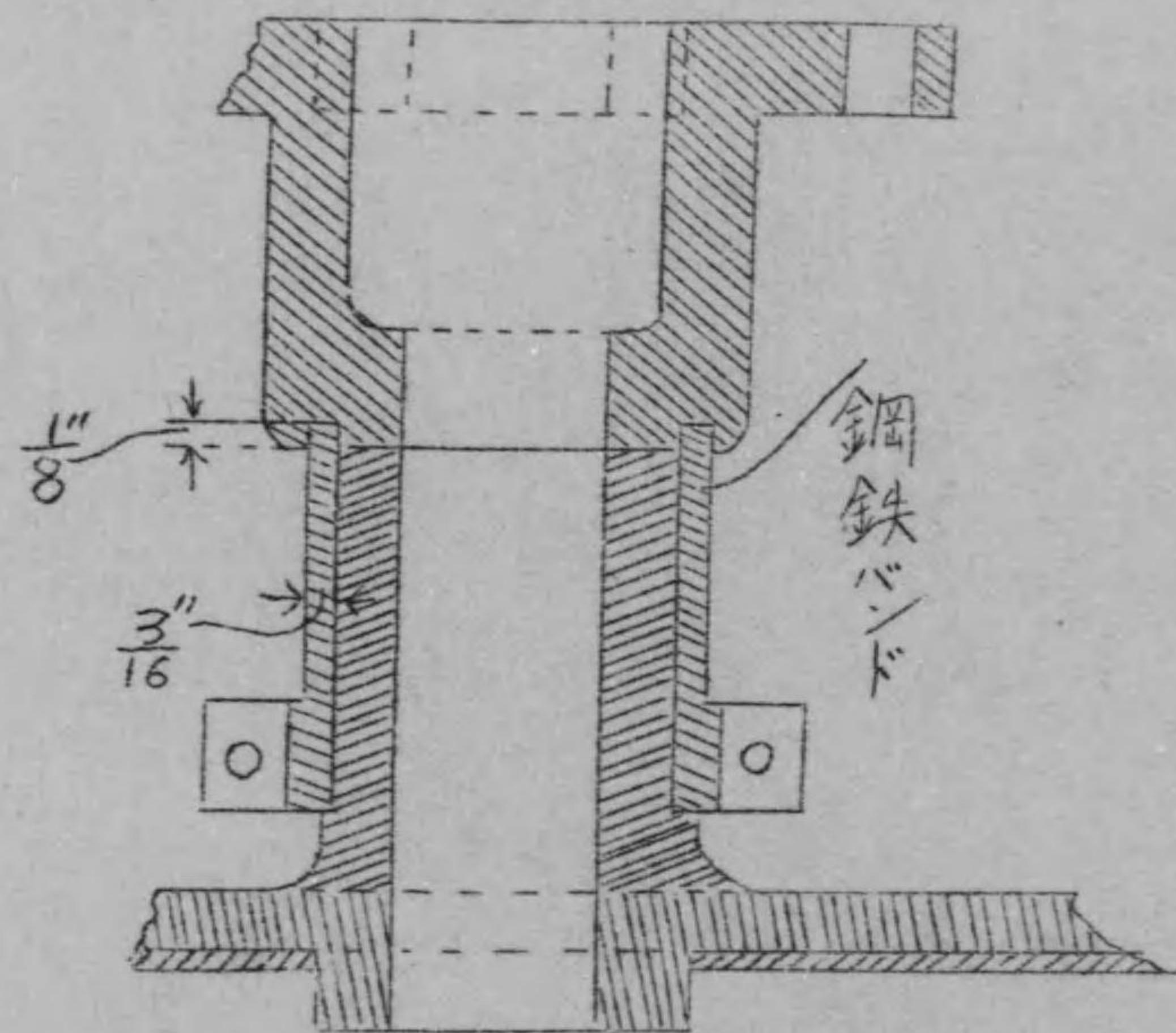


シリンダーボックス修理

(50)

FIG 21

シリンダージョーナル修理



(51)

ク廻ル

シリンダーボックスアレーノ車軸ノ
片減シタルモノハ之ヲ却リ取り別ノ
車軸ト入替フベシ

又アレーノリムヲ片減リヲ生ジ
タルモノハ余リ是ダクナラザル以前ニ具
原因ヲ調査シリムノ表面ヲ仕上ゲ
リムトシリンダージョーナルガ常ニ正
シク接シ軽ク回転セシムル様
注意スベシ

シリンダーアレーノ左右ノ径ニ不同
アルモノハ削リテ全径ノ度ニ全ナルモノト
スベシ

シリンダーボックスボールモ正シキモ
ノヲ用ヒ、同シスタッドハボックスア
レーノ車軸ト平行ニスベシ

(52)

(2) ドライング シリンダー

シリンダー ボックス フォーラー 上 = 載
せ表面、各点ヨリ垂振ヲ下ニ標準
線 = 合ハス

シリンダーノ上面 = 定規ヲ置キ
水平ヲ檢ス

手ニテ廻ハシ輕快ノ度及ビビ
ランスノ可否ヲ調べ修正ス

シリンダージョーナルノ廣減シタルモノ
ハ之ヲ正同ニ削リ鋼鉄製ノグレン
ユヲ嵌込ムベシ

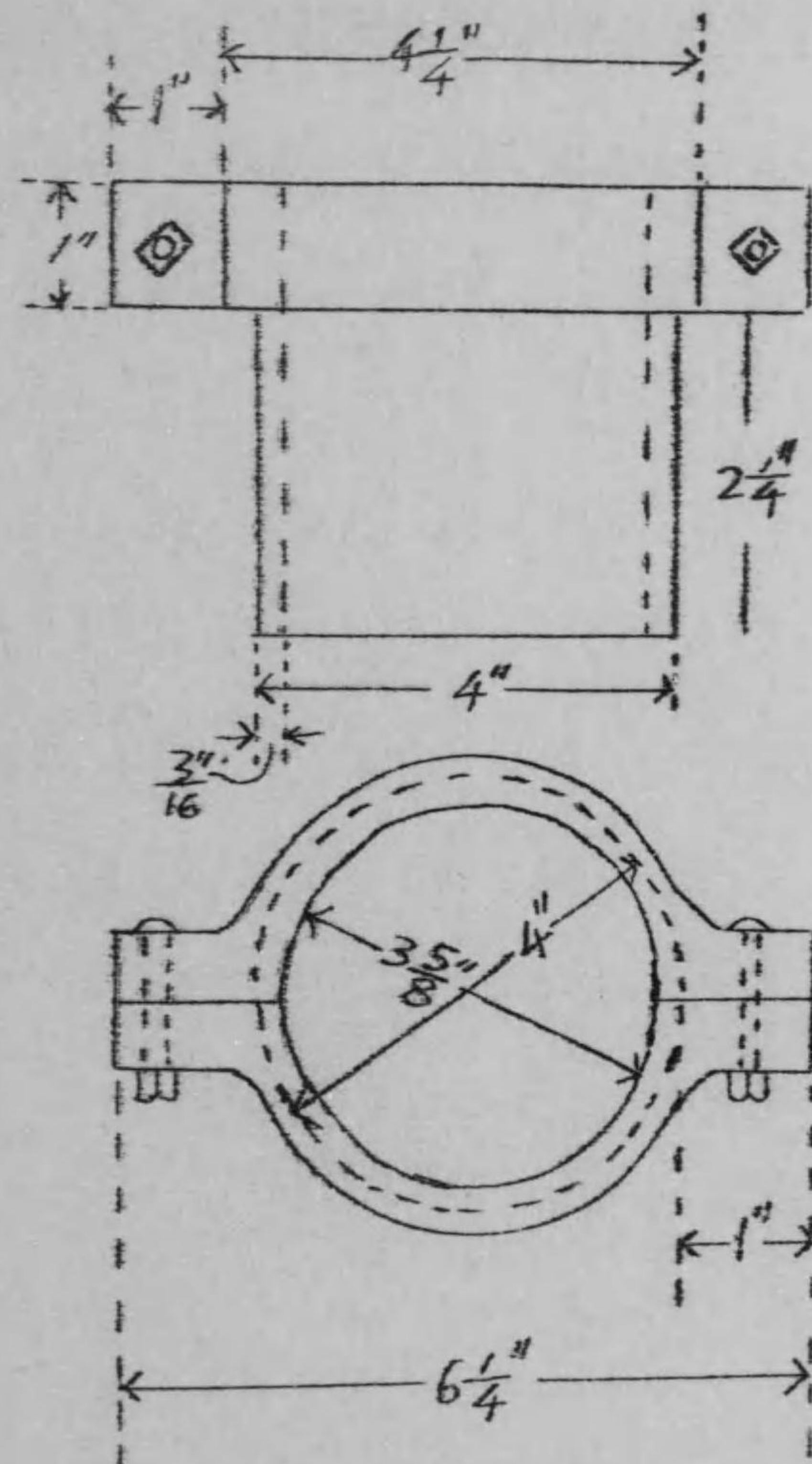
(FIG 21. 22) 参照

尚ホ廣減防止策ニテ最初ヨリグ
レンユヲ嵌込シ置ケバー層安全ナリ

シリンダージョーナル全クフォーラー及ビ
ボックス等何レヲ修理シタル場合モ

(53)

FIG 22



[54]

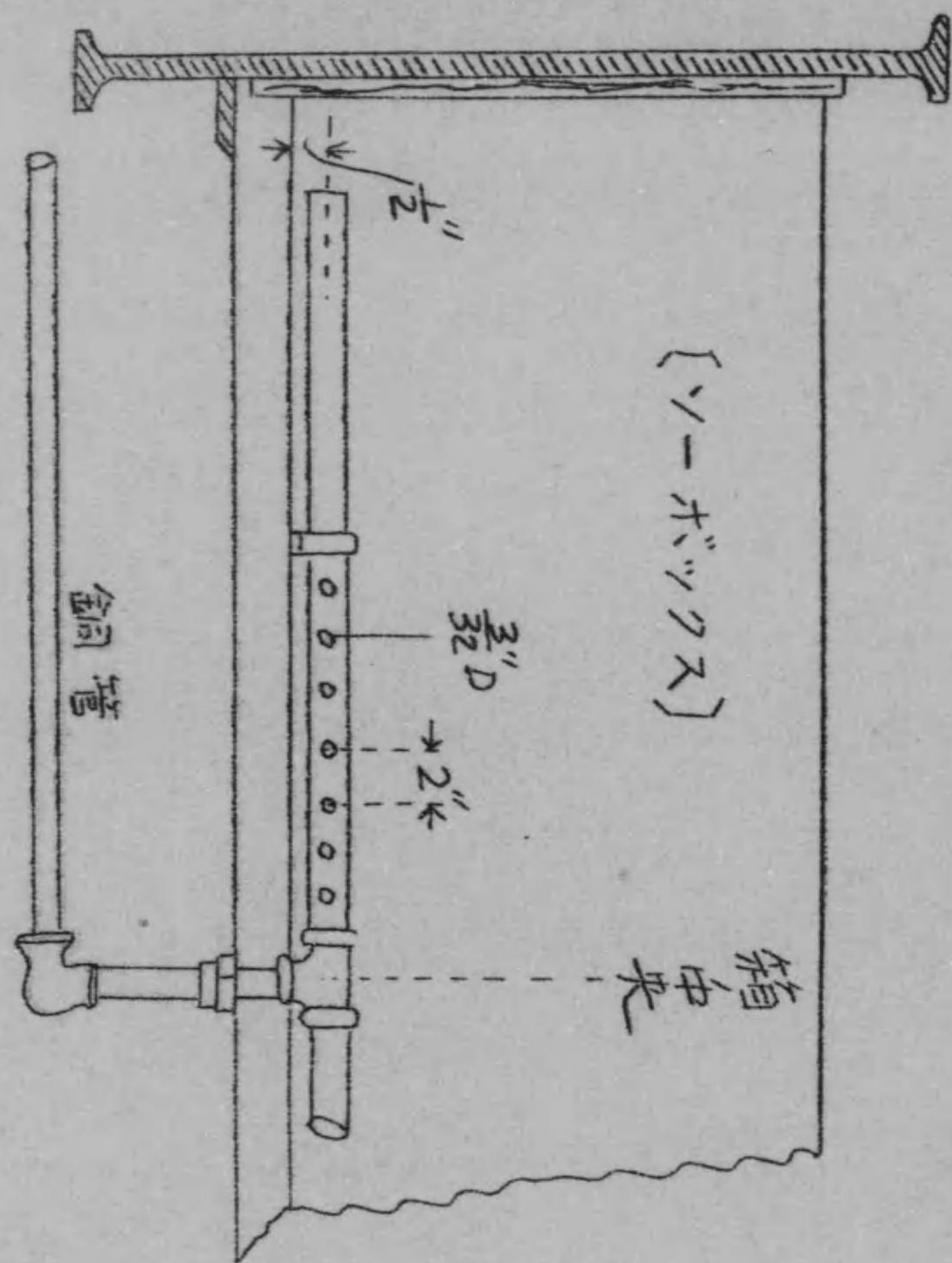


FIG 23

[55]

シリンダー、水平ヲ狂ハセガル様特ニ
細心、注意ヲ要ス

シリンダー、表面ニ凸凹ヲ生ジタ
ル場合ハ直チニ修理スベシ

尚ホ三月ニ壹回ノ害防ヲ以テシ
リンダー、マンホールヲ明ケシボルト、ワセ
タルモノドレインバケツトノ状態又ハ
バンドノ斜脱、ドレイン、残留ヲキ
ヤ等、内部ノ状態ヲ精細ニ取調ベ
支々手入レヲ施ス可シ

エーヤインレットバルヴ及セーフ
ターバルヴ等ハ保全ノ際ハ勿論平
素モ手入レテ機能ヲ完全ナラシムベ
シ

{3} クーリングファン

此羽根板ハ三枚共、目方及大サ

[56]

等 = 不同 + キヲ要ス

(4) レトップ⁰4ンローラー⁷

レシリンダー⁷間ノレ4ンローラー⁷ハレビ
デッドローラー⁷ノ如クレガラスロッド⁷ヲ
取付クルハ便ナリ

(5) レスチームトラップ⁰

毎日運転中 = 機能ヲ檢スベシ、
各レトラップ⁰ = 別々ノレエキジーストパイプ⁰
ヲ取付ケ、之レ = レスリーウエーテストコッ
ク⁷ヲ取付クベシ、而シテレバルウ⁷又ハ
レント⁷ノ不良ナルモノハ直チニ取替フベ
シ

(6) レレダユシング⁰バルウ⁷

豫備品ヲ置キ修理ヲ急ラサル
ヲ要ス

いゝ

第参章 糊箱部分

(1) レソ⁷ボックス⁷

レソ⁷ボックス⁷ヲ新調スル場合ニハ
楨又ハ杉ノ赤味ヲ用ヒレキヤビチ⁷ボ
ックス⁷ハ成ルベク深ク作り丈夫ナル
蓋ヲ用フベシ

レミッド⁷フェーザ⁷ノ両立端 = 近ク糊
ノ通路トナルベキ穴ヲ細長ク明け中
央部へレボード⁷シタル糊ヲ成ルベク長
時間煮沸シ得ル様ニスベシ

尚ホ糊煮沸ノ際(主ニ交代翌
朝又ハ毎朝始業ノ際)糊が飛散
シテレガラスローラー⁷面 = 附着スルヲアル
コトヲ言テ該ローラー⁷面 = 平行 = 適当
ナル本ヲ打付クベシ

又レソ⁷ボックス⁷ヲ取付クルベキ、

「フレーム」が余り=高く作業困難ヲ感スル場合=ハ「フレーム」ノ脚ヲ切り縮ムベシ

(2) 「フキード」パイプ

給糊管ヲ「ソーボックス」ニ引込ム前=「サイズボイラー」ヲ通過セシムルハ「キヤビターボックス」ノ前面ノ中央底面=近キ所ヨリ「パイプ」ヲ引入ル

「ボイラー」ヲ使用セザルハ「キヤビターボックス」ノ前面ノ中央上部=近キ所ヨリ引入ルベシ

何レノ場合=モ「フロートローラー」ヲ使用スル事必要ナリ

尚送糊用銅管ハ半年=1回ハ廻ハス事トス

(3) 「ボイリング」パイプ

「ソーボックス」内ノ三本ノ「ボイリングパイプ」ハ何レモ「ブランチパイプ」ヨリ別々=「ソーボックス」ノ下方=導キ図(FIG 23)ノ如ク「ソーボックス」ノ中央部ヨリ「ヒース」ヲ以テ「ソーボックス」ノ底部=沿ヒ左右=分ツ可シ

「スチーム」ノ噴出スル穴ハ約2吋ノ間隔=各「スチームパイプ」ノ両側=於テ「ジグザグ」=穿テ底面ト平行=「スチーム」ヲ噴出セシムベシ、穴ノ直径ハ $\frac{3}{32}$ 位が適當ナラン

「ブランチパイプ」ヨリ以下ノ「パイプ」ハ「バルブ」ヲ閉鎖セタル後「パイプ」内=「バキューム」ヲ生じ、糊が進入スルヲ以テ是非トモ銅管ヲ使用スベシ

(100)

(FIG 24.23) 参照

(4) スクレーピングローラー

此、ローラー、両端（ブラケット=当ル部分）、広減ヲ防クタメ「ブラケット」ノ内面=真鍮板ヲカシメ付クベシ

(FIG 25 A) 参照

而シテローラーノ間隔ハ仕事ニ差支ナキ範囲ニ於テ狭クシ成ル可ク該ローラー、前後動カヲ防グベシ

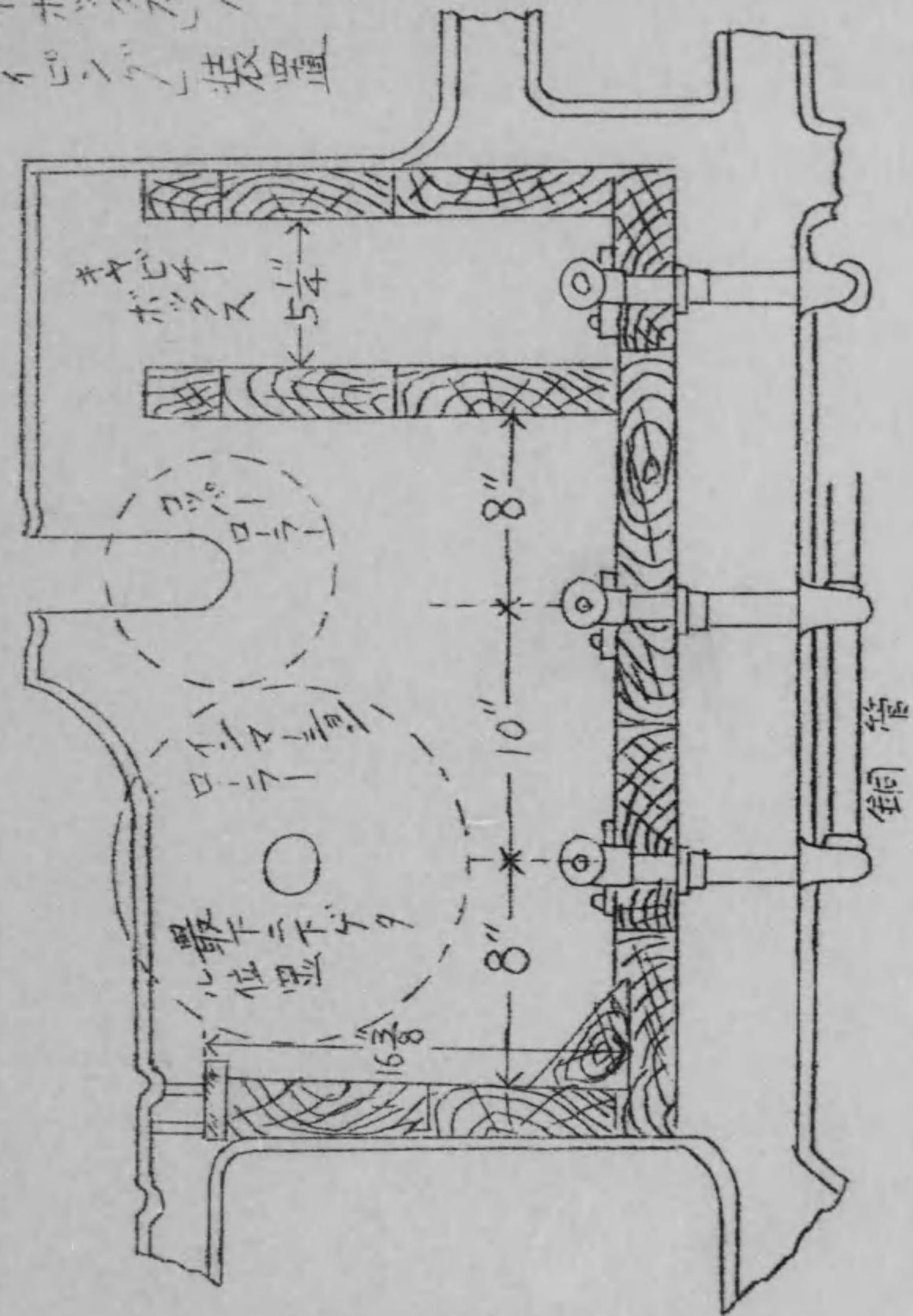
尚ホローラー、表面腐蝕セルモノハ其部分ヲ削リ取り「ペンキ」ヲ塗りテ金青止メスベシ

表面仕上=ヨリ起リタル減量（目方）ヲ補フ=ハローラーエンドヲ削リ取り減量=相当スル鉛ヲローラーノ左右両端=等分=入レ中間=ハ石少ヲ填

(61)

FIG 24

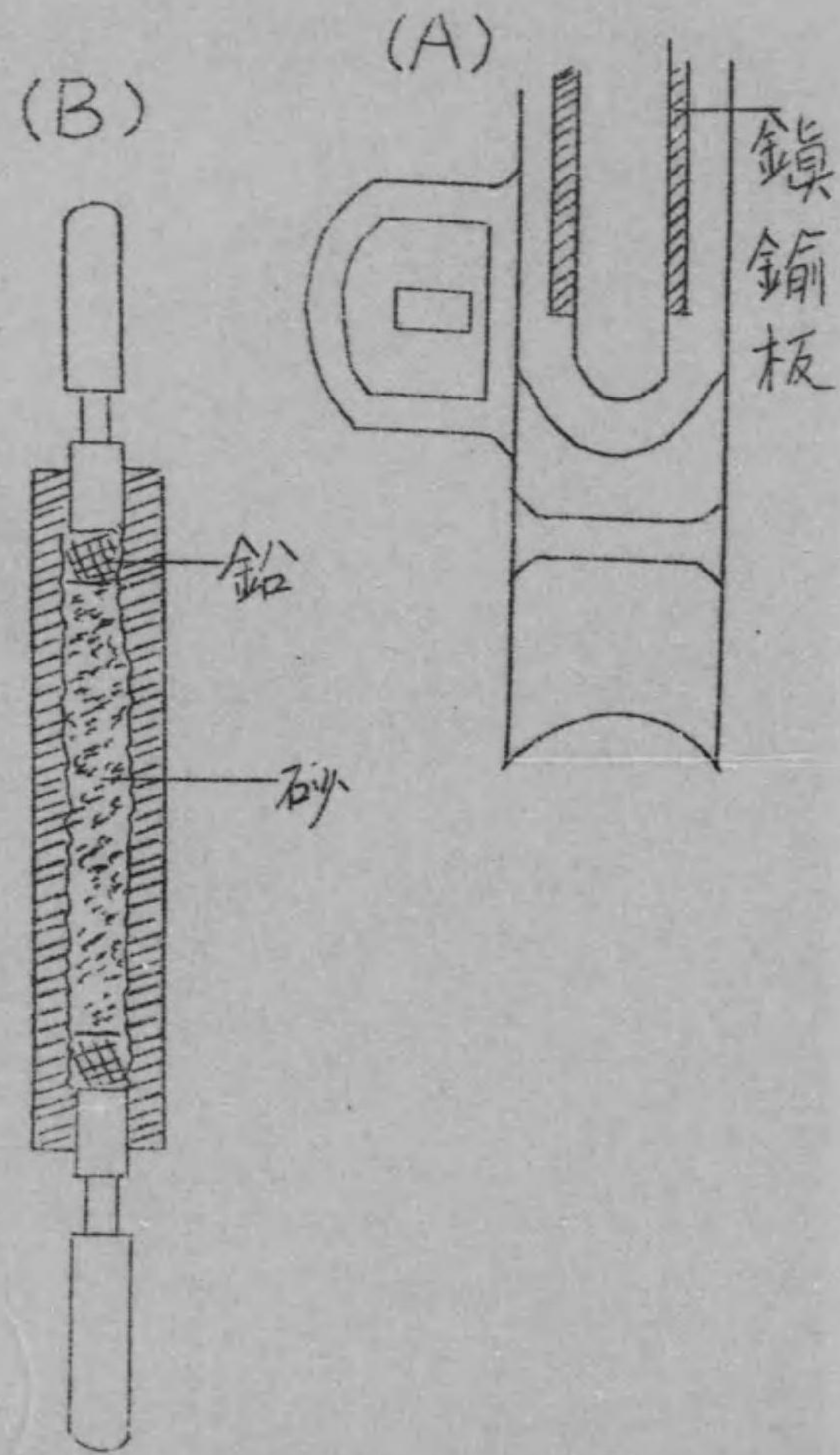
「スクレーパー」
「ペンキ」



(62)

FIG 25

スクリュー・ジンコロラー



(60)

亮シエボムバーヲ焼筋メスベシ
(FIG 25 B) 参照

(5) コッパーローラー

ローラーノ位置及水平ヲ正確ニ
保タシメ且ツ回転ヲ円滑トラシムル
タメニフリクションローラー(径10")ヲ
擦レバテスタルヲ使用スベシ

(FIG 26, 27) 参照

ローラーノ表面ニ若シキナイフ疵等ヲ
生ジタルハ直チニ手入スベシ

(6) インマーシヨンローラー

ローラーノ面ニ取付ケタル「ガラスロッド」
ノ弯曲セルモノ、及ビ「ロッド」ガ「減」シテ
細クナリ、カシメ釘ノ突起セルモノ、又ハ
カシメノ弛メルモノ等ハ直チニ手入スベ
シ

(64)

尚ローラーシャフトノ両端弁=ブシユ
ノノ減セルモノハ手入ヲ要ス

即チ $\frac{3}{4}$ ノシャフトノ両端ヲ $\frac{3}{4}$ ノ径ニ削
リ之ニ外径 $\frac{1}{4}$ ノ真鍮ノキャップ
ヲ堅ク打込ミ一方ブシユノノ減セル
モノハ取替フベシ

(FIG 28)参照

(7) サイドシャフト

ノシャフトノノ損セルモノハ当リヲ替ヘ
ノブラケット=ブシユヲ嵌込ムベシ

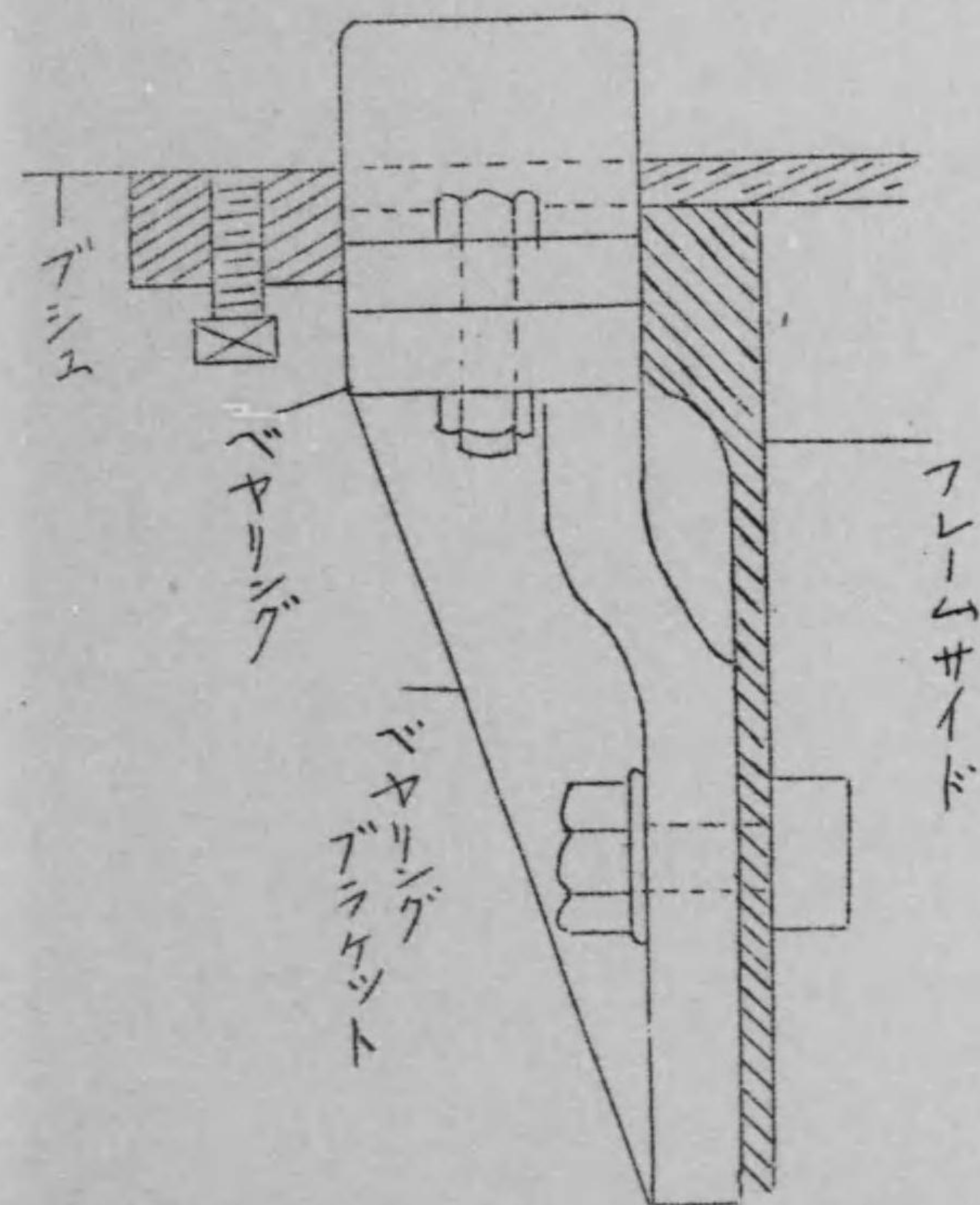
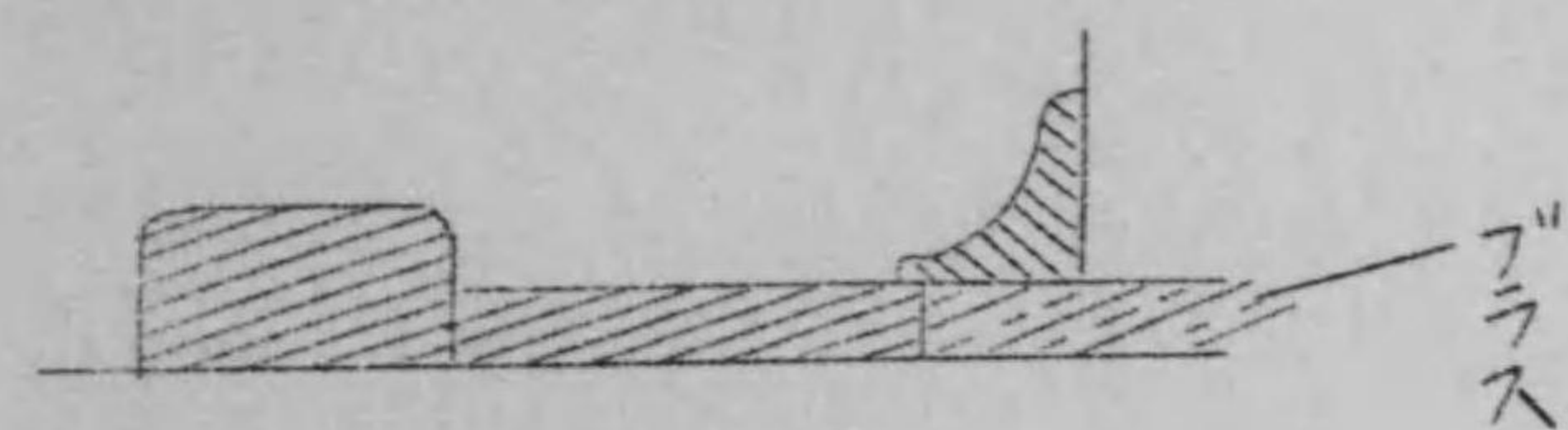
(注意)

サイズ $\frac{1}{2}$ ノパイプノハ長ク使用セル
内ニパイプノ底部ニ早ク腐蝕シパイ
プノ寿命ヲ短縮セシムルヲ以テ年1回
乃至2回ノ割合ニ内部ヲ充分ニ清掃ス
ルト全時ニ約 $\frac{1}{2}$ 回ノパイプヲ廻

(65)

FIG 26

コッパローラーサイドベヤリング



(66)

FIG 27 コッパローラーペデスタル

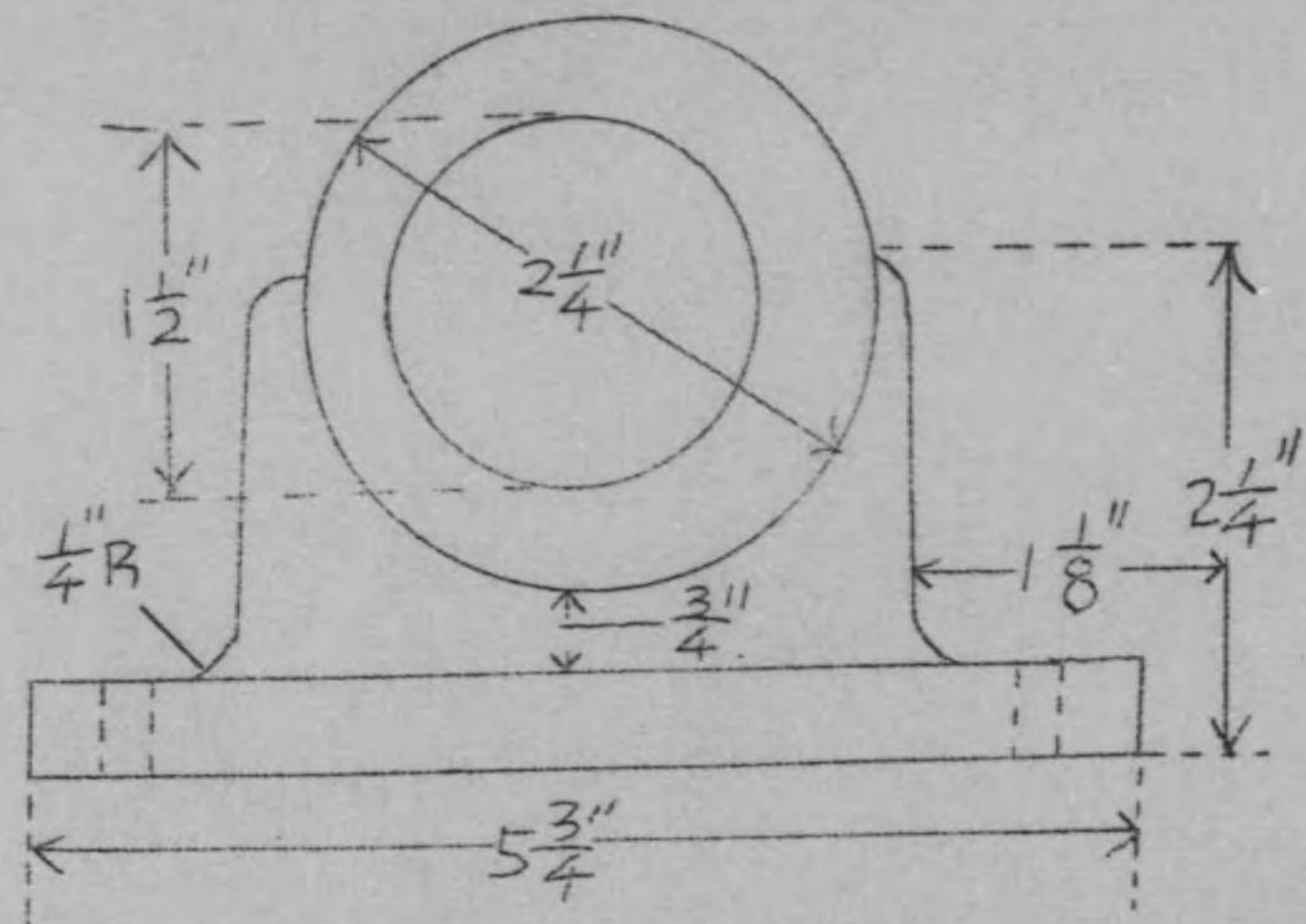
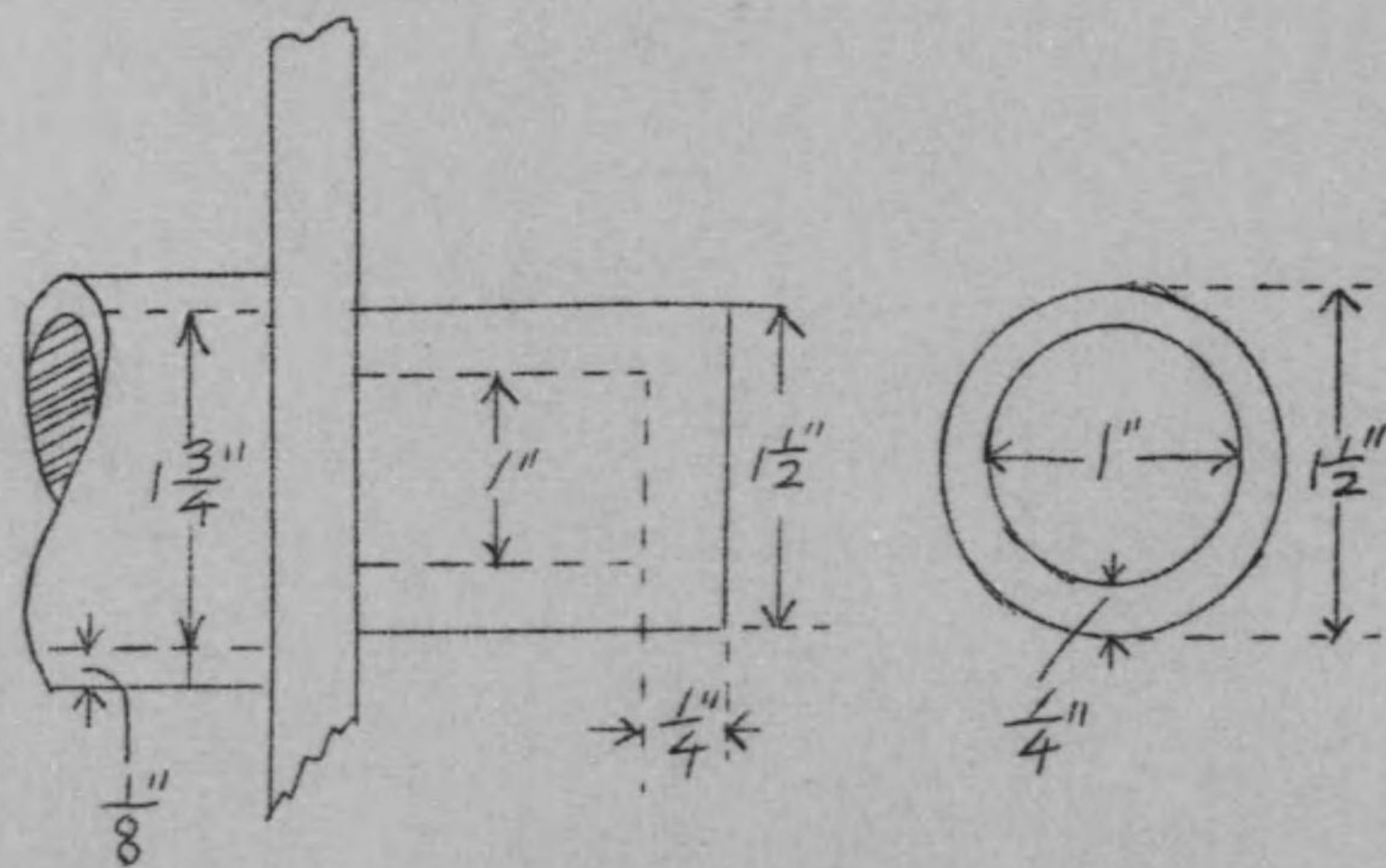


FIG 28 イムマシヨノローラーシフト



[67]

ハシ底部トナルベキ位置ヲ順々ニ
変更スベシ

[68]

第四章 レームクリーン

第壹章 = 図示シタル地形 (FIG 2)
= 各レームプレートヲ水平ニ置キレーム
ンデニオンボルトニヨリテ位置ヲ定ム
レームクリーンサイドヲ置キレームスライドブラケッ
トノ取付クベキ各個所ニ於テ左右ニ定
規ヲ渡シ水平ヲ檢ス、全時ニ各々
ニ左右ノ傾斜ナキ様檢シ、不可ノキ
ハレームクリーンサイドノ底部ヲ削リテ直ス
レームスラーヲ3ヶ所ニ使用シレームヲ安
定ス (FIG 12) 参照

レームスライドブラケット及ビレームトップブラ
ケットヲ取付ケレームパースレーム受ケ
ノ所ニ車軸ヲ渡シ水平再調ス、
不可ノキハレームスライドブラケットノ裏面ヲ
削リテ直ス

[69]

レームトップブラケットノ位置ハレームロール
ニヨリ多少差異アレニ定規レームヲ
仕掛ケタルキハ其中心線ヲクリーンサ
イドノ中心線ト一致セシムベシ

レームトップブラケットハレームパースレームノ
レームシャフトノ廣減ヲ防グタメ真鍮ノレーム
ユヲ嵌込ムベシ

(FIG 29) 参照

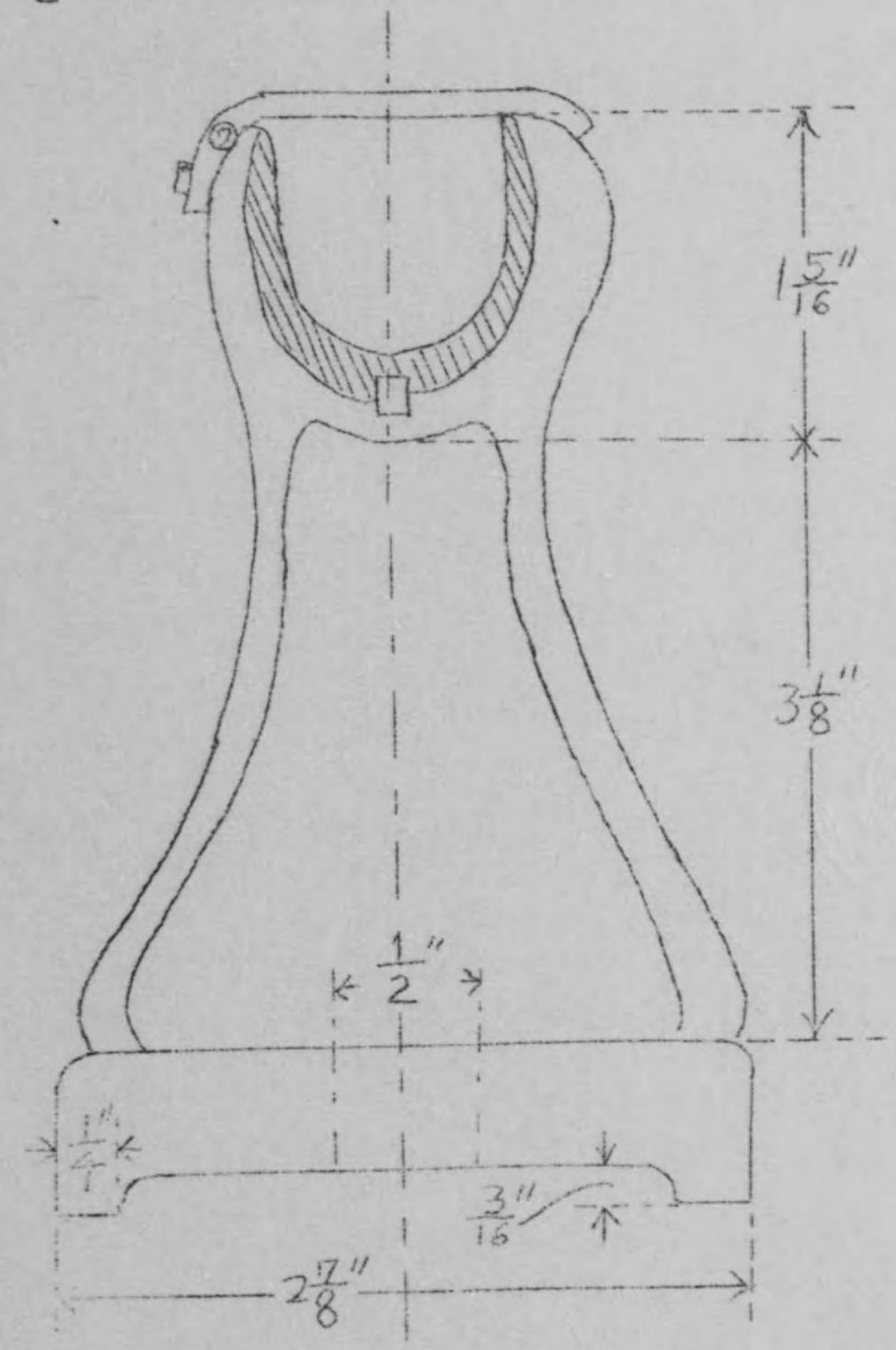
(注意)

レームクリーンサイドノ前立端トレームボックス
サイドノ後立端トノ距離ハ一定ス
ル必要ナケレニ、此間隔ハ切替
ニ差支ナキ程度即チ2呎位ア
レニ可ナルベシ

(71)

FIG 29

レームクリートツブブラケット



糊附機用具

第壹章 運轉用具

(1) 機械=附属スルモノ

(1) 广擦用羅紗
(豫備1組)

(2) サイジングネル
(豫備1巻分)

(3) 全上表巻木綿 (若干)

(4) 割箒

(5) ビーム用バート

(6) ビーム用帯皮

(7) パッキング類

(イ) キングパッキン

(ロ) アマゾン

(ハ) 石綿 (板、紐)

[74]

(ニ) ウォーターパッキング

(8) 運転用ベルト(各種)

(9) 綱金又は綱革

(10) ロープロ類

(2) 機械=附属セガヒモノ

(1) ゴムホース

(2) 麻ホース

(3) ナイフ

(4) 如露

(5) 油差

(6) 綱針

(7) 皮ポンチ及び台

(8) 掃除用具(各種)

第二章 掘附及保全用具

(1) 金工具

(1) マンリキ

(2) 並行マンリキ

(3) 鉄管マンリキ

(4) 丸バシ

(5) 平バシ

(6) 丸ベシ

(7) 当ベシ

(8) 角ベシ

(9) イザリタガネ

(10) タツプロ

(11) 金床

(12) 築床

(13) 先手ハンマー

(14) 片手ハンマー

{76}

- (15) トモタガネ
- (16) エボシタガネ
- (17) 平タガネ
- (18) コウキンタガネ
- (19) センダークロム
- (20) ダイス
- (21) タップレンチ
- (22) ネジタップ (大小各種)
- (23) ガスタップ
- (24) ガス管螺型
- (25) パイプ切り
- (26) 金鋸
- (27) キリバシ
- (28) パイプレンチ
- (29) チェントング
- (30) ハンドホール

(31) 金上取付装置

(32) キリ

(33) アテガネ

(34) 真鍮ハンマー

(35) 金テコ

(36) 豆ジャッキ

(37) コテ (各種)

(38) キレヤケ

(39) 手マンリキ

(40) スパナー

(41) ボックススパナー

{2} 規矩及測定器

(1) マルパス

(2) アナパス

(3) コンパス

(4) カタパス

(70)

- (5) スコヤー
- (6) 台スコヤー
- (7) 定盤
- (8) サゲフリ
- (9) 水平
- (10) 巻尺
- (11) 吋尺
- (12) 水系
- (13) 墨壺
- (14) トースカン
- (15) ストレツチ

[3] 雑用具

- (1) チェンブロック
- (2) パイプ歪調整器

(完)

奥付

版權所有

大正十年一月二十日 印刷
大正十年一月三十日 發行

著作發行兼印刷人

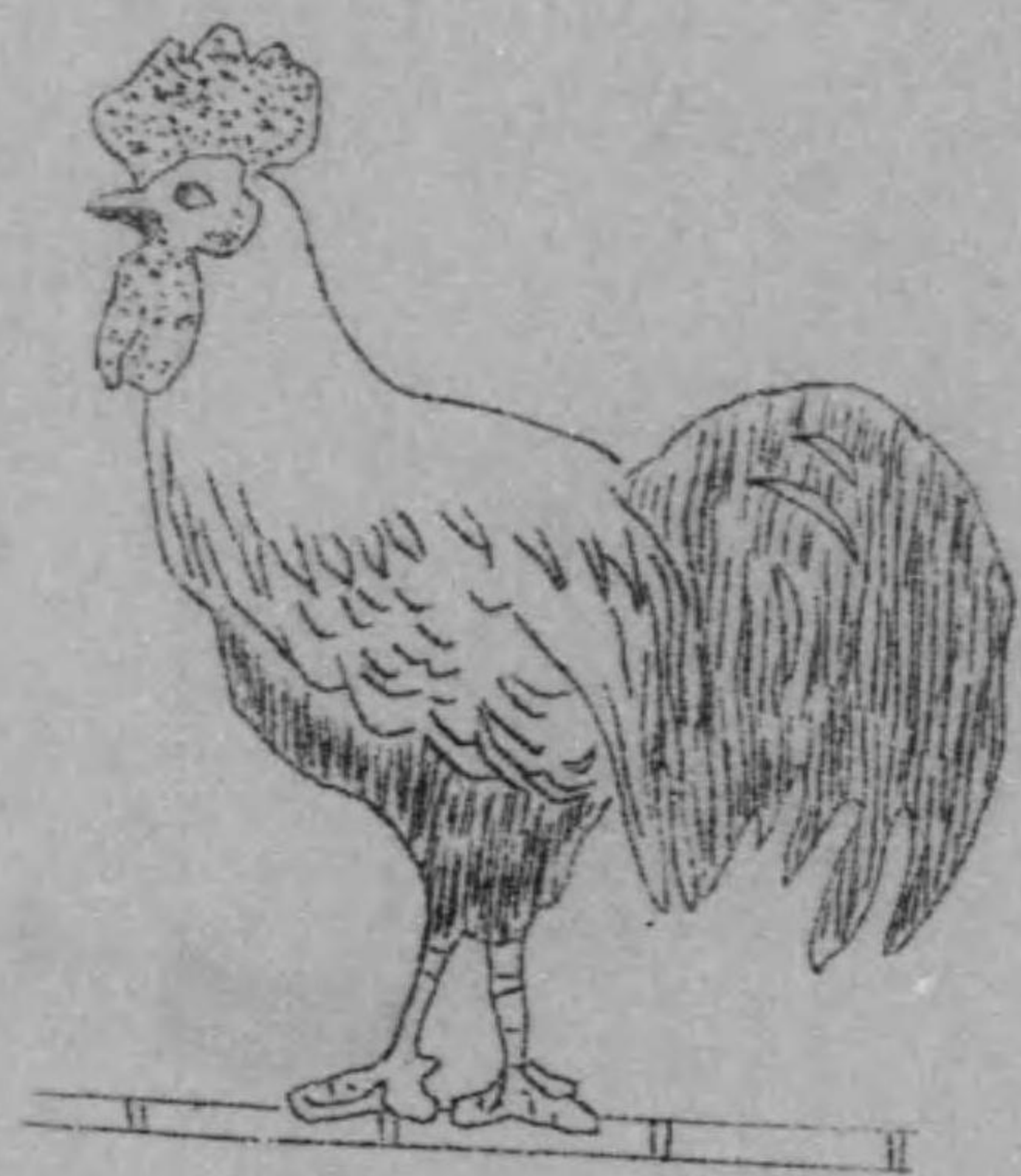
佐野寅造

發行所

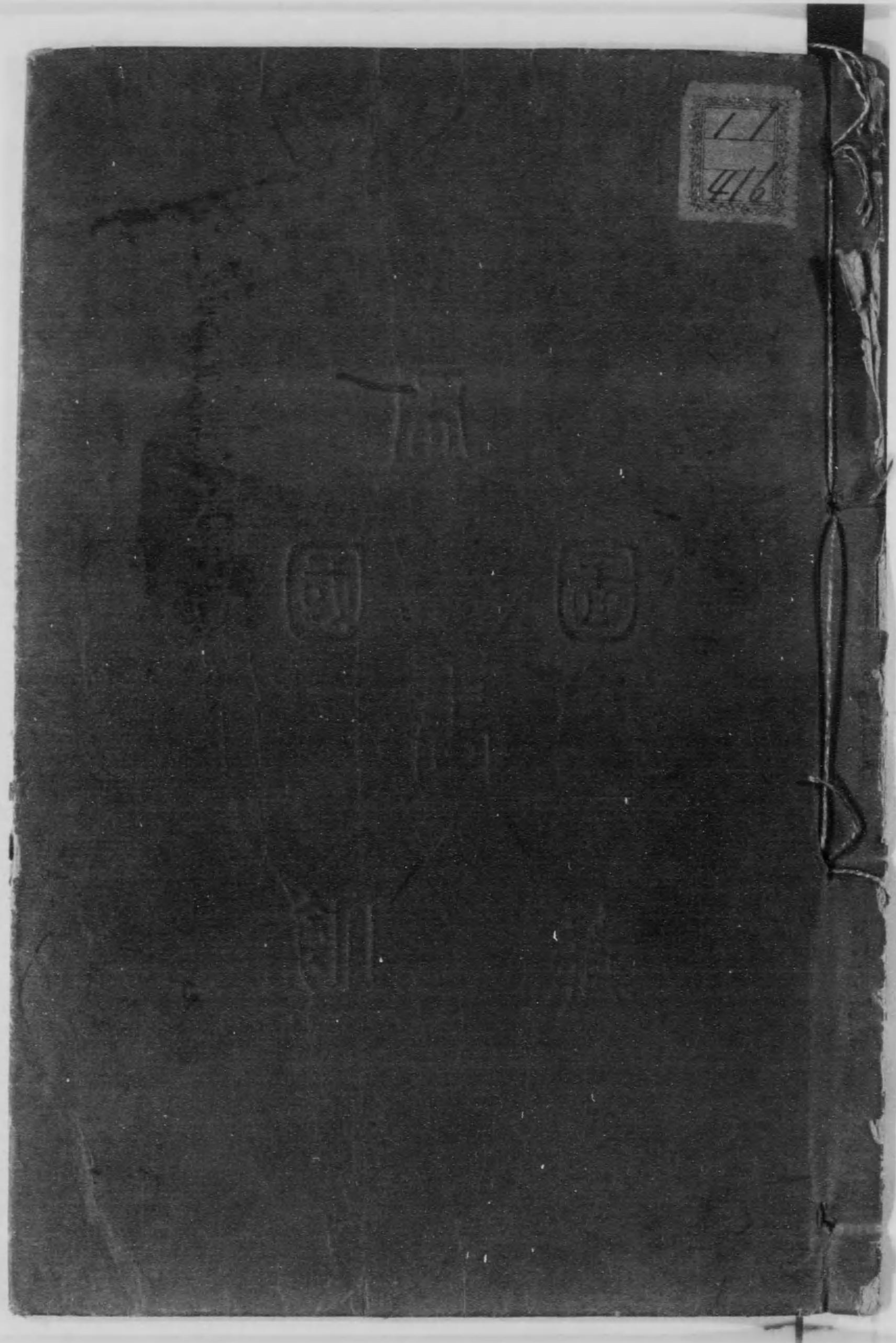
大日本紡織學會
大阪市南区難波元町一丁目三七
振替口座大阪五貳壹六六番

糊附極

非賣品







終